

会長のページ 成育基本法の制定に向けて	稲倉 正孝	3
日州医談 後発医薬品, いわゆるジェネリック医薬品	峰松 俊夫	4
随 筆 どこまで同意と説明すべきか	谷口 二郎	6
エコー・リレー(459)	平塚 正伸, 八尋 陽平	8
宮崎大学医学部だより(内科学講座免疫感染病態学分野)	長友 安弘	14
国公立病院だより(独立行政法人国立病院機構 宮崎病院)	江崎 公明	15
専門分科医会だより(産婦人科医会)	濱田 政雄	16
メディアの目 備えあれば	今井 清満	17
診療メモ ABC 検診で胃がんのリスクをチェック!	尾上 耕治	74

あなたできますか?(平成 24 年度医師国家試験問題より)	9
宮崎県感染症発生動向	10
各都市医師会だより	12
各種委員会(健康教育委員会)	19
九州医師会連合会 第 33 回常任委員会	20
九州医師会連合会 平成 25 年度第 1 回各種協議会	22
第 63 回全国医師会医療秘書学院連絡協議会定例総会	40
薬事情報センターだより(318 新薬紹介(その 67))	42
ベストセラー	43
日医インターネットニュースから	44
理 事 会 日 誌	46
県 医 の 動 き	51
会員の異動・変更報告	52
ドクターバンク情報	55
行 事 予 定	59
医学会・講演会・日医生涯教育講座認定学会	61
宮大医学部学生のページ(第 9 回清花祭)	76
あ と が き	80

~~~~~

|                                        |    |
|----------------------------------------|----|
| お知らせ 「新春随想」原稿募集 .....                  | 18 |
| カット, イラストの募集 .....                     | 21 |
| 宮崎県医師会医療情報コーナー .....                   | 39 |
| 平成 25 年度日本医師会認定医療秘書養成制度卒業生求職のお願い ..... | 43 |
| 宮崎県ドクターズテニス大会(都城)開催のお知らせ .....         | 53 |
| 日州医事へのご意見・ご感想をお待ちしています .....           | 58 |
| 郡市医師会への送付文書 .....                      | 78 |

## 医師の心得

1. 私たちは、皆さまの健康状態をよくお聞きします。
2. 私たちは、皆さまに最善の医療を提供できるよう心がけます。
3. 私たちは、皆さまに医療内容をよく説明し、一緒に医療を行います。
4. 私たちは、皆さまの「知る権利」・「知りたくない権利」を大切にします。
5. 私たちは、皆さまの健康維持と医療の質の向上に尽くします。

公益社団法人 宮崎県医師会

(平成 14 年 3 月 12 日制定)

〔表紙作品：写真〕

### 樹形模様

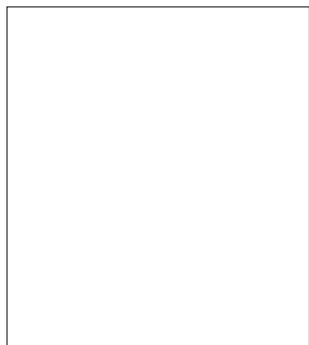
晩秋の八千穂高原は、葉を落とした唐松林が延々と続くくすんだ茶色の世界だった。

夕刻、太陽が稜線にかかる頃、樹林帯が少し赤みを帯び、若木の緑葉がリズムカルに浮き上がって印象的だった。

新富町 丸 田 英 夫

## 会長のページ

## 成育基本法の制定に向けて

いな くら まさ たか  
稲 倉 正 孝

平成 25 年 10 月、日本医師会周産期・乳幼児保健検討委員会より、「成育基本法の制定」の必要性についての答申が提出された。日本小児科医会は平成 5 年から、子どもの保健・医療・福祉の向上のための「小児基本法」制定に向けて運動を展開してきたが、政治的環境が整わないため審議が中断していた。昨年、日医に横倉義武会長を中心とする新執行部が誕生し、議論が再開された。今回の答申は、平成 20 年 1 月の日本医師会小児保健法検討委員会(プロジェクト)答申案をベースとして、あらたに成育基本法として制度の骨格・理念を示したものである。「成育基本計画」に盛り込まれる事項の具体的な実施方法については、引き続き検討すべきであるとしている。なお、委員会には本県医師会常任理事をされていた故佐藤雄一先生が委員として、情熱を持って参加されており、時折、断片的であったがその内容を嬉しそうに話されていたのを思い出す。先生のご冥福を衷心よりお祈りする。

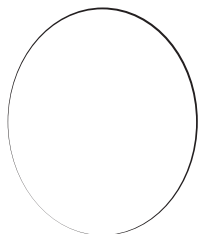
成育基本法は、我が国の次世代を担う子どもが心身ともに健やかに成長していくための、養育者、国・地方公共団体及び医療関係者の責務を明らかにし、子どもの健康を保持増進することを目的とする。「成育過程」とは、胎児期、新生児期、乳幼児期、学童期、思春期および成人期に至る人の成長周期のことである。「成育医療」とは、成長過程で生じる様々な健康問題等を包括的に捉え、適切に対応する医療のことである。国の責務として、成育医療等が健全かつ円滑に実施されるよう財政上の措置等を講じ、成育過程にある者の健康の増進及び福祉の向上を図るため、成育基本計画を策定し、都道府県が医療計画を定めるに際しては、成育基本計画の内容に配慮しなければならないとしている。

成育基本計画に盛り込むべき事項として次の様なものが挙げられている。我が国では、人体の仕組み・人の心と体の病気・人の遺伝等に関する生命・健康教育などの内容の量と質は国際的に見て極めて貧弱であるので、生命・健康教育の充実を図る必要があるとしている。社会、職場における子育て、女性のキャリア形成のための支援体制の構築、周産期母子健康診査と保健指導の充実、周産期医療体制の充実(例えば、臨床的に有効性が示されている胎児治療を社会保険診療の対象とする、新生児聴覚検査の全例導入など)、先進国の実施状況からはるかに遅れているだけでなく国際標準にまで達していない予防接種体制の充実を図る必要があるとしている。

多くの先進国では、年齢、性別、障害による差別をできるだけ少なくし、子育てのためにふさわしい環境を整えてきた。子育てを「次世代育成のための社会全体の課題」としてとらえ、社会的連帯の精神によって、母子の保健から医療まで幅広くその権利を保障している。安心して、女性が妊娠・出産し、親が子育てを行い、子どもが地域・社会の中で健やかに成長し、次の世代を生み出す健康な成人に育っていくことが保障される社会を形成することは極めて重要な国家的課題である。成育基本法の制定はその第一歩である。

(平成 25 年 10 月 30 日)

## 日州医談



## 後発医薬品，いわゆるジェネリック医薬品

理事 <sup>みね</sup>峰 <sup>まつ</sup>松 <sup>とし</sup>俊 <sup>お</sup>夫

はじめに

私が十数年前に医学博士をとった論文は抗ヘルペスウイルス薬のアシクロビルに関するものでした。アシクロビルの先発医薬品は「ゾビラックス」です。最近になってアシクロビルの後発医薬品，いわゆるジェネリック医薬品がゾロゾロと出てきました(なので後発医薬品をゾロとも言います)。知っているものだけで十数種類近くあります。剤状も本家のゾビラックスとは異なっていて，バナナ味シロップや内服ゼリーになっているものがあります。

これらの後発医薬品の効果はゾビラックスと同じだろうかと思い，ちょっとした確認実験をしたことがあります。結果だけいえば，ゾビラックスと後発品の効果は同じではありませんでした。その理由の考察として調べたことを簡単にまとめてみたいと思います。

後発医薬品とは

後発医薬品は『医薬品の有効成分に対する特許(物質特許)が切れた医薬品で，他の製薬会社が製造または販売しているもの』となっています。簡単に言えば，先発医薬品と主成分が同じ薬です。

最近ではコマーシャルのせいか，後発医薬品よりもジェネリック医薬品(Generic drug)と言った方が一般の方に理解してもらえます。薬理学において generic name は一般名を指しています。つまり，ジェネリック医薬品とは一般名で表した医薬品ということです。

後発医薬品は安定性試験，溶出試験，生物学的同等性試験を実施して，先発医薬品と統計的に差がないことが証明されれば承認されます。

この生物学的同等性試験とは，健常人や動物に先発医薬品と後発医薬品を投与し，薬物血中濃度の推移を比較して，両者での統計的な差の有無を調べる試験です。この試験で後発医薬品が先発医薬品と同等であれば，作用や薬理効果などの有効性に問題がないと判定されるのです。

ただし，統計的な差がないというのは，先発品医薬品と±20%の差異であった場合です。プラスマイナスで20%，つまり薬の有効性に関しては40%の範囲で同等品扱いとなっています。

先発医薬品における特許とは

先発医薬品が承認される時には，物質特許，製法特許，製剤特許，用途特許／医薬特許の4つの特許が関係してきます。

物質特許は製剤の本体である有効成分そのものに関わる特許です。製法特許は製造方法や添加物に関する特許，製剤特許は剤形(錠剤，カプセル，粉末，シロップなど)や用法や容量に関わる特許，用途特許／医薬特許はどんな疾患に利用できるかの効能効果に関する特許です。

特許は出願してから20年間有効ですが，製造・販売承認に時間がかかる場合には最長で5年間の延長が可能です。先発医薬品の特許出願から20年～25年が経過して物質特許が切れたもの，すなわち有効成分が自由に製造できるようになった薬品が後発医薬品の候補となります。

後発医薬品と先発医薬品はどこが違うのか

前述のように後発医薬品は、先発医薬品の物質特許の期限が切れた医薬品です。他の製法特許、製剤特許、用途特許／医薬特許の期限が切れたものとは限りません。

もし、製法特許の期限が切れていなければ、同じ添加物を後発医薬品に加えることはできません。当然、薬品の吸収速度が異なってくる可能性があります。また、製剤特許の期限が切れていなければ、先発医薬品と同じ剤形にすることができません。表面のコーティング方法等も異なってきます。用途特許／医薬特許の期限が切れていなければ、同じ成分の疾患であっても利用できる疾患等が異なってくる場合があります。

仮に4つの特許の期限がすべて切れていたとしても、後発医薬品に先発医薬品と同じ効果が期待できるかという点、そうでもなさそうです。原因は断定できないのですが、やはりメーカーの製造技術に差があることは認めざるを得ない気がしています。

合わせて、後発医薬品メーカーの情報量の少なさ、特に副作用関係の情報量については痛感することがあります。後発品を使いながらも、先発品メーカーから薬品の情報をもらったことも経験しています。

#### 生物学的同等性試験の問題点

後発医薬品が先発医薬品と統計的に差がないことを調べる検査として、生物学的同等性試験があることを述べました。薬品を投与して一定時間毎の血中薬物濃度を調べる試験です。この試験は経口薬が腸管から吸収されて血中薬物濃度が上昇し、代謝・排泄によって薬物の血中濃度が下がることを前提にしています。

しかし、腸管から吸収されにくい薬物も多々存在します。たとえば、糖尿病治療薬であるボグリボース(バイスン)はほとんど腸管から吸収

されません。また、胃で直接作用するような薬(アルサルミンなど)は、腸管での吸収濃度に大きな意義はありません。

経口薬のすべてが体内に吸収されて、効果を発揮するわけではないのです。にもかかわらず、生物学的同等性試験によって、後発医薬品と先発医薬品の効果が比較され、後発医薬品は承認を受けています。

後発医薬品への変更が推奨されないもの

先発医薬品から後発医薬品への変更を推奨しない医薬品としてどのようなものがあるのでしょうか。メルクマニュアルにその記載があります。米国の薬品について記されていますので、日本の薬に直接当てはめられません。しかし、変更推奨しない代表的な薬品として、マニュアルには抗がん剤やワルファリンが挙げられています。概して言えば、効果が現れる有効濃度域が狭く、少しでも濃度が高くなると副作用が現れやすい薬は先発品から後発品への変更が推奨されていません。

他に患者様自身の問題でなかなか後発医薬品への変更が難しいものもあるようです。例えば、薬にこだわりが強い方、後発医薬品に対して不安を感じやすい方などです。この意味では精神的な疾患の方については後発医薬品への変更が難しいのかもしれない。

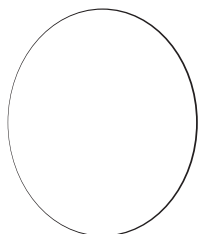
#### 最後に

ここまで、後発医薬品の問題点だけを焦点にしてきたようですが、もちろん後発医薬品にも優れたものがあります。すべてが先発医薬品に劣るわけではありません。

政府の広報等では医療費削減など、後発医薬品の価格に関するメリットのみが大きく取り上げられているように思います。単に価格だけの問題ではなく、後発医薬品の長所と短所を十分に知った上で処方をしてこそ、患者様の健康に真に寄与できるのではないかと考えています。



## 随 筆



## どこまで同意と説明すべきか

宮崎市 たにぐちレディースクリニック 谷 口 二 郎

先日、行きつけの家電量販店から手紙が来た。その中にカードが入っていて、それを持って来店すると、引き替えに粗品を差し上げますという。「そりゃ行かなくちゃ」とケチな私はすぐすっ飛んで行った。すると小鉢が3個組になっている小箱を手渡された。それを開けてみるとそこに注意書きが書いてある。内容は次の様なものだ。

## お取り扱いのご注意

ご使用になる前に必ずお読みください

- ヒビや欠けなどの破損が生じた場合にはただちにご使用をおやめください。
- 本品は耐熱ガラスではありません。急冷・急加熱となるご使用は破損の原因となりますのでおやめください。
- 傷がつきますと破損しやすくなりますので、ガラスどうしあるいは硬いものとぶつけないようご注意ください。
- お飲み物などを入れて凍らせるのはおやめください。
- 本品を積み重ねたり、運搬される際には足元に落としたりしないようご注意ください。
- 電子レンジ、オーブン、食器洗い機などでのご使用はおやめください。
- 内面を洗浄する際に、内面から力を入れてひねり洗いしますと、破損しケガをする場合がありますのでご注意ください。
- 洗浄の際には、台所用中性洗剤を柔らかいスポンジや布につけて洗ってください。研磨剤

入りのスポンジ、金属たわし、クレンザーなどでの洗浄は本品に傷がつく原因となりますのでおやめください。

- ご使用前に必ず洗ってからお使いください。
- 液体を入れて横にしたり逆さにすると液が漏れる事がありますので、ご注意ください。
- フタ部分をつかんでの持ち運びは、ガラスが抜け落ちる場合がありますのでおやめください。

何にもこんなに細々と書かなくても常識じゃないこんなこと…、と思った。

だが米国などでは、濡れた子犬を乾かそうと電子レンジに入れた人がいるという。当然ながら子犬は死に、飼い主は何億円という損害賠償を請求し認められたという。あるファストフード店では、お年寄りの女性がコーヒーを自分の不注意でこぼし、その為火傷をし、100億円近い賠償金が払われたケースもあるというからこんなにくどく書くのは当たり前なのかもしれない。

でもそうなると、例えば果物ナイフを買ったと「これで人を刺すと死ぬ事があります」。車を買う時は「これを運転すると人をひき殺す事があります」。飛行機に乗る際は搭乗口に「この飛行機は墜落することもあります」。ネクタイを買ったら「これで首を締めたら死ぬ事があります」。冷蔵庫を買ったら「この中で寝たら凍死します」。ボールペンを買ったら「これで目を突いたら失明します」。ガムテープを買ったら「これで口を覆

うと窒息する事があります」。脚立を買ったら「これから飛び降りたら骨折する事があります」。パソコンを買うと「個人情報盗まれる事があります」。靴を買うと「激しく走るとアキレス腱が切れる事があります」。テレビを買うと「一日中ぼーっと観ていると痴呆が進む事があります」。デジカメなどに使うSDカードなどを買うと「小さくて紛失する可能性があります」。本を買うと「高く積んでおくと、倒れてケガする事があります」。スマホを買うと「操作しながら歩くと線路上に落下する事があります」。なんて表示しなくてはならなくなるのであろうか。

だが考えてみれば医療も同じだ。

20年位前から、インフォームドコンセント、つまり説明と同意というものが求められるようになってきた。私が医師になった40年位前は、説明というものはしていたが同意というものはあまり意識した事がなかった。だから一方的に説明し、手術なども行う事が多かった。

だが、今は違う。例えば手術をする時、麻酔同意書というものを書いてもらう。麻酔のやり方、危険性、合併症などの説明をする。その後「私は、麻酔について記載されたパンフレットを受け取り、担当医により麻酔についての説明を聞いて、その有効性と危険性について了解しましたのでここに署名致します」と書かれた同意書

にサインしてもらう。

産科の場合は他の科と少し事情が異なる。他の科に比べると断然緊急性が高い。いつ何が起こるか、分からない。例えば医師会病院の場合、入院時、手術・検査等同意書というものを記入してもらう事になっている。緊急のことが起こり、家族を呼んで説明する時間などない事も多いからだ。私自信も手術着も着ずに、ガウンだけして帝王切開したことが何回もある。産科の場合は、あっという間に色んな事が起こる。だから手術にならないかもしれないケースでも、あらかじめ入院時に同意を取っておくのだ。

どうしてここまで説明しないといけないのかと思うかもしれないが、特に産科医療では突然色々なことが起こる。分娩で命を落とす妊婦は、日本国内で今でも年間50人前後。100万件位の分娩があるので、2万件に1人は分娩で命を落とすのだ。だからこそ十分な説明と同意が求められる。

それにしても色々なケースを考えながら説明し、それでも突発的な事が起こると「そんな説明聞いてない」と言われたりする。

将来もっと説明する情報が増え、それを説明するだけで1時間もかかる時代が来るかもしれない。「何とも世知辛い世の中になったものだ」と老医の私はつぶやく。

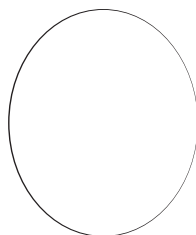
カット

## エコー・リレー

(459回)

(南から北へ北から南へ)

## 天皇陛下と心身医学

えびの市 平塚医院 ひら つか まさ のぶ  
塚 正 伸

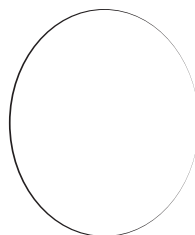
会員の先生方に心身医学を知ってもらうために、この場をお借りして、2005年8月21日に開催された第18回世界心身医学会議開会式での天皇陛下のお言葉を御紹介いたします。

第18回世界心身医学会議が国の内外から多数の参加者を迎え、ここ神戸市において開催されることを真に喜ばしく思います。

世界心身医学会議が初めて開かれたのは1975年メキシコにおいてであり、その6年後臨床医学の中核としての心身医学、その教育・実践・研究ならびに概念をテーマとして第4回の会議が京都で行われました。以来28年後を経て再び日本でこの会議が催されることになりました。病む人の病状を心と体の両面から総合的に把握し、全人的な医療のあり方を求めるという心身医学の考え方はその間に医学および医療の他の専門領域に広がり、最近では臨床各科においても共通の理念として重要視されて来ております。近年医学医療は様々な科学技術の発達に伴い急速な進歩を遂げました。そして多くの専門分野に分化し、医師はそれぞれの分野で深い知識が必要とされて来ております。一方それぞれの専門分野に深く関わりつつも、医師が人間を全体として見る視点を失わないように努めることも極めて大切なことであります。更に、病気そのもののみならず患者一人ひとりの心配や苦しみを心の交流を通して分かち合い理解することも切実に求められております。このような厳しい要求を満たしつつ日々医療にあたる医師の弛みない努力に深く敬意を表します。今日、科学技術の進歩や高齢化のもたらす社会の変動は人々に心身の健康を損なう様々な環境を作り出して来ております。さらにここ神戸市は10年前に6,000人以上の人々が亡くなった阪神淡路大震災によって大きな被害を受け、今なお多くの被災者が心身の後遺症に苦んでしていると聞いております。このような時に世界から心身の健康に関心を寄せる研究者が神戸に集い、心身医学上の新たな知見を基に研究者の間で様々な討議が行われることはこの地域の人々の為に、またひいては日本を始め世界の人々の為に意義深いものになるものと考えております。このたびの世界心身医学会議が実り多い成果を挙げ、世界の医学の進歩と人々の幸せに貢献することを願ひ開会式の言葉といたします。

[次回は、綾町の玉置 昇先生をお願いします]

## 健康管理

宮崎市 南部病院 や ひろ よう へい  
八 尋 陽 平

宮崎に帰郷して8年目になりました。

地元っていいなぁと日々思いながら過ごしています。言い尽くされた言葉ではありませんが“食べ物美味しいし人も優しい”つつい飲み会も増えてしまいました。すると

どうでしょう、体重まで増えてきているじゃないですか。気付いた時には0.1tももう間近。“やばい、人の体だけを心配している場合じゃない”というか説得力がない。

一念発起し自転車を購入しました。最初はできるだけ乗ろうと心に決めて始めてみました。あ〜失敗、自分の体重管理が元々出来ないのに、気が付けばホコリをかぶった自転車が…、タイヤの空気まで抜けていました。2回目の一念発起、通勤方法を変えようと考え自転車通勤を開始しました。これはいい考えでした、1回出てしまえば帰る為にもう一度乗らなければならず、強制的に1日2回運動が出来る。朝のぼーとした時間、帰りの時間を考える余裕もなく出勤する、これがいいみたいです。

朝自転車通勤してみると自転車の多いこと、高校生は勿論ですが通勤者も数多くいました。特に誰かと仲良くなることもないですが、だんだんと同じ顔触れになってきます。小道に入り今まで知らなかった店(飲食店が多いけど)を見つめる楽しみもあります。自転車通勤を始めて1年、体重も少しは戻りつつあります。年に2回の検診がちょっとだけ楽しみになってきました。

[次回は、宮崎市の木戸 義行先生をお願いします]





## あなたできますか？

— 平成 24 年度 医師国家試験問題より —

(解答は 79 ページ)

1. 前頭側頭型認知症の初期に認められるのはどれか。
  - a 幻覚
  - b 健忘
  - c 失行
  - d 無関心
  - e 見当識障害
2. 我が国の慢性透析患者の近年の傾向で正しいのはどれか。
  - a 腎移植数は減少に転じた。
  - b 5 年生存率は低下している。
  - c 死亡原因として感染症の比率が増加している。
  - d 糖尿病性腎症による透析導入数は減少している。
  - e 糖尿病患者と非糖尿病患者との間で 5 年生存率に差がない。
3. 呼吸リハビリテーションの適応とならないのはどれか。
  - a 神経筋疾患
  - b 気管支拡張症
  - c 肺結核後遺症
  - d 非代償性うっ血性心不全
  - e 慢性閉塞性肺疾患 (COPD)
4. 関節リウマチの病変が始まる組織はどれか。
  - a 腱
  - b 骨
  - c 滑膜
  - d 靱帯
  - e 軟骨
5. 喫煙によって発症のリスクが増大しない疾患はどれか。
  - a 大動脈瘤
  - b 冠動脈疾患
  - c 潰瘍性大腸炎
  - d 閉塞性動脈硬化症
  - e 慢性閉塞性肺疾患
6. 急性膿胸に対する初期治療で適切なのはどれか。2 つ選べ。
  - a 気管切開
  - b 胸郭形成術
  - c 肺葉切除術
  - d 抗菌薬の投与
  - e 胸腔ドレナージ
7. 緩和ケアについて正しいのはどれか。
  - a 医療用麻薬の投与は避ける。
  - b がんの診断後に早期から行う。
  - c 意識障害の患者は対象としない。
  - d モルヒネは体性痛に有効である。
  - e 経済的苦痛は身体的苦痛に含まれる。
8. チアノーゼについて正しいのはどれか。
  - a 健常人にはみられない。
  - b 貧血になると起こりやすい。
  - c 酸化ヘモグロビンが 5 g /dL 以上で起こる。
  - d 末梢性では動脈血酸素飽和度は正常である。
  - e Fallot 四徴症では下半身に局限してみられる。
9. アレルギー物質を含む食品の原材料表示が義務付けられていない品目はどれか。
  - a えび
  - b 小麦
  - c そば
  - d 米
  - e 乳
10. 過敏性腸症候群にみられるのはどれか。
  - a 灰白色便
  - b 黒色便
  - c 脂肪便
  - d 兔糞状便
  - e 粘血便
11. 感染症と腎病変の組合せで正しいのはどれか。
  - a H IV 感染症 — 紫斑病性腎炎
  - b C 型慢性肝炎 — 慢性間質性腎炎
  - c 緑膿菌感染症 — IgA 腎症
  - d 溶連菌感染症 — 巣状分節性糸球体硬化症
  - e 腸管出血性大腸菌感染症 — 溶血性尿毒症症候群

## 宮崎県感染症発生動向 ～9月～

平成25年9月2日～平成25年9月29日(第36週～39週)

## ■全数報告の感染症

1類：報告なし。

2類：○結核：18例が報告された。保健所別報告数を【図1】に示した。患者が1例、無症状病原体保有者が7例で、患者は肺結核が7例、その他の結核(結核性胸膜炎、粟粒結核等)が4例であった【表1】。男性13例、女性5例で、年齢別報告数を【表2】に示した。

3類：○腸管出血性大腸菌感染症：29例が報告された(保育所での集団感染事例含む)。宮崎市(26例)、都城(1例)、高千穂(2例)保健所からの報告であった。患者が2例(HUS発症例なし)、無症状病原体保有者が2例で、患者の主な症状は、血便、水様性下痢であった。年齢別報告数を【表3】に、原因菌と病型別の内訳を【表4】に示した。

4類：報告なし。

5類：○アメーバ赤痢：都城保健所管内で1例報告された。患者は20歳代で腸管アメーバ症。粘血便、しぼり腹がみられた。

○後天性免疫不全症候群：宮崎市保健所管内で1例報告された。患者は20歳代で無症候性キャリア。

## ■5類定点報告の感染症

定点からの患者報告総数は2,618人(定点あたり85.7)で、前月比70%と減少した。また、例年と比べると99%と同程度であった。

前月に比べ増加した主な疾患はRSウイルス感染症で、減少した主な疾患は手足口病とヘルパンギーナであった。また、例年同時期と比べて報告数の多かった主な疾患は咽頭結膜熱と水痘であった。

RSウイルス感染症の報告数は510人(14.2で前月の約1.8倍、例年の約8割であった。延岡(35.5)、日向(20.8)保健所からの報告が多く、年齢別では6か月未満が全体の約1割、6か月～1歳が約7割、2歳以上が約2割を占めた。

咽頭結膜熱の報告数は257人(7.1)で前月の約8割、例年の約3倍であった。日南(20.0)保健所からの報告が多く、年齢別では1～4歳が全体の約7割を占めた。

水痘の報告数は162人(4.5)で前月の約1.2倍、例年の約1.3倍であった。小林(11.0)保健所からの報告が多く、年齢別では1～4歳が全体の約7割を占めた。

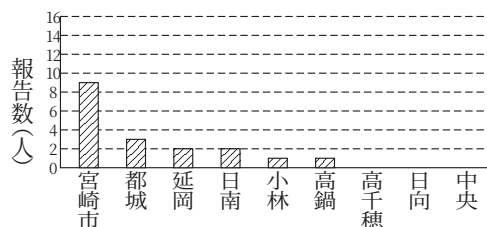


図1 保健所別報告数(結核)

表1 結核の病型及び報告数(人)

|           |   |
|-----------|---|
| 肺結核       | 7 |
| その他の結核    | 4 |
| 無症状病原体保有者 | 7 |

表2 結核の年齢別報告数(人)

| 1歳 | 20歳代 | 40歳代 | 50歳代 | 60歳代 | 70歳代 | 80歳代 |
|----|------|------|------|------|------|------|
| 1  | 1    | 1    | 3    | 6    | 2    | 4    |

表3 腸管出血性大腸菌感染症の年齢別報告数(人)

| 1歳 | 2歳 | 3歳 | 4歳 | 5歳 | 6歳 | 8歳 | 20歳代 | 30歳代 |
|----|----|----|----|----|----|----|------|------|
| 2  | 2  | 7  | 5  | 5  | 3  | 1  | 1    | 3    |

表4 腸管出血性大腸菌感染症 原因菌別 病型別報告数(人)

| 原因菌                     | 患者 | 無症状 |
|-------------------------|----|-----|
| O 26(v T1)              | 1  | 11  |
| O 103(v T1)             | 1  | 14  |
| O 26(v T1)及びO 103(v T2) | 0  | 2   |

## 前月との比較

|           | 2015年9月 | 2015年8月 | 例年   |
|-----------|---------|---------|------|
|           | 報告数(人)  | 報告数(人)  | との比較 |
| インフルエンザ   | 0       | 0       | 0.0  |
| RSウイルス感染症 | 510     | 288     | 14.2 |
| 咽頭結膜熱     | 257     | 326     | 7.1  |
| ※溶レン菌咽頭炎  | 132     | 191     | 3.7  |
| 感染性胃腸炎    | 764     | 976     | 21.2 |
| 水痘        | 162     | 141     | 4.5  |
| 手足口病      | 399     | 938     | 11.1 |
| 伝染性紅斑     | 9       | 5       | 0.3  |
| 突発性発しん    | 135     | 215     | 3.8  |
| 百日咳       | 1       | 1       | 0.0  |
| ヘルパンギーナ   | 120     | 465     | 3.3  |
| 流行性耳下腺炎   | 35      | 38      | 1.0  |
| 急性出血性結膜炎  | 0       | 1       | 0.0  |
| 流行性角結膜炎   | 91      | 130     | 15.2 |
| 細菌性髄膜炎    | 0       | 0       | 0.0  |
| 無菌性髄膜炎    | 3       | 2       | 0.4  |
| マイコプラズマ肺炎 | 0       | 2       | 0.0  |
| クラミジア肺炎   | 0       | 0       | 0.0  |

★ 例年同時期(過去3年の平均)より報告数が多い

※ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

## ■病原体検出情報(微生物部)

| 検 出 病 原 体 |                                                   | 件 |    |                                |             |
|-----------|---------------------------------------------------|---|----|--------------------------------|-------------|
| 細菌        | Salm onella O 8 群血清型不明                            | 1 | 細菌 | 腸管出血性大腸菌(O 157 : H 7 VT1,2)    | 1           |
|           | Cam pylobacter jejuni                             | 3 |    | 腸管出血性大腸菌(O 26 : H 11 VT1)      | 3           |
|           | Clostridium perfringens                           | 1 |    | 腸管毒素原性大腸菌(O 153 : H 12 STh)    | 2           |
|           | Salm onella Braenderup(O 7 : e , h : e , n , z15) | 1 |    | 腸管毒素原性大腸菌(O UT : H 16 STp)     | 1           |
|           | Salm onella H aifa(O 4 : z10 : 1 , 2)             | 1 |    | 腸管病原性大腸菌(O 157 : H 16 eae)     | 1           |
|           | Salm onella M anhattan(O 8(O 6) : d : 1 , 5)      | 1 |    | 腸管凝集付着性大腸菌(O 127a : H 21 aggR) | 1           |
|           | Salm onella M bandaka(O 7 : z10 : e , n , z15)    | 1 |    | パラ百日咳菌                         | 1           |
|           | Salm onella O 4 群血清型不明                            | 1 |    | ウ                              | アデノウイルス 1 型 |
| ウイルス      | Salm onella Singapore(O 7,6 : k : e , n , x)      | 1 | イ  | インフルエンザ A H 3 型                | 1           |
|           | Salm onella Thompson(O 7 : k : 1 , 5)             | 4 | エ  | コーウイルス 30 型                    | 1           |
|           | 腸管出血性大腸菌(O 103 : H 2 VT1)                         | 4 | ル  | コクサッキーウイルス A 6 型               | 3           |
|           | 腸管出血性大腸菌(O 136 : H UT VT1)                        | 2 | ス  | コクサッキーウイルス B 2 型               | 1           |
|           |                                                   |   |    | コクサッキーウイルス B 3 型               | 1           |

## ■月報告対象疾患の発生動向〈9 月〉

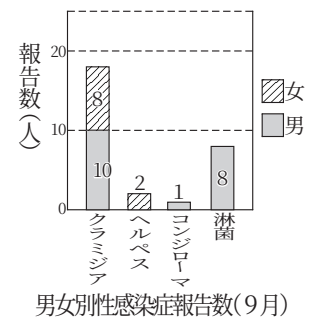
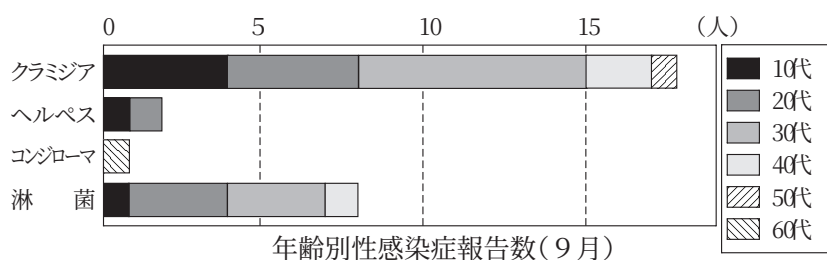
### □性感染症

【宮崎県】 定点医療機関総数： 13

定点医療機関からの報告総数は 29 人(2.2)で、前月比 83%と減少した。また、昨年 9 月(2.6)の約 9 割であった。

#### 《疾患別》

- 性器クラミジア感染症：報告数 18 人(1.4)で、前月の約 1.1 倍、前年の約 9 割であった。30 歳代が全体の約 4 割を占めた。
- 性器ヘルペスウイルス感染症：報告数 2 人(0.15)で、前月及び前年の約 3 割であった。10 歳代後半と 20 歳代であった。
- 尖圭コンジローマ：報告数 1 人(0.08)で、前月の約 3 割、前年と同程度であった。60 歳代であった。
- 淋菌感染症：報告数 8 人(0.62)で、前月の約 1.1 倍、前年の約 1.6 倍であった。20 歳代、30 歳代がそれぞれ全体の約 4 割を占めた。



### □薬剤耐性菌

【宮崎県】 定点医療機関総数： 7

定点医療機関からの報告総数は 29 人(4.1)で前月比 104%と横ばいであった。また、昨年 9 月(4.1)と同程度であった。

#### 《疾患別》

- メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：報告数 29 人(4.1)で、前月及び前年の約 1.1 倍であった。70 歳以上が全体の約半数、5 歳未満が約 2 割を占めた。
- ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：報告はなかった。
- 薬剤耐性緑膿菌感染症：報告はなかった。
- 薬剤耐性アシネトバクター感染症：報告はなかった。

(宮崎県衛生環境研究所)





平成 25 年度は「高血圧」をテーマに 6 月 3 日から 9 月 28 日までに、市内全地区で研修会を開催しました。延岡市の「健康調査結果」向上に反映できるよう、延岡市医師会は更なる啓発活動을 續けて、延岡市民の健康・長寿に貢献したいと考えています。(佐藤 信博)

◇ ◇ ◇ ◇

### 日向市東臼杵郡医師会

昨年、日向市環境整備課の担当職員の方が不法投棄された在宅医療廃棄物の現物を当医師会事務局に持ってこられ、対策を協議したケースが 2 件ありました。担当者のお話ではスーパーやコンビニ等の店頭ボックスへの混入事案もあるとのこと。不法投棄は投棄者の特定が困難であるばかりでなく、注射針等が付いているものもあり回収に危険を伴います。早急に統一した排出ルールの策定を望んでいたところ、日向市から申し入れがあり、日向市、医師会、薬剤師会の三者で在宅医療廃棄物の適正処理に関する協定を締結することになりました。今後、行政と連携して市民へのルール周知に力を入れていきたいと思ひます。(渡邊 康久)

◇ ◇ ◇ ◇

### 児 湯 医 師 会

10 月の定例理事会で 9 月末現在の会員数の報告があり、前月より 1 人減少し、74 人になりました。B 会員が宮崎市内で開業するための減少でしたが、最近では徐々に増加していたので、少し寂しい感じがしました。また、国の法人改革に伴い、児湯医師会が一般社団法人に移行して半年が過ぎましたが、変更後、医師会活動に大きな変化はありませんでした。多額の費用をかけて、書類審査に手間と時間をかけさせられたのはなんだったのでしょうか。来年には、新制度下での役員選挙が予定されています。

スポーツの秋になり、今月 12 日に医師会主催ミニバレーボール大会が開催されました。今回から使用するボールが変更されましたが、多くの施設からの参加があり、熱戦が繰り広げられました。日頃、運動不足になりがちな職員の体力増進、レクレーションに役立っています。

(北村 洋)

◇ ◇ ◇ ◇

### 西都市西児湯医師会

以前より、西都市、西都児湯医療センター、医師会との間で問題になっております不明金の件ですが、少しずつではあります但解決して来ており会員一同、安心してきております。また西都児湯医療センターの医師不足で夜間の救急医療が充実しておらず市民にたいへんな迷惑をかけておりますので、一日でも早く諸問題を解決して苦しんでいる患者さんに対して、良い治療を提供していきたいと思ひます。(鶴田 明士)

◇ ◇ ◇ ◇

### 南 那 珂 医 師 会

南那珂医師会では、医師会員と行政の協力で、日南市初期夜間急病センターを開設し、月曜日から日曜日の午後 7 時から 10 時まで、生後 6 か月から成人までを対象に主に小児科、内科疾患の初期治療を行っている。現在、センターの老朽化に伴い建て替えが必要になり、その委員会を立ち上げ委員の一人として会議に参加している。これまでの会議で場所、設計図がほぼまとまり、今後業者の選定を行い、今年には着工、来年の 4 月には新しい建物での診療が始まる。休日や日常の仕事が終了してからの診療は大変だが、きれいな建物での診療を楽しみにしている。(川西 昭人)

◇ ◇ ◇ ◇

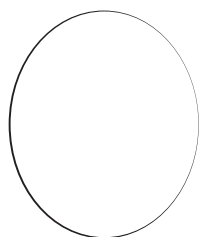
### 西 諸 医 師 会

10 月 3 日に地域医療に関する意見交換会を開きました。平成 22 年に始まり今回で漸く 9 回目を数えます。当地の医療が危機的状況に直面している中、不定期とは言え、小林市長および保健医療行政の幹部と医師会執行部が一同に集い、忌憚なく意見を交わす場が持てることは意義のあることだと考えております。

西諸では 9 月下旬から 10 月上旬にかけて首長選が続き、えびの市、高原町ともに再選されました。そして小林市長は来年 4 月に任期満了を迎えます。(矢野 裕士)

◇ ◇ ◇ ◇

## 宮崎大学医学部だより

内科学講座  
—免疫感染病態学分野—おかやま あきひろ  
岡山 昭彦 教授

内科学講座免疫感染病態学分野は岡山昭彦教授の下、附属病院では膠原病感染症内科、検査部、感染制御部を担当しています。小さな医局ですが、院内スタッフとしては講師2名、助教4名、医員3名に加えて2名

の女性医師が、育児も行いながら診療に復帰し、診療や研修医、学生教育の大きな戦力になっています。院外には4名の医師が協力病院でお世話になっております。

当科の臨床面での活動としては、関節リウマチをはじめとする膠原病、それに伴う間質性肺炎や肺炎などの呼吸器疾患、治療困難な感染症や輸入・新興感染症、不明熱などの診療を担当しております。関節リウマチの治療は近年大きな進歩を遂げ、寛解が期待できるようになりました。現在4名のリウマチ専門医を中心に新規薬剤を駆使して診療に当たっております。また整形外科の先生方とも協力しながら4年前より「宮崎県関節リウマチ生物学的製剤研究会」を発足し、すでに800人の患者さんが登録され、診療の向上を目指しています。感染症では、新たに見つかったSFTS等新興感染症や耐性菌感染症などについて、多くの診療科や他院からのコンサルテーションをいただきながら、4名の感染症専門医で診療を行っています。また感染対策についても感染制御部として、院内のみならず県内の病院とも連携カンファレンスを定期的で開催しており、抗菌薬治療適正化を含めての啓発を推し進めているところです。

外来は火曜日と木曜日に新患患者を担当しております。毎年、着実にその患者数は増えてきており、平成2年度の外来新患患者数は約500名

でした。気管支鏡検査は金曜日に行っております。新たに超音波内視鏡検査が導入され、呼吸器疾患に対する正診率向上を目指しています。お困りの症例がございましたら、2名の呼吸器専門医が対応しますので、ご紹介の程、宜しく願いいたします。

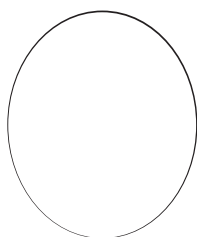
入院は附属病院5階東病棟にて、12床を担当しています。難しい症例が県内各地から多数みえておりますが、病床数に限りがあるため、病棟運営に苦勞しています。紹介していただく先生方には入院待ち等で大変ご迷惑をおかけしていることと思います。この場を借りまして、お詫び申し上げます。

研究面に関しては、膠原病の原因や病態に関する研究、宮崎に多いHTLV-感染症、細菌感染症の新たな診断法の研究等に取り組んでいます。HTLV-感染症は岡山教授のライフワークの一つであり、文科省や厚労省の科研費などの助成を得て、慢性炎症性疾患との関連やモデル動物の研究に取り組んでいます。膠原病については現在、講座の梅北がチューリッヒ大学に留学中で新たな切り口で頑張っています。学会活動として平成24年11月にシーガイアで日本内科学会九州地方会を開催いたしました。また平成25年11月にも大阪に場所を変えて、日本感染症学会西日本地方会を主催いたしました。ご参加いただいた先生方には誠にありがとうございました。教育面でも学生や研修医教育に力を注いでおり、5年ベッドサイドの学生アンケートでは毎年のように最も印象に残った診療科に選ばれており、医局員の励みになっています。

今後も地域医療に貢献すべく医局員一同頑張っていくしますので、医師会の先生方の一層のご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。また当科では専門性と一般性の両者を兼ね備えた内科トレーニングが可能と自負しております。ご興味のある若い先生がおられましたら医局の扉はいつも開いておりますので、ぜひご紹介くださいますよう合わせてお願い申し上げます。

（医局長 <sup>ながとも</sup>長友 <sup>やすひろ</sup>安弘）

## 国公立病院だより

独立行政法人  
国立病院機構 宮崎病院えさき きみあき  
江崎 公明 院長

本院は、全国に 143 施設ある国立病院機構の病院の一つです。前身は、昭和 14 年に開設された傷痍軍人宮崎療養所ですが昭和 20 年に国立宮崎療養所と改称され、平成 16 年 4 月の独立行政法人化に伴い現在の名称となりました。また本院は、細長い宮崎県の中に位置し、農業、漁業などの一次産業主体の川南町にある病院です。地域住民の年齢は高齢化しており、有病率の高い地区にある病院でもあります。私事ですが、本年 4 月 1 日付で国立病院機構宮崎病院長として同機構熊本医療センターより家族を伴って赴任して参りました。卒業は、熊本大学医学部で、専門は、麻酔科学です。私の恩師である熊本大学名誉教授森岡亨先生(元麻酔科学教授)が、宮崎病院で肺外科手術に初めてサイクロプロパン麻酔を行った病院だと聞き因縁を感じました。当時の外科医長は、元宮崎県医師会長をなされた竹内三郎先生だったとお聞きしています。私の趣味は、学生時代からのサッカーと韓国映画・ドラマロケ地を旅行することです。なぜ韓国かというと麻酔科医局時代に先輩の呼びかけで始まった大邱 YMC A サッカーチームとの交流会や熊大医局に留学していた現ソウル大学麻酔科教授李國賢先生がいたことによります。一緒に膜型肺(ECLA)の研究をした仲間です。

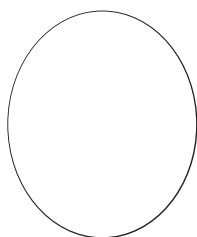
さて本院の担っている医療は、一般医療と政策医療の二つになります。一般医療は、内科(糖尿病・代謝内科、呼吸器科、消化器科)、整形外科

科、小児科を中心に診療にあたっています。また、地域の医師会員の皆様方と開放型病院のシステムやパスを利用した病診(病)連携などを積極的に行っています。一方政策医療にも取り組んでおります。当院では、重症心身障害児(者)医療がそれに当たり、小児科の医師を中心に入院および通園による療育医療を行っています。入院児(者)および在宅児(者)に対して医療処置やリハビリの他に保護者の皆様に対して成長に伴う発達相談などの総合的な援助を行っております。

ところで宮崎県は、慢性の医師不足に悩まされておりますが、宮崎県の間部にある児湯地区は、県内でもさらに住民数に対する医師の数の割合が少ない地区でもあります。本院も例外でなく地域住民の皆様に対して、心苦しいものがあります。私自身も医師確保に奔走しておりますが、限界を感じています。できれば宮崎県の医療行政、県医師会、宮崎大学関係者の皆様に医師の適正配置の方策をお願いするところです。宮崎病院の将来像として医師確保のもと宮崎県中間部の地域支援病院になることを画いております。このためにもどうぞ宮崎県医師会のご支援とご指導をよろしくお願いするところです。(江崎 公明)

## 専 門 分 科 医 会 だ よ り

## (産 婦 人 科 医 会)

は ま だ ま さ お  
濱 田 政 雄 会 長

宮崎県産婦人科医会は、現在会員数126名で構成され主に産婦人科臨床に携わる医師集団です。会員構成は勤務医が数多くを占めており、開業医は66名と減少し、尚且つこの10年内の開業形態は無床診療所のみとなっています。宮崎県の分娩数は全国の1/100の約1万件ですが、その7割をこの開業産婦人科有床診療所に対応しています。九州他県と較べても産婦人科診療所の環境は悪く、ほとんどの診療所は一人院長で頑張っています。そのため、若手医師には開業は考える状況にないのが実情でしょう。勿論、産婦人科が日本医師会医師賠償責任保険の紛争事例の中で医師数に比して最も多い状況が続いており、医療事故が何時起こるか判らないのも一因であると思います。5年前に始まった産科医療補償制度は紛争事例の減少と脳性麻痺児の家族の負担減少を目的に始まりましたが、現在のところは目的を果たしているように思えます。当初の対象件数よりも200件前後の減少が見込まれ、保険の余剰金の扱いが検討されています。産婦人科としては障害児の対象を少しでも広げて多くの家族の負担軽減になればと考えていますが、3万円の負担を強いられている保険者側の考えはそれとは異なるようです。来年3月までにその方向性が明らかになるものと思います。

さて、婦人科臨床においては、3年前から始まった子宮ガンワクチン接種が今年4月には定期接種化されるという産婦人科にとって順風満帆のワクチン事業でした。5月の原因不明の接

種後疼痛患者対策で積極的には接種を推奨しない旨の通達があり、施行数は1/10に減少致しました。12月に予定されている予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会において良い報告がなされ、年間3,000名の子宮ガンで亡くなる患者が救われる道が開くよう祈るのみです。

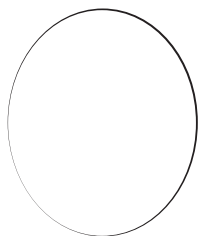
次に、同じ子宮ガン対策ですが「平成25年度がん検診推進事業」として子宮頸ガンとHPV検査検証事業がパイロットスタディとして始まりました。宮崎県では日南市がこの事業に参加しています。産婦人科としてはワクチン接種とこのHPV併用検査とを子宮ガン撲滅への両輪として推進していきたいと考えています。また若年者の子宮頸ガンが激増していることから検診率の向上が喫緊の課題であり、今までとは違った働きかけが必要と考えています。

最後に、0歳児の虐待死を厚労省が問題視してから3年が経過致しました。特に0日での虐待死はその多くが実母によるものであり、死亡した児はもとより母親にとっても今後の生活を暗く覆う出来事です。児童相談所を中心とした要保護児童対策連絡協議会を有効活用するために産婦人科も協議会に参加し、さらに性交年齢に達したら妊娠はひと事ではないことを第3者の立場から産婦人科医が関わっていくと提案しているところです。行政との関わりを密接にして意思の疎通を図ることが、今後への展望につながると考えています。不幸にして望まない妊娠をして途方に暮れているときに産婦人科医療機関の“妊娠等についての相談窓口(望まない妊娠を含む)”の文字が役立てば何よりと思います。

(濱田 政雄)



## メディアの目



## 備えあれば

朝日新聞宮崎総局 総局長

いま い きよ みつ  
今 井 清 満

福岡への出張で月に一度は飛行機に乗る。わずか 40 分ほどの短い時間だが、この時季は空気が澄み、晴れた日は空からの眺めが楽しみの一つだ。宮崎空港を飛び立ち、旋回しながら少しずつ高度が上がると、眼下に宮崎市の街がジオラマのように広がり、遠く霧島の山々と日向灘が望めるようになる。

白い波が打ち寄せる海岸のはるか先、約 4 キロメートルの海底には、静岡県駿河湾から約 700 キロ続く「南海トラフ」がある。約 100～150 年の間隔でマグニチュード (M) 8 前後の地震を起こしてきた。国は、考えうる最大級として M9.1 の地震被害を想定している。宮崎では最大 10～17 メートルの津波に襲われ、1 万 2,390 ヘクタールが浸水するという。今年 2 月には県が独自の津波被害を発表した。国の想定 of 1.2 倍になる 1 万 4,280 ヘクタールが浸水すると想定している。

県は 9 月末、南海トラフ巨大地震や日向灘での大規模地震の最大震度について独自の震度分布図を公表した。宮崎市をはじめ沿岸部の自治体を中心に 13 市町が震度 7、内陸部の自治体でも震度 6 弱が想定されている。震度 7 はないが、震度 6 弱は 2005 年 3 月の福岡沖地震で体験した。日曜日の朝、自宅にいと、カタカタと物音がし始め、まもなく大きな横揺れに。倒れそうになる本棚を押さえたが、体ごと揺さぶ

られ、立っていらるような状態ではなつた。揺れが収まって外に出ると、繁華街の天神ではビルの壁はひび割れ、窓ガラスが割れて歩道に散乱していた。百道浜など海岸部では液状化現象も起きた。

朝日新聞宮崎総局は大淀川の河口から約 4 キロ上流、橋橋のたもとにある。国道 22 号をはさんで市役所があり、河口側へ少し歩けば宮崎観光ホテルがある。県庁も近い。大淀川の堤防はこの夏、耐震化工事を終えた。これで震度 7 でも倒壊の心配はないという。それでも実際、どれほどの揺れになり、どこまで津波が押し寄せるのかはわからない。宮崎市の地図を見ると、海岸線から JR 日豊線までの間を走る幹線道は海と並行し、内陸へ向かう道は住宅地を通る道が多い。地元の人でなければ走りにくいだろう。

宮崎の海岸線はおよそ 400 キロ。高速道路の宮崎インターから福岡インターまでは 300 キロ足らずだ。そう考えると、海岸線の長さを改めて感じる。地震・津波への対策や避難訓練などが各地で取り組まれ、屋外の避難施設などの整備も進んでいる。ただ、観光立県として、いざという時、県外から訪れた人たちがどう行動すればいいのか、これからも考えていく必要があると思う。

## 「新春随想」原稿募集

平成 26 年 1, 2 月号に恒例になりました「新春随想」欄を企画いたしております。  
この欄は大変好評ですので、奮ってご投稿をお願い致します。

題 材 医事評論, 診療閑話, 身辺雑記, 詩歌, 俳句等なんでも結構です。  
本文に関連した写真・イラスト等(1 枚程度, カラー印刷はできません)  
も掲載できます。

字 数 800 字以内(字数が多い場合は「新春随想」として掲載できないことがあり  
ますのでご承知ください)

締 切 平成 23 年 12 月 10 日(火)

宛 先 宮崎県医師会広報委員会

- ◎ 原稿には「新春随想」と明記してください。
- ◎ 掲載については、広報委員会にご一任くださいますようお願いいたします。
- ◎ 掲載はお一人、1 編とさせていただきます。
- ◎ ご投稿の原稿が他紙に掲載、または投稿中の場合はその旨お知らせください。
- ◎ 原則として、原稿はお返しいたしません。返却を希望される方はその旨ご指示ください。
- ◎ 日州医事は、会員以外(マスコミ・行政・図書館等)にも配付しています。

原稿は主にメールにて受け付けております。ワードまたはテキスト形式で作成・保存し、日州医事原稿専用アドレス([genko@m-iyazaki-med.or.jp](mailto:genko@m-iyazaki-med.or.jp))宛にお送りください。もちろん、それ以外の方法(FAX, 郵便等)でお送りいただいても構いません。

「新春随想」である旨とタイトル、ご氏名を付記して下記の宛先にお届けください。

原稿送付・問合せ先

宮崎県医師会広報委員会 新春随想係

E-mail: [genko@m-iyazaki-med.or.jp](mailto:genko@m-iyazaki-med.or.jp)

〒 880 - 0023 宮崎市和知川原 1 丁目 101

FAX 0985 - 27 - 6550 TEL 0985 - 22 - 5118

※原稿送付の際は、他の原稿との混同を防ぐため「新春随想」である旨とタイトル、ご氏名を明記の上お送りください。

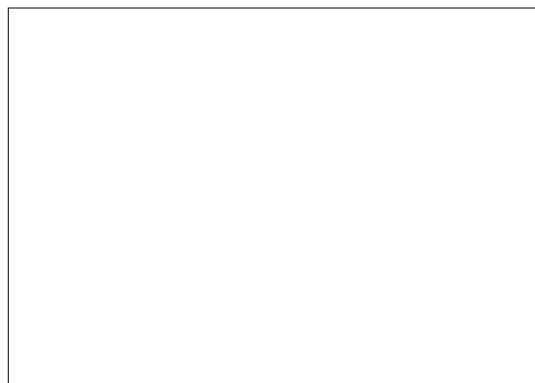
## — 各 種 委 員 会 —

## 健 康 教 育 委 員 会

と き 平成 25 年 10 月 4 日(金)

ところ 県医師会館

テレビ会議：日向



牛谷常任理事の司会で開会した。河野副会長からの挨拶後、中山委員長の進行で議事が行われた。

## 報 告

## 1. 平成 24 年度健康教育事业について

昨年度宮崎県医師会が開催した健康教育事业(宮日新聞への掲載等)、会員・各専門分科医会が行った健康教育事业について報告を行った。

## 2. 平成 24 年度宮崎県医師会県民健康セミナーについて

「豊かな人生のために」をテーマに平成 25 年 3 月 24 日に開催した。20 名の参加があり、質問も多く大変好評であった。

## 協 議

## 1. 平成 25 年度宮崎県医師会県民健康セミナーについて

今年度の県民健康セミナーの企画をした。開催時期は平成 26 年 2 ～ 3 月の日曜または祝日の予定で、テーマは健康スポーツ医学委員会から提案のあった自転車通勤についての演題を、もう 1 題を「食について」もしくは「在宅医療について」に絞り、引き続き執行部で検討していくことになった。

## 2. 宮日「きゅんと」への記事掲載について

県医師会が記事を掲載している宮日「きゅんと」について検討があったが、県医理事会にて改めて検討することになった。

## 3. 県民への健康教育のすすめ方について

今後の方針等について各委員から意見交換を行った。

出席者—中山委員長、菊池・板野・尾崎・

松本・竹中・糸数・阿南・青木委員

(県医) 河野副会長、牛谷常任理事、

久永課長、高山主事

## 九州医師会連合会 第 336 回常任委員会

と き 平成 25 年 9 月 28 日(土)

ところ ANA クラウンプラザホテル

沖縄ハーバービュー(那覇市)

## 1. 挨拶

九州医師会連合会宮城信雄会長

(沖縄県医師会長)

## 2. 報告

- 1) 第 113 回九州医師会医学会分科会の出題並びに記念行事の参加申込状況について(沖縄)

下記の日程で開催される第 113 回九州医師会分科会の出題並びに記念行事について、参加申込状況等が報告された。

日時：平成 25 年 11 月 16 日(土)・17 日(日)

場所：ANA クラウンプラザホテル

沖縄ハーバービュー及び周辺施設

- 2) 九州ブロック日医代議員連絡協議会について(沖縄)

日時：平成 25 年 10 月 13 日(日) 13:00～13:30

場所：日本医師会館(九州ブロック控室)

## 3. 協議

- 1) 沖縄県医師会提案の各行事を次のとおり、開催することが承認された。

場所：ANA クラウンプラザホテル

沖縄ハーバービュー

- ①九州医師会連合会第 33 回常任委員会

平成 25 年 11 月 15 日(金) 16:30～17:20

- ②第 106 回臨時委員総会

平成 25 年 11 月 15 日(金) 17:30～18:20

- ③講演：中央情勢報告・質疑応答

講師：日本医師会横倉義武会長

平成 25 年 11 月 16 日(土) 10:00～12:00

- 2) 第 113 回九州医師会連合会総会における宣言・決議について(沖縄)

宣言(案)は宮崎県修正案を承認し、決議(案)は類似項目を統合した案を再度提示することとされた。

- 3) 九州医師会連合会第 338 回常任委員会並びに第 2 回各種協議会(1 月 25 日(土)那覇市)の開催について(沖縄)

提案通り開催することが承認された。

日時：平成 26 年 1 月 25 日(土)

場所：ANA クラウンプラザホテル

沖縄ハーバービュー

常任委員会・各種協議会 16:30～18:20

各種協議会報告会 18:30～19:20

- 4) 平成 26 年度(第 36 回)九州各県保健医療福祉主管部長・九州各県医師会長合同会議開催(案)について(宮崎)

例年の 6 月初旬開催を変更し、次のとおり開催することが決定された。

日時：平成 26 年 7 月 4 日(金) 17:00～19:00

場所：宮崎観光ホテル

- 5) その他

九州各県医師会医療情報システム担当理事連絡協議会(1 月 25 日(土)那覇市)について (沖縄)

提案通り開催することが承認された。

日時：平成 26 年 1 月 25 日(土) 14:00～16:00

場所：ANA クラウンプラザホテル

沖縄ハーバービュー



## 4. その他

## 1) 日本医師会選挙管理委員会予備委員変更について(鹿児島)

鹿児島県医師会黒木康文常任理事の後任に増田吉彦理事を推薦したことが報告された。

## 2) 九州医師会連合会会則変更について

公益法人制度改革に対応して各県医師会の役員任期が、平成 26 年の決算総会(代議員会)の終結の時までとなるため九州医師会連合会の役員任期、会計年度等を変更するための規約改正案が提案され、大筋承認されたので各県医師会と調整の上、平成 26 年 11

月 15 日開催の臨時委員総会に議案として提出することが承認された。

＊ 主な変更点

①役員任期を毎年 7 月 1 日に始まり翌年の 6 月 30 日までとする。

②委員総会定例会を 8 月に開催(特別の事由があれば従来通り会期変更可能とする)。

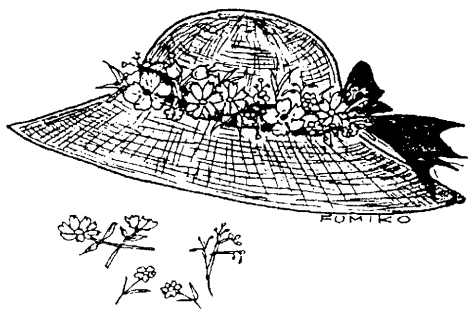
③会計年度を 7 月から 6 月までに変更

④平成 25 年度の役員任期及び会計年度は、平成 26 年 6 月 30 日までとし、沖縄県医師会がその任に当たる(附則対応)。

出席者一稲倉会長、大重事務局長

## お知らせ

## カット、イラストの募集



日州医事のページを飾るカットやイラストを募集しております。是非、作品をお寄せください。

なお、白黒での掲載になります。採否は広報委員会にお任せください。

原稿宛先

宮崎県医師会広報委員会

〒 880-0023

宮崎市和知川原 1 丁目 101

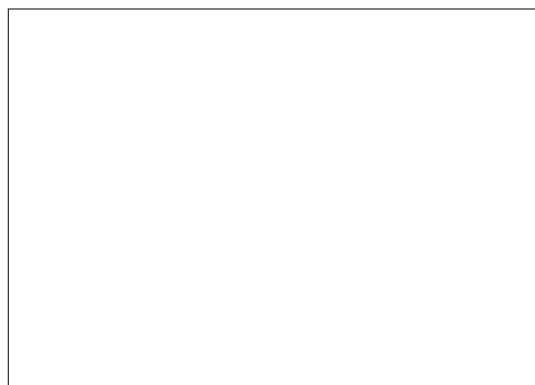
genko@m-iyazakim-ed.or.jp

## 九州医師会連合会 平成 25 年度第 1 回各種協議会

と き 平成 25 年 9 月 28 日(土)

ところ ANA クラウンプラザホテル  
沖縄ハーバービュー

## 在宅医療対策協議会



日医中川副会長，三上常任理事，鈴木常任理事の挨拶の後，沖縄県安里副会長を座長に選出し，議事に入った。

1. 在宅医療連携拠点の取組みについて(熊本県)  
提案要旨

国が示した第 6 次医療計画の作成指針では，「地域の実情に応じ，病院，診療所，訪問看護事業所，地域医師会等関係団体，保健所，市町村等の主体のいずれかを在宅医療に必要な連携を担う拠点として医療計画に位置づけることが望ましい」とされている。

各県の「在宅医療連携拠点」の取組み状況，考え方についてご教示いただきたい。

## 各県回答

各県ともに，平成 23 24 年度における厚生労働省の在宅医療連携拠点事業として，郡市区医師会等が事業を受け各種取組みを行っていると回答であり，今後も地域医師会が中

心となり，二次医療圏ごとに在宅医療連携拠点が整備されることが望ましいとの見解が示された。

熊本県では，二次医療圏毎の取組みを推進することを目的に，県行政と県医師会が合同で，二次医療圏毎に在宅医療に関する説明会を行っているとの報告があり，また佐賀県より，「段階的ということで，1 番上に県医師会があり，2 番目に地区医師会を在宅医療連携拠点に位置づけ，その下に，中学校区程度の範囲の在宅医療・介護連携のグループを想定したグループ窓口施設(医療機関等)を選定するという形が有効ではないか」との意見が示された。

## 日医コメント

どの範囲で在宅医療連携拠点を設置するかについて，二次医療圏という話があったが，やはりもう少し小さな範囲を想定したものである。地域包括ケアシステムの中でも大体 1 ～ 2 万人，小学校区，中学校区，ということである。また，どこがやるかということが最も問題であるが，平成 24 年度の在宅医療連携拠点事業 205 か所のうちで，医師会の実施が 18 か所，行政の実施が 15 か所，医療機関の実施が 63 か所，訪問看護ステーションが 6 か所となっている。これまでの経験から行政か医師会が関与した所が最も中立性公平性が保たれているので良いということがはっきり分かってきた。平成 25 年度より，在宅医療連携拠点事業として市町村を中心に地区の医師会と連携し

ながらやっていこうということが決まっていたが、今回、地域医療再生基金を使い地域医療再生計画の中に位置づけてやるということで都道府県が担当となり、市町村が元々予定していた連携拠点事業がすぐに動かなくなった。都道府県医師会と郡市区医師会がよく話し合いを行い、その事業が上手く連携できるような形に進めていただきたいと考える。またその中で、地域包括支援センターに医師会の関与がなかったという意見があったが、地域包括支援センターを核としてやるのが最も良い。4,000か所以上の全国全ての自治体に地域包括支援センターがあるので、ここに地区の医師会が十分に関与する。これは運営協議会だけではなく、実際に連携拠点事業を行う地域包括支援センターに地区医師会の先生方が十分に関与しながら、中立性、公平性を担保しながら連携をしていくということが最も大切だと考えている。

今後、介護保険法の中で、恒久的な制度として位置づけていくということで、包括的支援事業の中、すなわち地域包括支援センター事業の中で、こういった在宅の医療、介護連携の推進を行うことを明記しようということが話し合われているところである。地域包括支援センターは、介護と医療の問題だけでなく、精神、自殺対策、認知症対策等にも活用できるということで、これらの活用についても十分に議論し、予算を付けていただけるよう働きかけをしていきたい。

## 2. 地域包括ケアシステム構築に関する視点について(鹿児島県)

### 提案要旨

都市部においては、今後急増する高齢者数に対して、国が現在進めている内容での地域包括ケアシステムが適合し、地域包括ケアシステムの中心となる在宅医療連携拠点が国が

考えている内容で適合する。一方、過疎地においては、高齢化率は上昇するが、75歳以上の高齢者の絶対数はさほど増えない状況である。

総人口の減少と高齢化率の上昇は、医療・介護のサービスを提供する人的資源の減少を招いており、当然の帰結として、医療・介護サービスを提供する医療機関・事業所の減少が生じている。過疎地では、少ない資源の中で、急増する高齢者数ではなく、高くなる高齢化率に対応する必要がある。錦江町・南大隅町においては、肝属郡医師会がリーダーシップをとり、在宅医療を中心にした地域包括ケアシステム構築を進めており、肝属郡医師会立病院は在宅医療拠点として機能を発揮しつつある。

肝属郡医師会は、過疎地においては、国のイメージと異なった地域独自の地域包括ケアシステムの構築を行う必要があることを示しているが、このような例は少なく、今後、過疎地において地域の実情に合ったシステム作りを進めていく上で、各県において参考となる考え方や視点、事例があればご教示いただきたい。

### 各県回答

各県ともに、地域包括ケアシステムについては、地域の実情を反映させた体制作りが望ましいとの見解であった。

大分県より、「地域包括の本当の意味は何か、未だによく把握できていない。多職種協働とは、それぞれの職種がきちんとそれぞれの仕事を果たしトータルとしてまとまることで、初めて良い仕事になる。それを引っ張るには医師の役割が重要になる。地域包括支援センターがそもそもあの形が良いのかということから考える必要がある。我々から問題を出し、むしろ築き上げていくほうが大事ではないか

と考える」と追加発言があり、佐賀県からも、「地域包括の中において、地域包括支援センターの役割が全く分からない。地域ケアの本会議を年に 1 回、医療介護部会を年に 3～4 回、実務者会議を毎月開催等、段階的なケア会議のシステムを構築する必要があると考える。佐賀県では、ケア会議の実施状況や包括支援センターの実態について、現在調査中である」等の追加発言があった。

また、鹿児島県より、熊本県の回答に示された、「中山間地域等の条件不利地域で、現在訪問看護サービスの提供が困難となっている地域で新たにサービスを開始する事業者に対する補助事業を今年度から創設する」という点について詳細を伺いたい旨発言があり、熊本県より、「熊本県に訪問看護ステーションは 130 か所あるが、訪問看護ステーションが無い市町村が 13 か所ある。無い市町村に訪問看護ステーションを作るために 350 万円程度を補助する。それとともに、平成 25 年度在宅医療訪問看護普及啓発事業として二次医療圏毎に 80 万円程補助をするという形になっている」と報告があった。

#### 日医コメント

柏モデルということで、集中化して効率良くやる、そこに医師会が関与してモデル的なことをやるということで、これは重要だが、山間僻地については、集中化ということで収容できるような所に集まっていたら、効率的に提供する以外にないのではないかと考えている。

もう一つは、地域包括支援センターが何をしているか分からないという話があるが、確かに現状の地域包括支援センターはケアプラン作成に忙殺されており、本来、地域ケア会議として、包括的・計画的マネジメント事業、困難事例に対するアドバイス助言を行うとい

う事業があるが、そういったことが動いていないということで、今回、地域ケア会議を別の事業としてやろうということに決まった。そこに地区の医師会の先生方が入り、助言アドバイスをするということになる。

また、協働と連携は違い、協働はチームリーダーがいる。連携の場合はそれぞれが独立し連携するということで、この多職種協働の在宅医療に関しては当然医師がリーダーとなる。地域リーダーの研修会が平成 24 年度までにはほぼ終了しており、これからは地域リーダーがそれぞれの多職種に対して研修を行うということで、地区医師会の先生方が率先してそれを行っていただくということが平成 25 年度以降の事業となる。

#### 3. 平成 25 年度地域医療再生計画の概要について 一特に、在宅医療推進事業一（福岡県） 提案要旨

福岡県では、平成 21、23 年度に地域医療の課題解決に向けて地域医療再生計画を策定し、国の地域医療再生臨時交付金を基金として積み立て、平成 25 年度までの事業を実施していく予定である。その中で、介護と連携した在宅医療体制としての在宅医療推進事業を推し進めている。

厚生労働省「多職種協働による在宅チーム医療を担う人材育成事業」については、平成 24 年度は、厚生労働省が実施した「多職種協働による在宅チーム医療を担う人材育成事業に係る都道府県リーダー研修会」において育成された各リーダーが、郡市区医師会単位で地域リーダーを育成するための研修会を県行政と共同して開催した。

平成 25 年度は、各郡市区医師会単位で育成した多職種 228 名の地域リーダーが、各地域で実際に活動するための連携を深め、協議する場としての研修会(地域リーダーのためのフォ



ローアップ研修)を開催した。

また、県行政が各郡市区医師会と直接委託契約し、各地域で在宅医療に係る多職種協働研修を実施してもらう予定である。

上記の在宅チーム医療を担う地域リーダー研修並びに地域医療再生交付金の活用方法について、各県医師会における現状、在宅医療を含む地域包括ケアに関して日本医師会としてのご意見をお聞かせいただきたい。

#### 4. 介護と連携した在宅医療体制を整備する事業など地域医療再生基金の各県の用途と医師会の関わりについて(佐賀県)

##### 提案要旨

昨年度までの在宅医療連携拠点モデル事業に引き続き、介護と連携した在宅医療体制を整備する在宅医療推進事業と在宅医療連携体制の先進事例を県内全域に普及するための伝道研修等の開催に関して地域医療再生基金が交付されることになっている。

この基金やモデル事業に継続した県の事業交付金を利用しての在宅医療介護連携に関する各県の取組みの計画と、医師会の関わりについてお伺いしたい。

(3～4は一括協議)

##### 各県回答

多職種協働による在宅チーム医療を担う人材育成事業については、沖縄県を除く各県において、平成 24 年度より地域リーダー研修会等が実施されており、今年度においても地区医師会等が当該事業を継続的に実施していくとした回答が示された。

地域医療再生事業との関連については、県医師会が事業を受託し実施する県と、地区医師会が事業を受託し実施する県とそれぞれあったが、いずれにおいても在宅医療連携拠点は地区医師会を実施主体とする方向で在宅医療推進に取り組む旨の見解が示された。

大分県より、「当初より ICT を活用した多職種連携を行っているが、インシャルコストの他、ランニングコストが予想以上に多くかかり、在宅医療連携の軸足を ICT で大きく担うと、後になり厳しい状況になることもある。多職種連携は、顔の見える連携が大切であり、風通しの良い連携が多職種協働を上手く進め、それによる自浄作用も期待できるのではないか」との追加発言が述べられた。

大分県の発言を受け、地域医療連携の先進県である長崎県より、「あじさいネットは大きく誤解されている部分がある。地域のインフラ整備があじさいネットの 1 番の目的である。その中で、サーバーを設置する等色々な事業を行っている。ICT を進める上で 1 番大切なことは、セキュリティをいかに高めるか、そのインフラを整備するかだと思っている。まずはきちんとしたインフラを医師会が整備し、その上でそれをどう利用するか、その運用はそれぞれの郡市医師会にかかるということを考えている。先日の日医の医療 IT 委員会の中でも、是非日本医師会において日本中の医療インフラを作っていただきたい、その中で、各県医師会や郡市医師会がどう運用するかが 1 番良いという話をした。ICT に関してはお金がかかりすぎるので、それぞれの郡市医師会でやることは無理だと考える」旨の追加発言が述べられた。

また鹿児島県より、「地域医療再生基金は非常に大事である。平成 24 年度までこれが続くが、今後とも是非継続させていただきたい。それに加え診療報酬にそれなりの上乗せをしながら、2025 年に向け、日医も努力していただきたい」との意見が示された。

##### 日医コメント

在宅医療の拠点となる地区の医師会が、地域特性に応じて取り組んでいただければと考

える。都市型と地方型とあり、地方型については人口が最低 10 万人以上あれば医療資源もそれなりに揃っており問題ないとするが、人口 3～5 万人のところが問題である。それ以下の人口だと 1 か所しか医療機関がないからそこを中心にやるしかない、やはり人口 3～5 万人のところはそこにある医療資源を使い、地域の医師会がそれぞれのやり方を作っていくということで、地域包括ケアはそれだけ多様性があるということである。日本医師会、都道府県医師会、郡市区医師会が中心となる必要がある。

平成 23、24 年度は、在宅医療連携拠点事業は様々な事業主体があったが、どうも上手くいかなかったため、平成 25 年度からは、やはり行政か医師会であれば、公平性が保たれるということで、その方針がはっきり決まっていた。今回、地域医療再生基金の中でやるということで少し変わったが、同じ方針で行い、是非地区医師会の先生が主導的にやっていただきたい。顔の見える関係が大事であり、これは地区医師会の 1 番大きな役割ではないかと考えている。連携を行うことについては、やはり顔の見える関係を作っていくことが非常に大事である。全国で成功事例があるが、そこではやはりカリスマ的な人達が顔の見える関係を作っていることで成功していると感じる。継続性ということについては、市町村行政を巻き込み、常に入っていただくということも大事である。それも地区医師会の大きな役割だと考える。

地域医療再生基金は平成 25 年度まで継続すると決まっているが、その先は政治的な判断であり我々も強く働きかけていきたい。各県において、県庁と県医師会との関係に非常に温度差がある。県医師会主導で地域医療再生基金の有効な使い方を決めていただくようお

願いしたい。

出席者一稲倉会長，富田副会長，立元・古賀・荒木・牛谷・金丸常任理事，佐々木理事，小川課長，鳥井元・牧野係長

### 地域医療対策協議会 (医療事故調査制度・医療安全を含む)

日医中川副会長の挨拶の後、沖縄県玉城副会長を座長に選出し、議事に入った。

1. 各県の医療紛争への取組みの現状(長崎県)
2. 医療事故調査制度における診療所・中小病院支援体制に関する各県の考え方について  
(熊本県)
3. 医療事故調査制度の創設について～制度の実施に向けた支援体制の構築のために～  
(福岡県)

#### 提案要旨

日医、厚労省ともに医療事故調査制度の創設を目指しており、全ての医療機関において院内の医療事故調査委員会の設置を求めている。独自の取組みが困難な医療機関に対しては、日医案では、都道府県及び地域の医師会や大学、大規模病院、その他医療関連団体等が支援を行うとされている。各都道府県医師

会が主体となって、院内調査の支援、報告書の作成支援・精査を行っていかねばならない。現在、各県医師会が行っている医療紛争処理の実態と第三者機関を創設する場合に予想される問題点等について、診療所、中小病院に対す支援体制に関する各県の考え方をご教示いただきたい。

福岡県医師会として、診療行為に関連した死亡の調査分析事業「福岡方式」を行っている。事業内容は、日医案と同様で、院内事故調査委員会の設置、報告書の作成支援である。原則、日本医療安全調査機構の「診療行為に関連した死亡の調査分析モデル事業」が受付ける事例、もしくは臨床の所見から死因が明らかでない事例を受付けることとしている。現在、5 事例を受付けて、院内事故調査委員会を開催し、報告書の作成を行った。また、3 事例ほど問い合わせがあったが、剖検ができずに受付に至っていない。剖検を実施した事例はモデル事業に登録した。課題としては、中小病院で剖検の取得が特に難しく、県医師会は剖検の取得支援も表明しているが、うまく機能していない。剖検未実施の事例で、民事訴訟に移行した際の報告書の取り扱い、家族への報告書の交付手順等を、調査分析事業運営委員会で協議を進めている。福岡方式をもって、厚労省・日医の報告書に対応していこうと考えているが、各県において、厚労省・日医の報告書に対する意見や、実際に各県医師会が主体となって支援を行うこととなった際の問題点や障害となる点についてご意見を伺いたい。

(1～3 は一括協議)

各県回答

各県ともに、医療事故調査制度の創設については概ね理解を示す旨の回答であったが、県医師会としてどのように関与するのか、既存の医事紛争処理委員会等との整合性をどの

ようにするのか等の問題点が指摘された。また、福岡方式が詳しく説明され、その内容は以下の通りであった。福岡県医師会が第三者機関として診療行為に関連した死亡事例の調査分析事業を行い、医師 5～6 名、看護師 1 名、事務員を入れて調査している。医師 5～6 名の構成員は、公的病院の医師やかかりつけ医であり、必要に応じて大学の医師(九州大学、福岡大学も積極的な参加を表明している)が参加している。ここが調査を行うということで、患者・家族が警察へ訴え出る予防策になっている。警察も本当は困っており、きちんとした所が、きちんとした筋の通った話を出すと、それなりに対処してくれる印象である。警察から患者に、こういう事業があるということを話しているようである。報告書の説明は、当事者と家族に説明会のような形で行い、最終的な報告書を渡している。警察や検察の取り調べを受け、職を辞される看護師や、鬱になられる医師等を見ると非常に残念であり、我々医療従事者があらぬ刑事告訴の被害を受けないことを第一に考えて事業を行っている。

九医連として、福岡方式を九州モデルにできたら良いとの考えが示され、福岡県の取り組み内容の更に具体的な説明、集中した討議の場を設けて欲しいと提案された。

日医中川副会長

日医が 9 月に出した医療事故調査に関する検討委員会の報告書は、福岡方式にならって構想したものである。診療所、中小病院だけでなく大病院も大変であることを実感している。少なくとも拙速だけは避けたいと考えているが、先生方からも遠慮なく厳しいことも含めご意見をいただきたい。納得のいく形で作らないと、なんとなく字面だけで進んでしまうと大変だと考える。現在でも年間約 80 件の刑事訴追に向けた立件や送致があり、その

流れをどう食い止めるかということもあり急ぐ必要もある。その辺のバランスを含めなんとかやっていきたいと考えており、ご助言、アドバイスをお願いしたい。

#### 4. 地域医療支援病院の承認要件見直しに関する問題点について(大分)

##### 提案要旨

厚労省が地域医療支援病院の承認要件見直しの検討を行っており、従来紹介率算定の中で評価していた救急搬送患者受け入れ数を独立で評価することにし、2 次医療圏の搬送件数の 5 % 程度以上を担うことを要件に追加しようとしている。都市部の地域医療支援病院の多くはそれをクリア出来ると思われるが、同じ 2 次医療圏にあって都市周辺市町村の医師会立地域医療支援病院はその点が難しくなっている。各県の状況と、日医の取組み及び見直しについて伺いたい。

##### 各県からの回答

数県で搬送件数が基準に満たしていない医師会病院が複数存在しているが、宮崎県の 2 医師会病院は基準を満たしている現状が報告された。

##### 日医中川副会長

日医が委員として出席している厚労省医政局の特定機能病院及び地域医療支援病院のあり方に関する検討会において見直しが行われている。特定機能病院、地域医療支援病院ともに経済的なインセンティブが非常に強く、概形基準のままでいくと増え続けてしまう。現状でも医療費が特定機能病院に偏在しつつあり、歯止めを掛けようが見直しが行われ、日医としては、特定機能病院は大学病院本院に限定すべきだと主張している。地域医療支援病院については、各県の医療審議会等で審議されることになるが、要件を満たしていれば承認せざるを得ない現状にあり、多くの県医師会から見直しの要望があがっている。こ

のままだと県内に地域医療支援病院が増え続け、特定機能病院と同様に県内の医療費が当該病院に偏在してしまうことが非常に危惧される状況であることから、日医は、地域医療支援病院の承認要件の見直しも求めている。地域医療支援病院は、当初、かかりつけ医の支援を目的とし、紹介率や逆紹介率の基準を設定していた。本来は医師会病院のみを指定することであったが、国公立病院や民間病院が手上げをし、承認されてきた経緯がある。指定されるかどうかで年間 1 億円以上の利益の差が生じる場合もある。救急の評価については、二次医療圏、救急医療圏どちらも都合の良い方で算定して構わない。また、本来の指定対象である医師会病院が新しい要件によって指定が外されることのないよう仕組みを付け加えたいと考えている。

#### 5. 各県の救命救急センターや特定機能病院の前方・後方支援に関する医師会としての取組みについて(宮崎)

##### 提案要旨

救命救急センターや特定機能病院である宮崎大学医学部附属病院へ患者が集中し、医学部附属病院の病床の有効利用に支障がみられる。今年度、大学から前方・後方支援システムを県医師会と共に構築したいとの申し入れがあるが有効なシステム構築には至っていない。各県の取組みについて伺いたい。

##### 各県からの回答

各県ともに、具体的なシステム構築はされておらず、鹿児島県では救急医療アンケート調査結果を基に、各郡市区医師会単位で医療体制の検討を図り、後に消防法における搬送基準リストや 4 疾病 5 事業における医療連携のリスト作りに貢献している等が報告された。

##### 日医中川副会長

医療機関の病床機能情報報告制度が来年度より運用が開始され、その報告制度に基づき、



各県が地域の実情を詳細に把握し、どの様な医療提供体制が必要か、地域医療ビジョンを作成することになる。各県における医療提供体制において「高度急性期」「急性期」「回復期」「慢性期」といった病床がどの様にあるべきなのかを地域医療計画に書き込むことになるので、是非、県医師会として県行政に早くから接触し連携していただきたい。

#### 6. 特定看護師の養成に関して(長崎)

##### 提案要旨

特定看護師については、現在、まだその資格および責任が明らかになっていない中、某病院の広報誌に医師の業と看護師の技術を持つ特定看護師の養成を実施しているとの記事が掲載され、多くの会員から反発があった。他県でも類似のケースがあるか伺いたい。

##### 各県からの回答

複数の県から養成が行われていると回答されたが、養成はいずれも国の試行事業によるもので、実施指定施設は大学病院や研修機関での看護師特定能力養成調査試行事業と、同事業の実施課程を修了した看護師が従事する病院や老健、訪問看護ステーション等の施設での看護師特定行為・業務試行事業である。

##### 日医中川副会長

現在、特定看護師という名称は使わず、「特定行為に係る看護師の研修制度」とした。この問題は、慢性的な医師不足に悩む外科領域の悲痛な声に対応した面もあるが、限定された一次的なものだと認識している。本来、医師の仕事を看護師が肩代わりすることは間違っている。包括的指示ではなく、適正な具体的指示のもとに進めて行くべきものである。

#### 7. 県と県医師会との災害時における医療救護に関する協定の進捗状況について(宮崎)

#### 8. 災害医療に関する県と県医師会との協定締結交渉について(大分)

##### 提案要旨

今回の協定見直しにおいて、要請に基づく JMAT 派遣の費用弁償、補償条項(県外を含む)、医師会の判断による県内派遣の事後追認は、長崎・宮崎県において、協定に盛り込まれた。しかし、県外派遣については、「県が災害救助法第 3 条による厚労大臣からの応援指示を受けてからの派遣となるため、県の意思決定後とする」と行政側が事後追認に難色を示している。県境地域・県外への派遣については、事後追認を協定に盛り込むことが望ましいと考える。また、来年の九州各県合同会議において、「九州・山口 9 県災害時相互応援協定」の見直しを協議するにあたり、何か良いご意見があれば伺いたい。

##### (7, 8 は一括協議)

##### 各県からの回答

各県ともに、県外派遣の追認条項は認められていないのが実情である。行政側は、一貫して国レベルでの協議が必要であるとの姿勢を崩しておらず、加えて、JMAT の明確な活動内容、指揮命令系統等の位置付けを求めているため、日医から国への積極的な働き掛けをお願いしたいと要望された。さらに、周りに理解して貰うためには、JMAT の定期的な研修会等による質的担保を図ることが求められる等の意見が出された。「九州・山口 9 県災害時相互応援協定」について、ブロック内派遣においては、事後追認了承の実現や、九医連常任委員会としての働き掛け、九州知事会へのアピールが必要等の意見が出された。

##### 日医中川副会長

国による JMAT の位置づけについては、東日本大震災を受けて設置された厚労省の「災害医療等のあり方に関する検討会」報告書において、震災での JMAT 活動は非常に高く評価されている。また、今後の災害対策において、医療チームの派遣元関係団体として日医が明記され、厚労省医政局指導課長通知の 5 疾病

5 事業に関する指針における災害医療分野でも、JMA T や日本赤十字社、医療関係団体等を中心とした医療チームと連携を図ることが明記されている。JMA T 活動をもとに、災害救助法の適用を要求し認められた実績もある。国における JMA T の認識・位置付けについては、飛躍的に高まっていくものと考えているので、これからも努力を続けていきたい。

#### 9. 地域医療再生基金(一次、二次、三次)の使い勝手について(沖縄)

##### 提案要旨

地域医療再生基金の一次事業を推進する中で、もう一押しの資金により、事業の完成度が高くなると思われたが、二次、三次の追加基金では用途が指定されることが多く、事業の連携や未完成部分の補充に苦勞した。本来、各地域により重点的に取り組むべき事業内容が異なるので、各地域の実情に応じた事業の完成が図れるような資金にしていきたい。各県の事業内容と進捗状況について伺いたい。

##### 各県からの回答

各県のような事業内容等が報告され、宮崎県からは、県行政とうまく連携して医師会からの要望を加味した計画が策定でき、比較的良好な方向に進んでいる。しかし、第三次においては、地域の実情に応じた基金であると言いながら、各県の提案した再生計画を、国が査定したことはおかしいのではないかとの意見が出た。また、他県からは、まずは一括して補助していただき、後程、計画を出していくことができないか等の意見も出された。

##### 日医中川副会長

厚労省医政局と何度も交渉して、2009年度から始まった補正予算であるが、2010年度に、厚労省より地域医療再生計画の作成、推進、変更などにあたり、医師会等の地域の関係者の意見を聴くよう、厚労省通知に明記させた。

しかし、県庁の計画そのものが、東日本大震災前と変わらない計画となっており、公立病院の建て替えが目立った。政府与党や厚労省としても自由に使って欲しいとする一方で、県庁が抵抗するという、変わった図式になっている。一方、県医師会と郡市医師会が中心となって地域医療連携を推進してきた実績もあるなど、各県の計画に温度差がある。現状を打破するため、日医としては、次年度の政府の概算要求の中で「地域医療再興基金」の創設を要望している。それは、地域の自由度をより高めた新たな基金で、特に地域医療を担う民間医療機関に十分配慮し、地域の実情を反映した計画に基づいた中長期的な資金を確保して、地域医療の再興を図ることを要望している。

出席者一富田副会長、古賀・荒木・

金丸常任理事、佐々木理事、小川課長

### 医療保険対策協議会

藤川謙二・鈴木邦彦日医常任理事の出席のもと、真栄田沖縄県医師会常任理事が議長に選出され、協議に入った。

#### 協 議

##### 1. 次期診療報酬改定について(鹿児島)

自民党安倍政権においては、消費税増税、TPP への交渉参加等、結果次第では国民皆保険制度・医療機関の崩壊になりかねない状況になっている中、次期診療報酬改定の進捗状況並びに羽生田参議院議員の今後の中医協への関与について日医の考えを伺いたい。

2. 次期診療報酬改定に対する日医の対応について(沖縄)

日医では、社会保険診療報酬検討委員会において、平成 26 年度改定に向けた要望事項が取りまとめられたところであるが、今後の改定の議論にどのように意見を反映させていくのか、日医の考えを伺いたい。

3. 日本医師会における中医協での診療報酬改定議論の精査について(宮崎)

平成 25 年改定での「入院患者の他医療機関受診の取扱い」と平成 24 年改定での「入院基本料等における栄養管理体制」は、実際に改定が行われた際に突如として判明した問題点である。そのようなことから、日医医療保険課もしくは日医総研内にプロジェクトチームを作り、厚労省の提案が現場に即した内容なのかを十分に調査できる環境を作るべきと考えるが、日医の考えを伺いたい。

(1～3 は一括協議)

日医鈴木常任理事 8%増税時には、診療報酬改定と別建ての高額投資対応は行わず、診療報酬改定で対応するという方針で進んでいる。上乗せ項目の対象については、基本診療料への上乗せを中心としつつ、個別項目への上乗せを組み合わせしていくということとなっている。診療所には初・再診料と有床診療所入院基本料に上乗せする。病院は診療所に乗せた点数と同じ点数を初・再診料に、200 床以上の病院は外来診療料に上乗せし、余った財源を入院基本料に上乗せする方針である。日医で取りまとめた次期改定への要望事項に

ついては、厚労省にも示しているが、今後も協議を重ねていく。日医内での体制については、今後も日医総研等でも議論を重ね、一致団結して中医協での議論に繋げていきたい。

4. 次期診療報酬改定における亜急性期および医療療養病床への手厚い財源配分と医療療養病床の増床について(長崎)

医療療養病床は在宅医療の後方病床としての要であり、在宅医療を更に推進するには医療療養病床の増床が必須と考える。日医は現在の 22 万床の医療療養病床を 2025 年に 34 万床に増やすべきと主張している。診療報酬の配分と医療療養病床の増床について、各県の意見と日医の見通しについて伺いたい。

5. 社会保障・税一体改革のなかでの入院医療について(福岡)

平均在院日数短縮、重症度・看護必要度の見直しが行われたが、急性期病床での今後予想される次期改定での展開と日医の考えを伺いたい。

なお、現在、亜急性期等に該当する病床数が最も少ない状況であるが、次期改定で考えられる「亜急性期」「回復期」の方向性を伺いたい。

6. 病床の医療機能の報告制度と地域医療ビジョンについて(熊本)

厚労省は、社保審医療部会に医療機能の分化・連携を推進する「医療法改正案」を提示、協議を重ねている。現在の「カクテルグラス型」医療提供体制を、2025 年に向けて是正、医療機能の再編成と医療費の適正化を目指している。この「医療法改正案」に日医はどのように対応するのか伺いたい。

(4～6 は一括協議)

日医鈴木常任理事 亜急性期、療養病床の問題について、厚労省は現在の病床単位の算定方法から今後は病棟単位での算定とし、7 対

1, 10対1病床数が多い現状, いわゆるカクテルグラス型から, カクテルグラスの柄の部分である亜急性期と回復期を増やし太くする予定である。地域医療ビジョンについては, 次期医療計画の算定期である平成30年度を待たずに, 平成2年度に前倒しを考えている。各都道府県において二次医療圏ごとに基準病床数をきめ細かく決めていきたいようであり, 今後は中央での管理を強化する方向で検討しているのではないかと考えている。先日の中医協では社保診療報酬部会・医療保険部会がまとめた「次期診療報酬改定における社会保障・税一体改革関連の基本的な考え方」の中で, 中医協ではまだ承認されていない入院分科会の中間まとめの内容が反映されていたため, 急変時はまずは急性期であるとして日医と四病協による合同提言を基に申し入れた。慢性期については, 18年度, 20年度改定の際にこれまでの特殊疾患病棟・障害者病棟から療養病棟へ転換した場合, 一定期間点数を増加する話であったが, 調査の結果, 特殊疾患病棟や障害者病棟から療養病棟へ転換した所はほとんどないという結果が出ているため, この部分については外しても特に問題ないのではないかと考えている。

#### 7. 地域ネットワーク構築のための医療情報交換に関する加算(福岡)

各医療機関が独自に把握している診断名, 検査成績, 処方内容, 副作用情報等を電子的に共有できれば, 無駄が少なく円滑な医療が提供できるので, この取組みを推進していくための診療報酬上の加算をお願いしたい。

#### 8. 同一医療機関の複数の診療科に対する同一月の診療情報提供料算定について(佐賀)

同一月に同じ医療機関の別の診療科に入院となることもあり, ほとんどは異なる疾患の診療を依頼するケースである。また, 同一疾

患であっても, 診療科別に依頼する診療内容は異なる為, それぞれの科に対し提供書を書いているが, その労力に対する対価は評価されていないので, 同一月の複数回算定を認めるべきである。

(7~8は一括協議)

日医鈴木常任理事 同感であるが, IT関係者は守秘義務がないなどの問題点があるので, そのあたりの条件整備を進めていかなくてはならない。診療情報提供料算定についても今後議論を進めていく。

#### 9. 診療所の個別指導, 集団的個別指導の類型区分について(長崎)

12種類の類型区分について, 形成外科と皮膚科が同一の類型区分に割り当てられている点や内科の透析なしの在宅について内科以外でも在宅は行っているといった不満が会員から挙がっているが, 各県ではいかがか。

#### 10. 関係法令に基づく医療機関の行政指導体制の在り方について(鹿児島)

個別指導や適時調査, 医療監視等, 重複する部分も多く, 日医において厚労省に対し, 行政の組織上の横連携の欠如を是正し, 効率的かつ適切で広く普遍性のある指導・調査体制を整備していただくよう提言していただきたい。

(9~10は一括協議)

日医鈴木常任理事 細分化すると今より厳しくなるというのを危惧している。但し不公平なものを是正していかなくてはならないので, 医療保険委員会のブロック推薦委員を通じて要望を出してもらいたい。行政指導体制の縦割りの弊害については, 行政の中で難しい部分もあるが, 日医としても要望していきたい。

#### 11. 配置医師の実態と医療行為について(熊本)

配置医師の療養の給付については厳しく制限されており, 医療ニーズの高い要介護者が



増加する中で、これらの施設における医療提供の在り方を再検討する必要があると指摘する意見も多い。この問題における各県の現状と日医の見解を伺いたい。

日医鈴木常任理事 配置医師の療養の給付については、歯がゆい部分もあるができるだけ努力に報いられるよう今後も働きかけを続けていく。

#### 12 認知症患者の身体合併症発生時の対応について(大分)

認知症患者が身体合併症を発症し入院が必要になった場合、受け入れ先の医療機関より認知症のケアが困難という理由で入院を拒否されたり、家族の付き添いを暗に要求される場合がある。このような事態に備えて各県で何らかの対応策を講じているか伺いたい。

日医鈴木常任理事 厚労省が作成したオレンジプランには、病院勤務医や看護師等に認知症ケアの知識を得るための研修会を行うという取組みと認知症の患者がいる場合には、専門家を派遣するという取組みを行うと入っている。精神科だけでは対応しきれないのでかかりつけ医の役割の一つとなっていくと思われる。

#### 13 保険診療における在宅医療の適正化を阻む「患者斡旋ビジネス」問題について(福岡)

サ高住(サービス付高齢者向け住宅)等における悪質な患者斡旋ビジネス問題について、本年 2 月 20 日の参議院予算委員会で取り上げられ厚労大臣から調査するとの回答を得ており、今後、政府内で有効な対策が講じられることが期待される。各県での予防も含めた対策について伺いたい。

日医鈴木常任理事 厚労省としても大きく取り扱っている。私も新聞社から取材を受けたが、医者も騙されているので、在宅医療推進を阻害する内容にはしないようお願いしてい

る。同様の案件に遭遇した場合は、厚生局へ報告することとなっている。報告が早く集まれば、中医協で議論もすぐに始められるので協力をお願いしたい。地域医師会としてもこのような事例で自浄作用を発揮できるような仕組み作りをしていかななくてはならない。

#### 14 サービス提供事業者への保険金直接支払い解禁について(福岡)

金融庁はワーキンググループにおいて、保険金を保険加入者ではなく、サービス提供者である医療機関に直接支払する方針を示している。これが、実際に導入されると、民間医療保険がさらなる市場拡大を図ることとなり、公的医療保険・国民皆保険制度を脅かすことになりかねない。日医の見解を伺いたい。

日医鈴木常任理事 金融庁で議論が行われているが、厚労省としては、かなりハードルが高い話であるとの認識である。医師会としてもフリーアクセスの阻害に繋がる内容であるのでなんとしても阻止しなくてはならない。

出席者一河野副会長、吉田・池井常任理事、  
上田理事、牧野係長

### 介護保険対策協議会

日医三上常任理事の挨拶の後、沖縄県比嘉理

事を座長に選出し、議事に入った。

1. 要支援の介護保険外しにどう対応すべきか  
(大分県)

提案要旨

平成 25 年 4 月 22 日に開催された社会保障制度改革国民会議の論点整理で、「要支援の介護保険サービス廃止」を打ち出した。引き続き開催された社会保障審議会の介護保険部会でもこれに同調する意見が出た。次期改定の平成 27 年度からの介護保険見直しで実現する可能性が高いと考えておく必要がある。

現在の要支援者に対するサービスが有効か無効かを一律に判定して廃止するという方向性は、現場を知らない者の論理と言わざるを得ない。

また、「主治医意見書」に具体的な記載を行うことによって、認知症の程度判定の信頼性を高め、介護認定審査会で他職種の認定審査会委員を納得させた上で、要介護の判定をすることが現時点では最善の対応と考える。

日医の見解及び各県のご意見を伺いたい。

2. 次期介護報酬改定における予防給付の動向について(鹿児島県)

提案要旨

社会保障制度改革国民会議において、予防給付に関し、「軽度の高齢者は、見守り・配食等の生活支援が中心であり、要支援者の介護給付範囲を適正化すべきである。具体的には、保険給付から地域包括ケア計画と一体となった事業に移行し、ボランティア、NPO などを活用し柔軟・効率的に実施すべき」との意見が出ている。情報があればご教示いただきたい。(1～2 は一括協議)

各県回答

各県とも、要支援の介護保険外しを懸念する意見であり、その対応として、主治医意見書の記載の充実に取り組むとともに、審査委

員会との関わり方について改めて検討を加えてはどうかとする意見が挙げられた。

主治医意見書の予診票記載及び主治医研修会における教育について意見が挙がり、予診票の家族の記載率の低さや、研修会へ積極的に参加する医師よりも参加しない医師の問題を併せて検討していく必要があるとの意見が示された。

次期介護報酬改定における予防給付の動向については、全国一律であった制度が市町村に移行されることによって、格差が生じることを懸念する意見があった。

日医三上常任理事

認定審査会のあり方、主治医意見書の書き方の問題について、基本的には認知症高齢者の日常生活自立度がⅡ a 以上であれば要介護 1 となるが、主治医意見書に問題行動の記載がないとなかなか要介護判定はされないため、予診票等を利用することは良いと考える。

また、地域支援事業への移行については、介護給付の 3 % まで予算が付くことになっており、現在は 2,500 億円まで使って良いこととなっている。しかし、自治体の体力等の要因から実際使われているのは、1,500 億円に留まっているのが現状である。

厚労省は自治体に、介護保険予防給付事業等が移行しても予算は同じように確保(6,000 億円)を行うこととしているが、自治体がきちっと使ってくれるかは分からず、地域により格差が生じる可能性は十分あると考える。

また法的に、介護給付と地域支援事業は 3 % と決められており、今回の予防給付の部分を何%とするかは、法律上定めなければならないという作業があり、8.9% ぐらいが妥当と考えるが、介護給付と比較して 3 倍は難しいと考える。

地域支援事業には介護予防事業とともに、

包括的支援事業があるが、在宅事業、連携拠点事業も乗り込んでくるため予算の使い方がファジーになってくることが考えられる。

### 3. 特別養護老人ホームにおける訪問看護等について(長崎県)

#### 提案要旨

国は在宅での看取りを積極的に進めており、都市部における看取り場所の不足や救急医療機関の飽和状態による機能不全も理由の一つと思われる。その流れを受け、いわゆる居宅系施設と呼ばれるグループホームや有料老人ホームでも訪問看護を利用しての看取りが以前よりも見られるようになってきたが、より医療的重症者が多い特別養護老人ホームにおいては、癌の末期にしか訪問看護が利用できないため施設での看取りに支障を来している。

現在の嘱託医制度だけでは現場のニーズに応えられないと考えるが、日医や各県の意見を伺いたい。

### 4. 特養や有料老人ホームの診察報酬の矛盾について(宮崎県)

#### 提案要旨

特養の配置医師は、その診療報酬として、再診料や往診料・管理料の算定は認められず、処方せん料の 40 点あるいは 68 点しか請求できない。一方、有料老人ホーム・サ高住等(集合住宅)入居者の場合は、在医総管(在宅医療総合管理料)算定で 5,500 点程度の請求が可能である。

当局は、特養の嘱託医は嘱託手当が支払われており、それは介護報酬に含まれていると説明する。しかし特養経営者にそのような事情は理解されておらず、十分な嘱託医報酬を得ている嘱託医は少ない。

特養も集合住宅もその内容に差はないにも関わらず、このような差があるのは不合理である。これは、介護保険制度もなく有料老人

ホームなど集合住宅が一般的でなかった頃に決められた制度で、高齢者の集合住宅が多くなると、両者の差を縮小する形で抜本的な改革が必要と考える。

「特養の嘱託医の診療報酬は嘱託手当で手当されており、それは介護報酬に含まれている」との説明には無理があり、嘱託医も特養経営者も納得できない。また介護報酬改定に際して議論された形跡もない。この際、(介護報酬に含まれているという)嘱託医手当分を介護報酬から外し、新たに診療報酬に初診料、再診料、その他加算という形で付け替えることを提案したい。

### 5. 特別養護老人ホームにおける配置医師の医療(診療報酬)について(熊本県)

#### 提案要旨

行政の考え方は、配置医師が特養で診察した場合、初診料、再診料も算定できず、使用する医薬品、医療機材料も算定できないというもので、配置医師契約料にその料金が含まれ、医薬品、医療機材は特養自体が購入するものであるというのが基本的考えである。

このことは、契約料も様々であり、特養自体も医薬品、医機材のストックを持つというのは現実的でないと考えられ、配置医師の不安を解消する必要がある。

各県における状況をご教示いただきたい。  
(3～5 は一括協議)

#### 各県回答

各県ともに、特養における嘱託医については、入所者が増加していく中で嘱託医制度での対応が不可能となりつつあることや、特養における診療報酬については矛盾点が多く、適切な報酬が得られるようにするべきとの意見であった。

大分県より、特養配置医師を対象としたアンケート結果が報告され、報酬額にばらつき

があり、各施設の事情等により様々な状況がある旨の発言があった。

福岡県より、大分県と同様に特養配置医師を対象としたアンケート結果が報告され、配置医師は、診療所管理医師が半数以上を占めていることや、特養ホーム等に出務している間の自院の状況については、休診としているとの回答が半数を占めていることなどが報告された。

また、「特養と有料老人ホーム、サ高住については整理する必要がある。特養だけを見て諸問題について国に要望し、それが認められた時に、企業が参入してくることが考えられる。サ高住と同じような状況になるのではないか」との発言があった。

日医三上常任理事

施設サービスは、病院であれば介護サービスを診療報酬で併給調整することになっている。介護保険施設は、介護報酬の中で調整されていることになっている。サ高住や有料老人ホームのように、介護報酬と診療報酬を両方併給できるとなると、青天井になり、一人 100 万円以上等、とんでもない価格が出てくる。効率的なサービスをするには併給調整のシステムは必要ない考える。

基本的には、介護報酬の中に配置医師あるいは看護師の医療行為分は入っている。それは全て特養という施設側に支払われるため、その中で配置医師や看護師に報酬を支払うという形を理解しないと全ての施設サービスについては、理解ができない。全ての施設を介護報酬、診療報酬の併給にすると非効率な形になるのではないかと考える。配置医師の報酬、置かれている立場が、非常に低く見積もられていることについては、その通りであると考え。今後問題化していくと考えられるが、看取りについては、加算がつくことになっ

ており、最後は 1,280 単位、その前の 2 日間は 680 単位、30 日遡った 2 日間、80 単位となっている。看取りについては施設に配置された看護師が、配置医師と看取りした場合に、看取り加算がつくこととなっており、徐々に評価されてくるだろうと考えている。

#### 6. 認知症サポート医の活動状況について

(大分県)

提案要旨

医療計画の中に認知症施策が含まれ地域における認知症対策は高齢化の急速な進行と共に喫緊の課題となっている。

認知症サポート医は地域での認知症対策のコアとなるべき存在として期待されているが、養成後の国のサポートは十分とは言い難い。

当県では認知症サポート医連絡協議会を設立し認知症サポート医全員が参加している。平成 24 年度はフォローアップ研修とかかりつけ医認知症専門研修を行った。

また、県医師会と県で専門研修を受講した地域のかかりつけ医と認知症サポート医を「大分オレンジドクター」として認定し認知症の相談を気軽に受けられる体制を整備しつつある。

認知症サポート医の活動状況について各県の現状をお聞きしたい。

#### 7. 「認知症初期集中支援チーム等設置促進モデル事業」及び「認知症医療支援診療所(仮称)地域連携モデル事業」について(福岡県)

提案要旨

厚労省では、市町村認知症施策総合推進事業として当該事業を打ち出しており、今後の地域における包括的な認知施策の中心となるものである。これらに地域医師会が積極的に関与していくためには、県医師会からの情報発信も極めて重要である。各県の現状、日医の考えもご教示いただきたい。

(6～7 は一括協議)



## 各県回答

各県の取組み状況に差異があることが示された。

福岡県では北九州市(政令指定都市)の精神科クリニックにおいて、「認知症医療支援診療所(仮称)地域連携モデル事業」が参加することとなっており、今後は、北九州市に要請し、県行政、郡市医師会、県医師会が運営協議会としてオブザーバーに入ることとなっている。

鹿児島県では、「認知症初期集中支援チーム等設置促進モデル事業」に参加することとしている。

また、モデル事業に対して今までどおりの地域連携で対応可能であり、あえて実施せずともよいのではないかとの意見も挙げられた。

## 日医三上常任理事

認知症サポート医には、内科を中心に診るコーディネータ型の医師と、神経内科・精神科の専門医療と確定診断まで行う医師の二通りある。「認知症初期集中支援チーム等設置促進モデル事業」及び「認知症医療支援診療所(仮称)地域連携モデル事業」は、専門医型のサポート医をおくことで評価が決まっている。

その他にも、市町村認知症施策総合推進事業があり、サポート医が支援推進員(コーディネータ)あるいは嘱託医という形で地域包括支援センターの中に入って活用されるケースもあり、診療報酬として評価されるのではなく、行政より人材費(非常勤)として評価されている。

我々としても養成だけするのではなく、ちゃんと評価してもらいたいということを、審議会等で要望しており動向について見守っていただきたい。

県医師会としては、サポート医マップ作りについては是非取り組んでいただきたい。

## 8. 介護保険における在宅介護サービスと施設サービスの問題点(佐賀県)

## 提案要旨

在宅介護は、家族の介護負担、経済的負担が大きいことから、利用が促進されず、現実的に介護保険施設への入所待機者が増加している。

在宅介護は、1か月の利用者負担額が高額になった場合、所得に応じて一部負担の上限額が設定され、それを超えた分は後日償還払いで措置されるものの、一時的に費用の支払いが必要になることから、サービス提供の必要があるにも拘らず、利用者は初めからサービス利用を控える状況にある。特に老老介護の世帯や独居の要介護者は、この傾向が強く、我慢が強いられており、介護保険施設の入所待機者が増加している一因になっている。高齢者の増加を勘案すると、今後、在宅での介護は不可欠であり、受けやすくなるよう、費用負担の方法も含めて制度を改善する必要があると考える。

各県の考えと日医の見解を伺いたい。

## 各県回答

各県より、在宅介護サービスの制度を改善するべきとの意見が示されたが、熊本県から、低所得者への配慮として社会福祉法人等による利用者負担額軽減制度もあり、今後進められる介護保険制度改革においては、低所得者への更なる配慮が検討されることとなっていることから、制度改善の必要があるとは考えていない旨の回答があった。

## 日医三上常任理事

鹿児島県より、限度額適用認定制度と同様の取扱いをしてはどうかとの意見がある。限度額適用認定制度は、事前に申請し、上限を超えた金額については、償還払いではなく、全額現物給付するというものになっている。

しかし、介護保険で適用させる場合、様々な事業所を使うため、どの事業所の分を現物給付するのかということが難しい。技術的には良いと考えるが、医療の時は上限が分からなく、介護ではある程度の超える額が分かる為、このような制度は必要ないのではないかと考える。

#### 9. 介護療養病床の平均在院日数について

(長崎県)

##### 提案要旨

長崎県では、基準病床数の 1.2 倍のベッド数を有しながら、一部の地域では患者急変時のベッド確保に支障を来している。理由の一つに、慢性期ベッドの回転率の低さに起因する受け皿不足もある。

各県の状況と、ベッドの回転を速めるためのインセンティブが必要かどうかについて、考えをお尋ねしたい。

##### 各県回答

各県より、一般病床、医療療養病床、介護療養病床の平均在院日数が示された。

大分県から、患者急変時のベッド確保の問題を改善させるためには、受け皿を増やすだけではなく、円滑に回転させるための必要な空床を常に確保しておく必要があるとの意見があった。

鹿児島県から、退院後の受け皿となる介護保険施設や居住系施設等、また在宅医療推進等、更なる医療介護環境の整備を並行して議論する必要があるとの意見もあった。

##### 日医三上常任理事

介護療養の入所者特性を見ると、医療療養とは機能分化されてきている。医療療養は医療区分 1 が減り、介護療養は医療区分 1 が増えている。介護療養の要介護度は平均 4.5 以上であり、老健も特養も全て重度化している。在宅復帰施設というのは、定められているの

は老健施設のみとなっており、ベッド回転率の評価が入っている。介護療養病床には、医療区分は 1 でも寝たきりの人等、要介護 5 である為、その方々の回転率を良くするというインセンティブはどうかと考える。最終的に看取りを行うことの方が多いと考える。

リハビリを行えば回転率を上げることができるが、要介護 3 くらいの方は、リハビリをするとある程度在宅に変えられる可能性があり、短期集中リハ(3 か月)が、ベッド回転率を上げるインセンティブには繋がっていると考える。

元々介護施設を 3 施設作ったのは、それぞれの患者特性に応じて入居してもらうためである。在宅に変えられる人というのは老健施設に入って、リハビリを受けて帰っていただく。特養については、要介護 3 以上しか入れないというとんでもないことが出てきているが、介護療養については、医療があり、医師や看護師を必要とする人達が入るという特性であるので、ここでベッド回転率を上げることについては、個人的には意味がないのではないかと考える。

#### 10 定期巡回・随時対応サービスの事業性について(鹿児島県)

##### 提案要旨

厚労省の調べによると定期巡回・随時対応サービスの事業所数が伸びていない。

大まかな試算をすれば、要介護 4 または 5 の方は、定期巡回・随時対応サービスを利用するより、個別の介護サービスを受けた方が経済的に有利である。

逆に、要介護 1 または 2 の方は、経済的に有利であるが、事業者にとって持ち出しになる。従って、定期巡回・随時対応サービスでは要介護 3 が利用者層となる。

つまり、利用者が限定的であることを示し

ており、都市部では、利用者の割合が低くても人口が多いので、絶対数は確保できるが、地方においては、利用者を確保できないと思われ、その結果が事業所数に表れていると考えられる。

参入を妨げている 1 番大きな課題は、利用者の確保困難性にあると考えるが、各県の見解を伺いたい。

各県回答

各県から、定期巡回・随時対応サービスの事業所数が伸び悩んでいる要因として、介護報酬および人材や利用者の多い都市部を中心と考える制度のあり方に問題があるとする意見が示された。

日医三上常任理事

定期巡回・随時対応サービスは、地域型と集合住宅型(サービス付高齢者向け住宅型。以下、「サ高住」)に分かれており、地域型ではほとんどサービスが提供できず、サ高住でないと採算ベースに合わない。また、地域型では非常にサービスが手薄になってしまい、サービスを受ける高齢者が不利益を被ることが懸念される。

地域型で 24 時間、安定的に医療と介護を行えるようにするには、複合サービスを利用することが良いのではないかと考える。

出席者一立元・牛谷常任理事、矢野理事、  
鳥井元係長

## 宮崎県医師会医療情報コーナー

県医師会館 1 階の「医療情報コーナー」では、分かりやすい医療や介護の本、闘病記のほか、難病・認知症・健康増進や子育てに役立つ本・雑誌・DVD などを幅広く取り揃えています。県民の皆様への貸出もしておりますので、お気軽にお立ち寄りください。パソコン情報検索、ビデオ・DVD の視聴もできます。

開室時間：月～金曜日 10：00～19：00 土曜日 10：00～18：00

休館日：日曜・祝日、12 月 29 日～1 月 3 日、8 月 14～15 日、特別整理期間(3 日間)

〒 880-0023 宮崎市和知川原 1 丁目 10 番地

TEL 0985-22-5118 E-mail: tosho@m-iyazakimedor.jp

## 第 63 回全国医師会医療秘書学院連絡協議会定例総会

と き 平成 25 年 9 月 21 日(土)

ところ 甲府富士屋ホテル(山梨県甲府市)

平成 24 年度の全国医師会医療秘書学院連絡協議会定例総会は、山梨県医師会の担当で開催された。

挨拶

葉袋健<sup>みない</sup>協議会長(山梨県医師会長)

日本医師会は、医療秘書の質の向上を図るための組織として昭和 5 年に医療秘書認定試験委員会を設置した。認定試験をこれまでに 33 回実施しており、約 8,500 名の日本医師会認定医療秘書が活躍している。

近年一層の少子高齢化が進む中で、医療の現場ではより高度化、専門化が進んでいるが、医療の業務を効率的に、かつ迅速正確に補助できる優秀な医療秘書の役割は非常に多岐に及んでおり、活躍の場も医療にとどまらず福祉や介護の分野へと拡大している。平成 20 年には厚労省は病院勤務医の業務負担を軽減するために、医師が行っている事務作業を補助する医師事務作業補助者の配置に対し、診療報酬算定の対象とした。平成 24 年度の診療報酬改定で対象となる医療機関も増大しており、今後診療所等での算定も期待している。医療秘書がますます医療機関にとって重要な職種として注目されている。

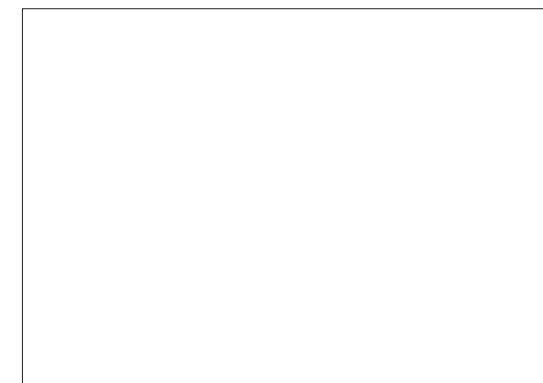
本協議会でも医療秘書が一層活躍する場を設けるために、算定要件が緩和され診療所でも算定できるようになることを、日本医師会の協力をいただきながら取り組んでいる所である。

来賓祝辞

日本医師会 横倉義武会長

(日医藤川謙二常任理事代読)

社会保障制度改革国民会議報告書が取りまと



められた。これは、社会保障制度の方向性を打ち出すことを目的とするものであり、私ども医療に携わるものにとっても非常に重要なものである。日本医師会は、国民の安全な医療に資する政策であるか、国民皆保険は堅持できる政策であるか、この 2 点を判断基準として今後の社会保障政策に対応していく所存である。地域医療の現場を担っている皆様が必死で頑張っておられることを深く認識し、あるべき国民医療の確保、地域医療の再生に向けて最善を尽くして参りたい。

また、医師の過重労働が問題とされる中、医師事務作業補助体制加算についても、医師が医師としての業務に専念できるよう、急性期の病院だけでなく診療所の医師の過重労働を改善するためにも、更なる要件緩和、点数アップを引き続き要望していく所存である。

報告

1. 日本医師会医療秘書認定試験委員会について

委員会の使命は認定試験の実施であるが、



今年度は特に 20 年ぶりに教科書の全面改定作業を行っている。平成 26 年度から新しい教科書となるよう作業中である。

日本医師会認定医療秘書の認知度アップのためには、全国に展開することが必要であり、病院に多数の卒業生が採用されることが必要である。医師会のご協力をお願いする。

新教科書については、以前より単位数を少なくしている。各学院におかれては、本日配付の資料を参照されて、来年度の講師を依頼する参考にしていただければと思う。

## 2. 各学院の現況調査結果について

現況調査結果に基づき、医療秘書の養成を行っている 9 つの県から報告があった。

就職に関しては順調な学院が多いようであるが、医療秘書としての募集が少ないため医療事務として就職をすることが多い。また、医療秘書としての募集があっても経験者と限定していることが多い。医師事務作業補助としての募集はさらに少なく、大手派遣会社が独占をしているという報告もあった。

また、実際に医療秘書を採用している診療所の参加者からは、パソコンの入力作業など非常に助かっており、欠かせない存在になっているとの発言があった。

## 3. その他

医師事務作業補助について、医療機関に対して行ったアンケート結果が発表された。

医師事務作業補助者の業務については、診断書、主治医意見書、診療情報提供書等の文書作成補助、電子カルテ、診療・検査予約等の代行入力、診療に関するデータ入力、院内教育資料作成等幅広い業務をしていた。また、医師事務作業補助者の配置によって病院では 97.1% が、診療所では 78.9% が医師・医療関係職の負担が軽減されたと回答していた。

## 協 議

平成 24 年度収支決算、平成 25 年度事業計画、収支予算(案)が、原案通り承認された。

来年度は宮城県医師会が当番県となり、定例総会は平成 26 年 9 月 27 日に宮城県仙台市において開催されることが決まった。

## 総 括

日本医師会 藤川謙二常任理事

教科書はいつごろ完成するのか、来年度の計画を立てるために早く作ってくれという質問、要望が多く来ている。可能な限り早くお手元にお届けして 4 月から円滑な運営が出来るように頑張りたい。

来年度からカリキュラムが変わるが、平成 27 年 2 月の認定試験は、現在の教科書からの出題と新教科書からの出題と 2 種類の認定試験を作成し、どちらで受験するかを選択制にする予定である。

新しいカリキュラムの内容や時間数はプロジェクト委員会で示されているものから基本的には変更はないが、実習に関しては、時間数を減らすかもしれない。正式に決まり次第報告をする。

医療秘書養成所の普及拡大については、昨年の滋賀県に続き平成 26 年度から岡山県において養成が開始される予定である。また、本日オブザーバーとして出席していただいている埼玉県医師会、福岡県医師会においても現在養成開始に向けて学校と調整中である。

各学院がさまざまに努力され医療秘書の養成をしていただき心より感謝する。医療秘書の必要性については、アンケート調査により証明されているので、急性期病院のみならず、慢性期病院や診療所でも加算がとれるように要望していきたい。

出席者一富田副会長、牛谷常任理事、久永課長

## 薬事情報センターだより (318)

## 新薬紹介(その67)

今回は8月に薬価収載されたGLP-1受容体作動薬リクシミア皮下注 300 $\mu$ g(一般名:リキシセナチド)と抗悪性腫瘍剤/抗HER2ヒト化モノクローナル抗体パージェタ点滴静注 420mg/14mL(一般名:ペルツズマブ(遺伝子組換え))について紹介いたします。

リクシミア皮下注 300 $\mu$ g(一般名:リキシセナチド)

リキシセナチドは、Zealand Pharma A/Sにおいて創製・開発され、その後、サノフィ社により開発が進められたGLP-1受容体作動薬です。ジペプチジルペプチダーゼ4(DPP-4)による切断に抵抗性を示すexendin-4に類似した特徴的な構造を持ち、作用の持続化が図られており、臨床試験において、インスリン分泌作用・グルカゴン分泌抑制作用・胃内容排出遅延作用により、優れた食後血糖抑制作用を示すことが確認されました。

また、基礎インスリンとの併用試験で、血糖コントロールの更なる改善と良好な忍容性が認められ、2013年6月現在、GLP-1受容体作動薬で、わが国では唯一、基礎インスリンとの併用が認められました。

本剤は、2013年6月に、「2型糖尿病 ただし、下記のいずれかの治療で十分な効果が得られない場合に限る。①食事療法、運動療法に加えてスルホニルウレア剤(ビグアナイド系薬剤との併用を含む)を使用 ②食事療法、運動療法に加えて持効型溶解インスリンまたは中間型インスリン製剤(スルホニルウレア剤との併用を含む)を使用」を効能・効果として承認され、9月にサノフィ株式会社から発売されました。なお、2013年8月現在、ドイツ、オーストリア、イギリス等で発売されています。

国内外で実施された2型糖尿病患者を対象とした第Ⅲ相臨床試験において、日本人250例中175例(70.0%)に副作用が認められました。主な副作用は、悪心88例(35.2%)、低血糖症41例(16.4%)、食欲不振3例(1.2%)等でした。なお、重大な副作用として、低血糖、急性膵炎、

アナフィラキシー反応、血管浮腫が現れることがあります。また、類薬の重大な副作用として、腸閉塞があります(承認時)。

パージェタ点滴静注 420mg/14mL(一般名:ペルツズマブ(遺伝子組換え))

パージェタは、米国Genentech社により創製された遺伝子組換えヒト化モノクローナル抗体で、HER2(Human Epidermal Growth Factor Receptor Type 2:ヒト上皮増殖因子受容体2型)の細胞外領域ドメインII(HER2ダイマー形成ドメイン)に特異的に結合し、細胞内のシグナル伝達系を阻害して、細胞増殖の抑制やアポトーシスを誘導するとともにADCC(Antibody Dependent Cellular Cytotoxicity:抗体依存性細胞障害作用)活性を誘導します。ペルツズマブとトラスツズマブはHER2レセプターの異なる部分を標的とし、併用によりそれぞれを単剤で投与するよりもHER2シグナル伝達系をより広範囲に遮断します。

本剤は、2013年6月に「HER2陽性の手術不能又は再発乳癌」を効能・効果として承認され、9月に中外製薬株式会社から発売されました。なお、2013年6月に米国で、2013年3月にEUで承認されています。

HER2陽性の手術不能又は再発乳癌患者を対象とした国際共同第Ⅲ相試験でドセタキセル水和物、トラスツズマブ及び本剤が併用投与された407例(日本人26例を含む)において、副作用が396例(97.3%)に認められました。主な副作用は、下痢236例(58.0%)、脱毛症232例(57.0%)、けん怠感212例(52.1%)等でした(承認時)。また、重大な副作用として、好中球減少症、白血球減少症、Infusion Reaction、アナフィラキシー、過敏症、間質性肺疾患が報告されています。

## 〈参考資料〉

リクシミア皮下注 300 $\mu$ g、パージェタ点滴静注 420mg/14mL各添付文書・

インタビューフォーム

(宮崎県薬剤師会薬事情報センター

永井 克史)

## 10月のベストセラー

- |                                   |                     |             |
|-----------------------------------|---------------------|-------------|
| 1 終物語(上)                          | 西 尾 維 新             | 講 談 社       |
| 2 日本人へ 危機からの脱出篇                   | 塩 野 七 生             | 文 藝 春 秋     |
| 3 税金官僚から逃がせ隠せ個人資産                 | 副 島 隆 彦             | 幻 冬 舎       |
| 4 長生きしたけりゃふくらはぎをもみなさい             | 鬼 木 豊 監修<br>楨 孝 子 著 | ア ス コ ム     |
| 5 ロスジェネの逆襲                        | 池 井 戸 潤             | ダイヤモンド社     |
| 6 人間にとって成熟とは何か                    | 曾 野 綾 子             | 幻 冬 舎       |
| 7 日本人はいつ日本が好きになったのか               | 竹 田 恒 泰             | P H P 研 究 所 |
| 8 村上海賊の娘(上)(下)                    | 和 田 竜               | 新 潮 社       |
| 9 黒書院の六兵衛(上)(下)                   | 浅 田 次 郎             | 日本経済新聞出版社   |
| 10 世界のエリートはなぜ、<br>「この基本」を大事にするのか? | 戸 塚 隆 将             | 朝日新聞出版      |

宮協書店本店調べ 提供：宮崎店（宮崎市青葉町）☎（0985）23-7077

## お知らせ

平成 25 年度日本医師会認定医療秘書養成制度  
卒業生求職のお願い

宮崎県医師会では、日本医師会認定医療秘書養成を県内 3 教育機関に委託しております。日本医師会医療秘書認定試験の合格を目指し、医療事務に必要な知識、最新の情報処理技能などの資格を備えるとともに、医療機関の今日的な使命を自覚し、誠実さと思いやりの心を大事にする人間形成にも力を入れています。

今年度、医療事務職員採用のご予定がございましたら、何卒、県内 3 教育機関からご採用いただきますようご検討をお願いいたします。

なお、求職に関するお問い合わせ等につきましては、直接各教育機関の担当者までご連絡くださるようお願い申し上げます。

|                                                              |                                                     |                                                                     |
|--------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------|
| 宮崎学園短期大学<br>(宮崎市)                                            | 宮崎医療管理専門学校<br>(宮崎市)                                 | 都城コアカレッジ<br>(都城市)                                                   |
| 就職希望者 20名<br>(女 20名)                                         | 就職希望者 28名<br>(男 4 名, 女 24名)                         | 就職希望者 13名<br>(女 13名)                                                |
| 連絡先: TEL 0985-85-0146<br>宮崎市清武町加納 1415<br>担当: 佐土原 敦<br>谷口 和子 | 連絡先: TEL 0985-86-2271<br>宮崎市田野町甲 1556-1<br>担当: 福元 進 | 連絡先: TEL 0986-38-4811<br>都城市吉尾町 77-8<br>担当: 原口桂一郎<br>中山さおり<br>吉原真由美 |

## 日医インターネットニュースから

## ■ HES 製剤3製品で注意喚起

## — 厚労省・安全性情報 —

厚生労働省医薬食品局は9月25日、「医薬品・医療機器等安全性情報・第305号」をまとめた。フレゼニウス カービ ジャパンの血液代用剤「ヘスパンダー輸液」（一般名＝ヒドロキシエチルデンプン70000）などヒドロキシエチルデンプン含有製剤（HES製剤）3製品に対し、腎機能障害を注意喚起する内容を盛り込んだ。

HES製剤をめぐるのは、重症敗血症患者およびICU入室患者に投与した場合に、腎代替療法や死亡に至るリスクがリンゲル液や生理食塩水を投与した患者よりも有意に高いことが海外臨床試験で明らかになっている。このため欧州では、HES製剤の販売承認中止勧告が出ている。

今回、注意喚起の対象となったのは、▽HES製剤の「ヘスパンダー輸液」（一般名＝ヒドロキシエチルデンプン70000）▽「サリンヘス輸液6%」（同70000）▽「ボルベン輸液6%」（同130000）の3製品。国内販売中のヘスパンダー輸液とサリンヘス輸液6%は効能・効果で重症敗血症などの患者への投与を想定していないが、厚労省は効能・効果に関連する使用上の注意で注意喚起することにした。

一方、承認済みだが、現時点で国内未発売のボルベン輸液6%は、「循環血液量の維持」が効能・効果で重症敗血症などの患者への投与が考えられるため、新たに警告欄を新設。「治療上の有益性が危険性を上回る場合にのみ投与する」ことに注意喚起した。重大な副作用にも腎機能障害を追記する。（平成25年10月1日）

## ■ 28品目の対応で取りまとめ案を了承

## — 厚労省・専門家会合 —

厚生労働省は10月8日に開かれた「スイッチ直後品目等の検討・検証に関する専門家会合」（座長＝五十嵐隆・国立成育医療研究センター総長・理事長）に、安全性を検証するスイッチ直後23品目と劇薬指定5品目の計28品目の特性や販売時の留意点についての取りまとめ案を示し、構成員全員の満場一致で了承した。28品目のネット販売の可否については言及していない。厚労省

は今後、専門家会合の意見を踏まえ、28品目への対応を検討する。今月15日に開会する臨時国会での薬事法改正案の提出を目指す。

## ● スイッチ直後は「別のカテゴリー」

専門家会合は3回目、前回の8月23日から1か月半ぶりに開かれた。この日の会合で厚労省が示した案では、スイッチ直後品目の対応について「本来の一般用医薬品（OTC）とは別の医療用に準じたカテゴリーのもの」と位置付け、販売時には「医療用に準じた最大限の情報収集と個々人の状態を踏まえた最適な情報提供を可能とする体制を確保した上で丁寧かつ慎重な販売が求められる」と指摘。ほかのOTCの販売とは区別し、薬剤師が知識と経験を持って使用者の状態を直接判断することや、購入者の反応などを見て使用者が指導事項を確実に理解したことを確認することなどを留意点に挙げた。

また「広く大量に」「簡便に」購入できるような形での流通は避けることや、副作用が発現した際に販売した薬剤師が責任を持って「即座に」対応できることも求めている。スイッチ直後品目の場合、基本的に短期的な治療効果が期待されるという特性から、使用者以外や常備薬としての販売も禁止し、代理購入などのケースでは医療機関への受診を促したり、類似効能のOTCを勧めるよう盛り込んだ。その上で「スイッチ直後の期間中は経過観察の期間」と捉え、従来に比べ、より丁寧に慎重な販売方法を求めている。

（平成25年10月11日）

## ■ かかりつけ医がいる人、健康意識も高い

## — 日医総研が調査 —

40歳以上の男女の約65%がかかりつけ医を持ち、かかりつけ医のいない人に比べて日常から健康への意識が高い傾向にあることが、日医総研のかかりつけ医に関する意識調査で分かった。

調査は国民のかかりつけ医へのかかり方やそのニーズなどを把握するため、無作為に選んだ40歳以上の男女4000人を対象に実施した。病気や健康状態についての相談や診療もしてくれる身近なかかりつけ医の有無やその人数、かかりつけ医への要望などを調べた。回収率は約5割で、2080人から回答があった。



かかりつけ医の有無に関する調査では、全体の 65.1%が「かかりつけ医がいる」と答え、年齢が高齢になるほど割合も高くなった。「かかりつけ医はいないが、いるとよいと思う」は 30.4%、「いない、いなくてもよい」は 4.5%だった。

かかりつけ医の人数は全体の 7 割が 1 人だった。2 人は 22.0%，3 人以上は 7.5%だった。1 人と回答した人が通う医療機関は 82.7%が診療所，12.5%が中小病院，4.8%が大病院で，高齢になるほど中小病院，大病院に向かう割合が高かった。かかりつけ医の診療科は全体の約 9 割が「内科」で，かかりつけ医が 2 人以上の人は「内科と整形外科」「内科と眼科」という傾向が強かった。

かかりつけ医がいる人は日常の健康への意識が高いことも分かった。かかりつけ医がいると答えた人の約 6～7 割が，栄養バランスの取れた食生活のほか意識的に休息や睡眠をとること，規則正しい生活などに日ごろから心掛けており，かかりつけ医がいない人よりそれぞれ 7～10 ポイント上回った。

#### ●選ぶ情報は「診療方針や医療への考え方」

かかりつけ医を探す際に必要な情報については，「医師の診療方針や医療への考え方」が 81.2%，「連携している医療機関や介護施設」が 79.0%，「対応できる治療や検査，患者数」が 78.5%，「医師の得意分野，経歴，顔写真」が 72.0%の順で高かった。

日医総研はこれらの結果を踏まえ，「さまざまな形で情報提供にもかわらず，国民から『選ぶための情報がない』との意見も多く，提供側と受療側のギャップが大きい。地域の医師会が中心となって情報提供を行う取組を広げるべき」

と提言した。（平成 25 年 10 月 18 日）

#### ■設備改修義務なら財政支援に配慮を — 有床診の防火対策で日医 —

福岡市博多区の安部整形外科で入院患者らが死亡した火災を受け，藤川謙二常任理事は 10 月 17 日，政府・与党に有床診療所の安全体制を強化・充実させるための財政支援を求める考えを示唆した。同日の定例会見で「煙感知方式の防火扉への更新やスプリンクラーの設置義務が課せられた場合，多額の設備費用負担に耐えられない有床診がほとんどだ」と述べ，設備の改善を求められた場合には有床診への配慮が必要だと訴えた。

今回の火災では，行政に無届けで増築した医院が防火扉の感知装置を煙感知式に替えていなかったことや，防火扉が閉じられない状態になっていたことが指摘されている。これについて藤川常任理事は「人命を預かる医療機関として，十分な防火体制が取られていなかったことは残念」と述べた。

一方で設備を改善するように求められても，多くの有床診は多額の費用負担に耐えられない可能性がある」と指摘。「有床診が安全体制を強化・充実するために，政府・与党に財政支援を求めることも考えている」と述べた。

横倉義武会長は同日の定例会見で「二度とこのようなことが無いように，各医療機関において，防火設備の点検や防火管理体制の徹底を図っていただきたい。国民に良質で安心・安全な医療を提供する使命を担う医療機関として，防災を含めた患者の安全体制の強化に全力で取り組みたい」と述べた。（平成 25 年 10 月 22 日）

このコーナーの記事は“日医インターネットニュース”から抜粋して掲載していますので，詳細を知りたい方は日本医師会ホームページをご覧ください。毎週火・金に更新していますので全ての記事が閲覧できます。

日医インターネットニュースへのアクセス方法

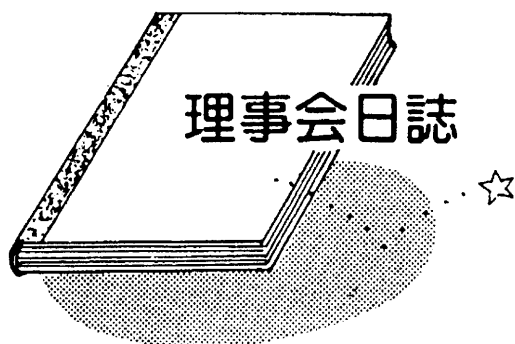
日本医師会(<http://www.med.or.jp>)にアクセス

日本医師会ホームページ右上のメンバーズルームをクリック

メンバーズルームに入る方法

ユーザー ID：会員 ID 番号(日医からの送付物の宛名シール下部に印刷されている 10桁の数字)を 0 も含め，全て半角で入力

パスワード：先生の生年月日の 6 桁の数字を半角で入力  
例) 1964 年 5 月 1 日生まれの場合，610501



平成 25 年 9 月 24 日(火)第 7 回全理事協議会

医師会関係  
(議決事項)

1. 10/17(木)(南那珂)社会保険医療担当者(医科)の個別指導の実施について  
1 医療機関を対象に行われる個別指導で、石川常任理事を立会い人として派遣することが承認された。
2. 本会外の役員等の推薦について
  - ①「宮崎県歯科保健推進協議会部会」における委員推薦について  
→特に成人期における歯科保健対策の具体的な内容を協議することを目的に設置される「成人期部会」で、荒木常任理事を推薦することが承認された。
  - ②地方公務員災害補償基金宮崎県支部審査会の委員の推薦について  
→地方公務員に対する災害補償の審査会で、任期満了に伴う推薦依頼があり、引き続き河野副会長を推薦することが承認された。
  - ③公務災害補償等認定委員会及び公務災害補償等審査会の委員の推薦について  
→議会議員等の非常勤職員に対する災害補償の審査会等で、任期満了に伴う推薦依頼があり、引き続き審査会の委員に河野副会長、認定委員会の委員にご本人の意向を確

認した上で、杜若幸子先生を推薦することが承認された。

3. 後援・共催名義等使用許可について

- ① 12/19(木)(メディキット県民文化センター)  
平成 25 年度宮崎県社会福祉大会に対する後援名義の使用許可について  
→社会福祉活動の発展に功労のあった方々の顕彰並びに地域福祉の更なる充実に向けた啓発を目的に開催される大会で、名義後援を行うことが承認された。

4. 平成 26 年度妊婦及び乳幼児健康診査並びに眼科及び耳鼻咽喉科に係る三歳児精密健康診査における審査事務費の見積りについて

例年同様、1 件当たりの審査事務費を 50 円として、各市町村に提案することが承認された。

5. 平成 26 年度妊婦及び乳幼児健康診査に係る委託単価見積りについて

昨年同様、妊婦が全 14 回で 107,610 円と 95,610 円の 2 つのパターンとし、乳幼児が 6,700 円で各市町村に提案することが承認された。

6. 平成 25 年度インフルエンザ定期予防接種に係る広域契約について

県内市町村に住所のある高齢者に対し、当該市町村契約外での接種が可能となるよう契約するもので、市町村によって一部負担金にばらつきがあるが、接種料金を 3,600 円、事務手数料を予診票 1 件あたり 200 円で契約を締結することが承認された。

7. 10・11 月の行事予定について

10 月の追加行事と 11 月の行事について確認が行われた。

(報告事項)

1. 週間報告について
2. 9/17(木)(支払基金)支払基金幹事会について
3. 9/17(木)(日医)日医理事会について

4. 9 /19~~(木)~~(宮観ホテル)宮崎銀行経営説明会について
5. 9 /22~~(日)~~(シーガイア)日本警察医会総会・学術講演会について
6. 9 /1~~(火)~~(日医)日医有床診療所に関する検討委員会について
7. 9 /19~~(木)~~(県医)県有床診療所協議会総会について
8. 9 /12~~(木)~~(日医)日医医療情報システム協議会運営委員会について
9. 9 /13~~(金)~~(日医)日医医療秘書認定試験委員会について
- 10 9 /21~~(土)~~(山梨)全国医師会医療秘書学院連絡協議会常任委員会について
- 11 9 /19~~(木)~~(東京)日医・米国研究製薬工業協会(PhRMA)共催シンポジウムについて
- 12 9 /19~~(木)~~(日医)日医公衆衛生委員会について
- 13 9 /22~~(日)~~(福岡)eレジフェアについて
- 14 9 /14~~(土)~~(県医)産業医研修会(前期)について
- 15 9 /21~~(土)~~(山梨)全国医師会医療秘書学院連絡協議会定例総会等について
- 16 9 /12~~(木)~~(JA ǂAZM 本館)社会保険医療担当者(医科)の集团的個別指導について
- 17 9 /5~~(木)~~(JA ǂAZM 本館)社会保険医療担当者(医科)の個別指導について
- 18 9 /9~~(月)~~(県医)医学会誌編集委員会について
- 19 9 /7~~(土)~~(県医)県医医学会について
- 20 9 /12~~(木)~~(県医)広報委員会について
- 21 9 /14~~(土)~~(県医)園医部会総会・研修会について
- 22 その他
  - ①「米韓FTAと韓国医療等」調査団報告書(日本文化厚生農業協同組合連合会〔平成 24年 8月〕)について

医師連盟関係  
(議決事項)

1. 10/23~~(木)~~(東京)衆議院議員 江藤 拓 [希望ある未来を拓く]政経セミナーについて  
東京の憲政記念館で開催される政経セミナーで、協力を行うことが承認された。
2. 11/1~~(金)~~(仙台)桜井 充を励ます会～参議院議員 15周年と出版を記念して～について  
ホテルメトロポリタン仙台で開催される会で、協力を行うことが承認された。

平成 25年 10月 1 日~~(火)~~第 16回常任理事協議会

医師会関係  
(協議事項)

1. 本会外の役員等の推薦について
  - ①宮崎県生活習慣病検診管理指導協議会委員の推薦について  
→市町村等で実施される健康診査の実施状況や検診実施機関の精度管理の状況を把握・評価して専門的な見地から適切な指導を行うことを目的に設置される協議会で、任期満了に伴う推薦依頼があり、現行委員の意向を確認した上で推薦を行うことが承認された。
2. 後援・共催名義等使用許可について
  - ① 10/10~~(金)~~(宮大)・12~~(土)~~(南九大)第 13回日伊科学技術宮崎国際会議 2013の後援(名義)について  
→日本・イタリアの科学技術と市民交流を目的に「宮崎の偉人 高木兼寛に学ぶ」と題し開催される国際会議と「食と健康を考える」と題し開催される市民フォーラムで、名義後援を行うことが承認された。
  - ② 11/30~~(土)~~(JA ǂAZM 本館)県民公開講座のご後援について  
→県歯科医師会が主催し、「生きるという

こと～口から始める健康づくり～」をメインテーマに開催される県民公開講座で、名義後援を行うことが承認された。

3. 11/19(火)(日医)平成 25 年度第 2 回都道府県医師会会長協議会の開催について

稲倉会長は日医役員となることから、富田副会長が代理出席することが承認された。また提出議題については、稲倉会長並びに富田副会長に一任することとなった。

4. 10/26(土)(日医)日本医師会 Mass Gathering Medicine に関する研修会の開催について

テロ対策等集団災害を中心とした研修を行うことによって、医師会における災害医療体制の充実、災害対応能力の向上に資することを目的に開催される研修会で、富田副会長と立元常任理事が出席することが承認された。

5. 女性医師支援センター事業九州ブロック会議について

日医が実施する女性医師支援センター事業の一環として、地域の声を聞くと同時に本事業を理解してもらうことを目的に開催される会議で、荒木・金丸常任理事が出席することが承認された。

(報告事項)

1. 9 月末日現在の会員数について
2. 9/25(木)(宮観ホテル)宮崎政経懇話会について
3. 9/28(土)(沖縄)九医連常任委員会について
4. 9/25(木)(宮崎労働局)労災診療指導委員会について
5. 9/27(金)(九州厚生局宮崎事務所)九州地方社会保険医療協議会宮崎部会について
6. 9/28(土)(沖縄)九医連各種協議会(在宅医療・地域医療・医療保険・介護保険)について
7. 9/27(金)(日医)日医医療秘書認定試験委員会について

8. 9/26(木)(JA-AMZ 本館)社会保険医療担当者(医科)の個別指導について

9. 9/27(金)(日医)日医大学医学部女性医師支援担当者連絡会について

10. 9/26(木)(県医)自賠委員会について

11. 9/26(木)(県医)損害保険医療協議会について

12. 10/1(火)(県医)治験審査委員会について

13. 9/26(木)(県医)県プライマリ・ケア研究会学術広報委員会について

医師連盟関係

(議決事項)

1. 10/9(木)(宮観ホテル)平成 25 年度三師会懇談会について

本会の担当で開催される懇談会で、提出議題の確認が行われると共に稲倉委員長、河野・富田常任執行委員が出席することが承認された。

(報告事項)

1. 「国民医療を守る議員の会(仮称)」参加について地元自民党国会議員に対する要請について
2. 10/25(金)(串間)「河野しゅんじ・県政報告会」のご案内について

平成 25 年 10 月 8 日(火)第 17 回常任理事協議会

医師会関係

(議決事項)

1. 10/31(木)(JA-AMZ 本館)社会保険医療担当者(医科)の個別指導の実施について

1 医療機関を対象に行われる個別指導の再開で、前回に引き続き上田理事を派遣することが承認された。

2. 後援・共催名義等使用許可について

①H 26.2/9(日)(シーガイア)第 5 回日本介護支援専門員協会九州・沖縄ブロック研究大会 in みやざきの名義後援について  
→ケアマネジャーのこの先の行方を語る～



求められる存在になるために～を大会テーマに開催される研修会で、名義後援を行うことが承認された。

3. 11/12(火)(県医)県福祉保健部・病院局との意見交換会について

開催日程及びスケジュールの確認が行われ承認された。県に対する要望は、各郡市医師会及び役員からの意見を確認した上で、今月末の全理事協議会に提出することが承認された。

4. 11/26(火)(県医)各 郡 市 医 師 会 長 協 議 会 について

主に 11/19に開催される都道府県医師会長協議会の報告を予定しているもので、日程及びスケジュールの確認が行われ、各郡市医師会に提出議題等を照会することが承認された。

5. 11/15(金)(沖縄)九医連第 33回常任委員会・第 106回臨時委員総会並びに 11/16(土)九医連委員・九州各県医師会役員合同協議会の開催について

日程の確認が行われ、常任委員会への提出議題については会長一任となり、理事者で提案がある場合は申し出ることとなった。

6. 11/24(日)(日医)厚生労働省主催「平成 25年度新型インフルエンザの診療に関する研修」の開催について

今後発生が予想される病原性の高い新型インフルエンザに備え、厚労省主催で開催される研修で、吉田常任理事が出席することが承認された。

(報告事項)

1. 週間報告について  
2. 10/4(金)(日医)日医医療秘書認定試験委員会について  
3. 10/5(土)(シーガイア)病院部会・医療法人部会合同研修会について

4. 10/4(金)(県医)健康教育委員会について  
宮日「きゅんと」への記事掲載について、協力を続けることが確認された。

医師連盟関係

(協議事項)

1. 10/14(月)(宮観ホテル)県経済団体協議会の開催について

JA や商工会議所をはじめとする県内の主要団体で構成される協議会で、稲倉委員長が出席することが承認された。

2. 10/2(日)(都城)日本創造研究会第 6 回特別セミナーについて

自民党の石破茂幹事長を講師に招き開催されるセミナーで、協力することが承認された。

3. 12/15(日)平成 25年度・第 1 回「日医連医政活動研究会」開催について

今年度初めて開催される研究会で、メンバーの吉田常任執行委員と清山知憲先生が出席することが承認された。

(報告事項)

1. 「国民医療を守る議員の会(仮称)」参加について  
地元自民党国会議員に対する要請について

平成 25年 10月 15日(火)第 18回常任理事協議会

医師会関係

(議決事項)

1. 本会外の役員等の推薦について

①「宮崎県地域医療支援機構」代表者会議の委員再任について

→地域医療に従事する医師のキャリア形成支援等を行うことによって、医師の地域偏在を解消し地域医療体制の充実を図ることを目的に設置される会で、任期満了に伴い委員の交代があり、引き続き稲

- 倉会長と古賀常任理事の就任を承諾することが承認された。
- ②日本医師・従業員国民年金基金 第 10 期代議員候補者推薦について  
→任期満了に伴う推薦依頼で、加入者の中から、平成 28 年 3 月時点で 60 歳を超えない方を九州ブロックより 2 名推薦するもので、例年、九州各県から順番で選出していることから、本会としては推薦を見送ることが承認された。
2. 後援・共催名義等使用許可について
- ①「2013 年度 市民参加型フォーラム」名義後援のお願いについて  
→「住み慣れたところで、最後まで安心して過ごしたい」在宅における薬の上手な使い方～薬の効果と副作用を見極めて～をテーマに開催される市民参加型フォーラムで、名義後援を行うことが承認された。
3. 九州医師会連合会委員・九州各県医師会役員合同協議会(11 月 16 日)における日本医師会への質問・要望事項について  
日本医師会横倉会長の中央情勢報告に対する質問事項で、本会から「病床機能報告制度における区分と診療報酬上の対応」、「有床診療所の設備整備に対する補助」等を中心に質問事項をまとめ、次の常任理事協議会で再度協議することとなった。
4. 第 113 回九州医師会連合会総会における宣言・決議(案)について  
9 月末の九医連常任委員会での修正案の再確認依頼で、文面等の確認が行われ承認することとなった。
5. 九州医師会連合会平成 25 年度第 2 回各種協議会の開催種目について  
在宅医療関連がいずれの協議会にも該当すること、地域医療対策協議会の対象範囲が大きいこと等の意見が出され、次の常任理事協議会で、再度協議することとなった。
6. その他
- ①日本医師会がん対策推進委員会の「がん医療における地域差に関する調査」の実施について  
→地域におけるがん医療の調査に関連して、本県の拠点病院等の指定のあり方に対する問題提起があり、現時点では、本会の対応をそのまま回答することが承認された。
- (報告事項)
1. 10/13(日)(日医)九州ブロック日医代議員連絡会議について
2. 10/13(日)(日医)日医臨時代議員会について
3. 10/10(木)(日医)日医医療情報システム協議会運営委員会について
4. 10/1(金)(県医)医療安全対策セミナーについて
5. 10/10(木)(日医)産業保健活動推進全国会議について
- 医師連盟関係
- (報告事項)
1. 10/9(木)(宮観ホテル)三師会懇談会について

# 県 医 の 動 き

( 10月)

|        |                                                                                                     |    |                                                                                                              |
|--------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1      | 治験審査委員会(富田副会長他)<br>第 16回常任理事協議会(会長他)                                                                | 18 | 全国医師国保組合連合会代表者会(富山)<br>(秦理事長)<br>全国医師国保組合連合会全体協議会(富山)<br>(秦理事長他)                                             |
| 2      | 土曜会(報道機関支局長の会)との懇談会(会長他)                                                                            |    |                                                                                                              |
| 3<br>4 | 日医社会保険指導者講習会(日医)(上田理事)                                                                              |    | 全国医師国保組合連合会全体協議会観光(富山)<br>(秦理事長)                                                                             |
| 4      | 日医医療秘書認定試験委員会(日医)(富田副会長)<br>健康教育委員会(河野副会長他)                                                         | 19 | 産業医研修会(実地)(池井常任理事)<br>九州医師協同組合連合会通常総会(福岡)<br>(富田副会長他)<br>宮崎大学統合 10周年記念式典及び祝賀会(会長)<br>鶴田病院創立 50周年記念祝賀会(河野副会長) |
| 5      | 病院部会・医療法人部会合同研修会<br>(池井常任理事)                                                                        |    |                                                                                                              |
| 5<br>6 | 九州首市医師会連絡協議会(大分)                                                                                    |    | 九州医師協同組合連合会通常総会(福岡)<br>(富田副会長他)                                                                              |
| 6      | 全国医師協同組合連合会広報部会(東京)<br>(立元常任理事)                                                                     | 20 | 全国医師国保組合連合会全体協議会観光(富山)<br>(秦理事長)<br>九州在宅医療推進フォーラムin宮崎(会長)<br>女性医師フォーラム(荒木常任理事他)                              |
| 7      | 医師国保組合理事会(秦理事長)                                                                                     |    |                                                                                                              |
| 8      | 産業医研修会(実地)<br>第 1回常任理事協議会(会長他)                                                                      | 22 | 医協打合会(立元常任理事)<br>第 19回常任理事協議会(会長他)                                                                           |
| 9      | 都道府県医師会検案担当理事連絡協議会(日医)<br>(立元常任理事)<br>支払基金幹事会(会長)<br>三師会懇談会(会長他)                                    | 24 | 地域医療現場における働きやすい環境を考える<br>会(荒木常任理事)<br>広報委員会(荒木常任理事他)<br>介護保険委員会(河野副会長他)                                      |
| 10     | 産業保健活動推進全国会議(日医)(池井常任理事)<br>日医医療情報システム協議会運営委員会(日医)<br>(富田副会長)<br>県内科医会学術委員会<br>県産婦人科医会常任理事会(濱田常任理事) | 25 | 県産業保健連絡協議会等(会長他)                                                                                             |
| 11     | 日本神経感染症学会懇親会(会長)<br>医療安全対策セミナー(TV会議:都城・延岡・<br>日向・児湯・西都・南那珂・西諸)<br>(富田副会長他)<br>広報委員会(富田副会長他)         | 26 | ICLS指導者養成ワークショップ<br>日医Mass Gathering Medicine研修会(日医)<br>(富田副会長他)                                             |
| 13     | 九州ブロック日医代議員連絡会議(日医)(会長他)<br>日医臨時代議員会(日医)(会長他)                                                       | 27 | 県医親善ゴルフ大会(会長他)<br>ACLS研修会<br>救急・災害医療国際連携フォーラム<br>(古賀常任理事)                                                    |
| 14     | 県経済団体協議会(会長)                                                                                        | 28 | 県訪問看護推進協議会(古賀常任理事)<br>みやざき愛の献血運動推進県民大会(会長)                                                                   |
| 15     | 日医理事会(日医)(会長)<br>第 18回常任理事協議会(河野副会長他)                                                               | 29 | 医協理事・運営委員合同協議会(会長他)<br>医協理事会(会長他)<br>第 8 回全理事協議会(会長他)                                                        |
| 17     | 社会保険医療担当者(医科)の個別指導(日南)<br>(石川常任理事)                                                                  | 30 | 労災診療指導委員会(河野副会長他)<br>県がん対策推進協議会(会長)                                                                          |
|        |                                                                                                     | 31 | 九州地方社会保険医療協議会宮崎部会<br>(河野副会長)<br>諸規程検討委員会(会長他)                                                                |

## お知らせ

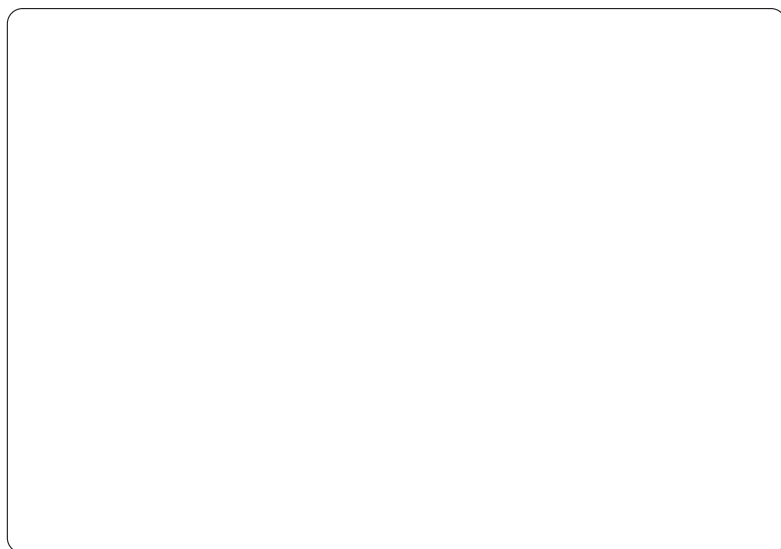
宮崎県ドクターズテニス大会(都城)  
開催のお知らせ

皆様におかれましてはますますご健勝のことと心よりお慶び申し上げます。  
さて、上記テニス大会を下記のとおり開催することとなりました。  
万障お繰り合わせの上、ご参加くださいますようお願い申し上げます。

1. 日 時 平成 25 年 11 月 17 日(日) 午前 10 時開始(午前 9 時 45 分集合)
2. 場 所 クラブハウス イワキリ  
〒 885-0084  
宮崎県都城市五十町 2375  
TEL 0986-26-3288
3. 参 加 費 ドクター 3, 0 0 0 円  
そ の 他 2, 0 0 0 円
4. 種 目 混合ダブルスなど
5. 問い合わせ先 都城市郡医師会病院 森重  
TEL 0986-39-2322 FAX 0986-39-1108

ご家族、従業員の参加も歓迎いたします。

準備の都合上、11 月 14 日(木)までにお知らせください。





団体所得補償保険

## ドクターバンク情報

(無料職業紹介所)

平成 25年 10月 15日現在

本会では、会員の相互情報サービスとしてドクターバンク(求人・求職等の情報提供)を設置しております。登録された情報は、当紹介所で管理し秘密は厳守いたします。

現在、下記のとおり情報が寄せられております。お気軽にご利用ください。

お申込み、お問合せは当紹介所へ直接お願いいたします。

また、宮崎県医師会ホームページでも手続きと情報のあらましを紹介しておりますのでご覧ください。

### 1. 求職者登録数 3人

#### 1) 男性医師求職登録数 3人 (人)

| 希 望 診 療 科 目 | 求 職 数 | 常 勤 | 非 常 勤 |
|-------------|-------|-----|-------|
| 内 科         | 2     | 2   | 0     |
| 外 科         | 1     | 1   | 0     |

### 2. 斡旋成立件数 46人

|             | 男性医師 | 女性医師 | 合 計 |
|-------------|------|------|-----|
| 平 成 25 年 度  | 1    | 0    | 1   |
| 平成 16年度から累計 | 34   | 12   | 46  |

### 3. 求人登録 98件 366人 (人)

| 募 集 診 療 科 目 | 求 人 数 | 常 勤 | 非 常 勤 |
|-------------|-------|-----|-------|
| 内 科         | 107   | 74  | 33    |
| 外 科         | 35    | 25  | 10    |
| 整 形 外 科     | 31    | 24  | 7     |
| 精 神 科       | 20    | 16  | 4     |
| 循 環 器 科     | 15    | 15  | —     |
| 脳 神 経 外 科   | 11    | 10  | 1     |
| 消 化 器 内 科   | 18    | 14  | 4     |
| 麻 酔 科       | 12    | 9   | 3     |
| 眼 科         | 9     | 7   | 2     |
| 放 射 線 科     | 7     | 6   | 1     |
| 小 児 科       | 6     | 4   | 2     |
| 呼 吸 器 内 科   | 14    | 12  | 2     |
| リハビリテーション科  | 4     | 4   | —     |
| 血 液 内 科     | 2     | 2   | —     |
| 神 経 内 科     | 10    | 9   | 1     |
| 救 命 救 急 科   | 6     | 6   | —     |
| 健 診         | 8     | 3   | 5     |
| 産 婦 人 科     | 4     | 4   | —     |
| 泌 尿 器 科     | 3     | 1   | 2     |
| 検 診         | 2     | —   | 2     |
| 皮 膚 科       | 3     | 2   | 1     |
| 人 工 透 析     | 2     | 2   | —     |
| 耳 鼻 咽 喉 科   | 1     | 1   | —     |
| そ の 他       | 36    | 28  | 8     |
| 合 計         | 366   | 278 | 88    |

## 求 人 登 録 者 (公 開)

※求人情報は、申し込みが必要です。宮崎県医師協同組合、  
無料職業紹介所(ドクターバンク)へお申し込み下さい。

※下記の医療機関は、公開について同意をいただいております。

| 登録番号   | 施 設 名                     | 所 在 地 | 募 集 診 療 科                          | 求人数 | 勤 務 形 態 |
|--------|---------------------------|-------|------------------------------------|-----|---------|
| 150005 | 医)りっか会ピア・メンタル ささき病院       | 宮 崎 市 | 精                                  | 2   | 常勤・非常勤  |
| 160011 | 赤十字血液センター                 | 宮 崎 市 | 検診                                 | 2   | 非常勤     |
| 160013 | 医)三晴会 金丸脳神経外科病院           | 宮 崎 市 | 脳, 整, 放, 麻, 内                      | 9   | 常勤・非常勤  |
| 160017 | 医)プレストピア プレストピアなんば病院      | 宮 崎 市 | 乳腺, 内                              | 3   | 常勤      |
| 160020 | 財)弘潤会 野崎病院                | 宮 崎 市 | 精, 内                               | 2   | 常勤      |
| 160031 | 社医)同心会 古賀総合病院             | 宮 崎 市 | 呼, 神内, 眼, 総診, 呼外, 臨病, 乳外, 整外, 麻酔   | 11  | 常勤      |
| 160033 | 医)如月会 若草病院                | 宮 崎 市 | 内, 精                               | 3   | 非常勤     |
| 170046 | 医)社団善仁会 市民の森病院            | 宮 崎 市 | 消内, 内分泌内, 呼, リウマチ, 神経内, 健診         | 6   | 常勤・非常勤  |
| 170048 | 医)慶明会 けいめい記念病院            | 国 富 町 | 内, 眼                               | 2   | 常勤      |
| 170052 | 医)春光会                     | 宮 崎 市 | 外, 内                               | 6   | 常勤・非常勤  |
| 180061 | 医)あいクリニック                 | 宮 崎 市 | 精                                  | 2   | 常勤・非常勤  |
| 180082 | 国立病院機構宮崎東病院               | 宮 崎 市 | 内, 神内, 整                           | 5   | 常勤      |
| 190087 | 宮崎市郡医師会病院                 | 宮 崎 市 | 消内, 呼内                             | 6   | 常勤      |
| 190094 | 医)耕和会 迫田病院                | 宮 崎 市 | 内, 外, 整                            | 9   | 常勤・非常勤  |
| 190095 | 医)慶明会 宮崎中央眼科病院            | 宮 崎 市 | 眼                                  | 2   | 常勤・非常勤  |
| 190096 | 医)晴緑会 宮崎医療センター病院          | 宮 崎 市 | 消化, 麻, 循, リハビリ                     | 5   | 常勤・非常勤  |
| 200104 | 医)社団善仁会 宮崎善仁会病院           | 宮 崎 市 | 内, 外, 救急, 呼外, 婦人                   | 7   | 常勤      |
| 200105 | 医)誠友会 南部病院                | 宮 崎 市 | 内, 外, 放                            | 3   | 常勤      |
| 210110 | 医)幸秀会 大江整形外科病院            | 宮 崎 市 | 整                                  | 1   | 常勤      |
| 210118 | 慈英病院                      | 宮 崎 市 | 内, 外, 整                            | 12  | 常勤・非常勤  |
| 220126 | 八代医院                      | 宮 崎 市 | 内                                  | 1   | 非常勤     |
| 230128 | 医)真愛会 高宮病院                | 宮 崎 市 | 内                                  | 1   | 常勤      |
| 230132 | 医)康友会 青島クリニック             | 宮 崎 市 | 内                                  | 1   | 常勤      |
| 230134 | 医)慈光会 宮崎若久病院              | 宮 崎 市 | 精                                  | 2   | 常勤      |
| 230139 | 介護老人保健施設サンフローラみやざき        | 国 富 町 | 内, 外                               | 2   | 常勤      |
| 230140 | 医)将優会 クリニックうしたに           | 宮 崎 市 | 外, 内, 整, 家庭医, 総合臨床                 | 1   | 常勤      |
| 230141 | 医)博愛社 佐土原病院               | 宮 崎 市 | 内                                  | 1   | 非常勤     |
| 230143 | 医)社団孝尋会 上田脳神経外科           | 宮 崎 市 | 脳外, 内                              | 2   | 常勤      |
| 230144 | 宮崎生協病院                    | 宮 崎 市 | 総内, 呼吸内, 消化器内, 健診                  | 8   | 常勤・非常勤  |
| 230145 | のぞみ医院                     | 宮 崎 市 | 内                                  | 1   | 非常勤     |
| 230146 | 財)潤和リハビリテーション振興財団 潤和会記念病院 | 宮 崎 市 | 内, 神内, 外, 整外, 脳外, リハ, 麻酔, 救急, 緩和ケア | 10  | 常勤      |
| 230148 | 医)コムロ美容外科                 | 宮 崎 市 | 美外, 形成外, 外, 麻酔                     | 8   | 常勤・非常勤  |
| 160008 | 医)正立会 黒松病院                | 都 城 市 | 泌                                  | 1   | 非常勤     |
| 160010 | 特医)敬和会 戸嶋病院               | 都 城 市 | 内, 消内, 整, 神内                       | 7   | 常勤・非常勤  |
| 160018 | 医)宏仁会 メディカルシティ東部病院        | 都 城 市 | 内, 救急, 放射, 脳外, 外, 総合, 眼, 透内        | 8   | 常勤      |
| 170056 | 医)社団アブラハムクラブ ベテスダクリニック    | 都 城 市 | 循内, 脳外, 呼, 神内                      | 5   | 常勤      |
| 170057 | 医)清陵会 隅病院                 | 都 城 市 | 内, 外, 整                            | 3   | 常勤      |
| 180064 | 国立病院機構都城病院                | 都 城 市 | 消内, 血内, 循, 内, 脳, 産婦, 耳鼻            | 9   | 常勤      |
| 180069 | 大悟病院                      | 三 股 町 | 精, 内                               | 2   | 常勤      |
| 180081 | 医)恵心会 永田病院                | 都 城 市 | 精                                  | 1   | 常勤      |
| 190092 | 都城市郡医師会病院                 | 都 城 市 | 内, 呼                               | 4   | 常勤      |

| 登録番号   | 施 設 名               | 所 在 地 | 募 集 診 療 科                    | 求人数 | 勤 務 形 態 |
|--------|---------------------|-------|------------------------------|-----|---------|
| 190093 | 一社)藤元総合病院附属総合健診センター | 都 城 市 | 内                            | 2   | 常勤・非常勤  |
| 210113 | 医)邦楽会 河村医院          | 都 城 市 | 内                            | 1   | 常勤      |
| 210114 | 藤元総合病院              | 都 城 市 | 精                            | 2   | 常勤      |
| 230127 | 医)倫生会 三州病院          | 都 城 市 | 外, 内, 麻                      | 9   | 常勤・非常勤  |
| 230133 | 介護老人保健施設すこやか苑       | 都 城 市 | 不問                           | 1   | 常勤      |
| 230135 | 医)廣師会 信愛医院          | 都 城 市 | 内                            | 1   | 常勤      |
| 230137 | 医)宏仁会 海老原内科         | 都 城 市 | 内                            | 1   | 常勤      |
| 240142 | 医)魁成会 宮永病院          | 都 城 市 | 内, リハビリ                      | 2   | 常勤      |
| 230150 | 介護老人保健施設ウェルネス苑都城    | 都 城 市 | 不問                           | 1   | 常勤      |
| 230153 | 都城健康サービスセンター        | 都 城 市 | 放, 消内, 消外, 健診                | 4   | 非常勤     |
| 160012 | 医)伸和会 共立病院          | 延 岡 市 | 外, 整, 皮, 放, 内, 消外            | 6   | 常勤      |
| 160021 | 医)建悠会 吉田病院          | 延 岡 市 | 精                            | 2   | 常勤      |
| 160034 | 特医)健寿会 黒木病院         | 延 岡 市 | 外, 内, 緩ケア                    | 6   | 常勤・非常勤  |
| 160036 | 医)久康会 平田東九州病院       | 延 岡 市 | 内, 外麻, 精, 神内, 脳神経,<br>老施, 心内 | 5   | 常勤・非常勤  |
| 190086 | 早田病院                | 延 岡 市 | 内                            | 1   | 常勤      |
| 200100 | 医)育生会 井上病院          | 延 岡 市 | 産婦, 内, 小                     | 3   | 常勤      |
| 200102 | 延岡市医師会病院            | 延 岡 市 | 消内                           | 3   | 常勤      |
| 210109 | 延岡市夜間急病センター         | 延 岡 市 | 内, 小                         | 2   | 非常勤     |
| 210112 | 医)嘉祥会 岡村病院          | 延 岡 市 | 内                            | 3   | 常勤・非常勤  |
| 230151 | 介護老人保健施設エクセルライフ     | 延 岡 市 | 内                            | 1   | 常勤      |
| 160039 | 医)誠和会 和田病院          | 日 向 市 | 外, 内, 整, 神内                  | 6   | 常勤      |
| 210111 | 宮崎県済生会 日向病院         | 門 川 町 | 内                            | 3   | 常勤      |
| 230130 | 医)ラポール向洋            | 日 向 市 | 内                            | 1   | 常勤      |
| 230131 | 医)向洋会 協和病院          | 日 向 市 | 内                            | 1   | 常勤      |
| 230147 | 美郷町国民健康保険西郷病院       | 美 郷 町 | 内, 整                         | 2   | 常勤      |
| 230152 | 美郷町国民健康保険南郷診療所      | 美 郷 町 | 内                            | 1   | 常勤      |
| 160006 | 都農町国保病院             | 都 農 町 | 内, 放, 外, 小                   | 4   | 常勤      |
| 160023 | 医)宏仁会 海老原総合病院       | 高 鍋 町 | 整, 内, 心内, 眼, 健診, 循, 脳        | 16  | 常勤・非常勤  |
| 170058 | 国立病院機構宮崎病院          | 川 南 町 | 呼, 循, 消内, 外                  | 8   | 常勤      |
| 180077 | 医)聖山会 川南病院          | 川 南 町 | 眼, 麻, 脳                      | 13  | 常勤・非常勤  |
| 160024 | 医)隆徳会 鶴田病院          | 西 都 市 | 内, 外                         | 2   | 常勤      |
| 150002 | 医)慶明会 おび中央病院        | 日 南 市 | 内                            | 4   | 常勤・非常勤  |
| 150003 | 医)同仁会 谷口病院          | 日 南 市 | 精                            | 1   | 常勤      |
| 160022 | 医)愛鍼会 山元病院          | 日 南 市 | 内, 消内, 神内                    | 3   | 常勤      |
| 160037 | 医)十善会 県南病院          | 串 間 市 | 精, 内                         | 1   | 常勤      |
| 170047 | 日南市立中部病院            | 日 南 市 | 内, 神内, 整, リハビリ               | 4   | 常勤      |
| 180071 | 串間市民病院              | 串 間 市 | 腎内                           | 1   | 常勤      |
| 220124 | 医)月陽会 きよひで内科クリニック   | 日 南 市 | 内                            | 4   | 常勤・非常勤  |
| 230129 | 医)秀英会 英医院           | 串 間 市 | 内                            | 1   | 常勤      |
| 230138 | 小玉共立外科              | 日 南 市 | 不問                           | 2   | 常勤・非常勤  |
| 230149 | 介護老人保健施設おびの里        | 日 南 市 | 内                            | 2   | 常勤・非常勤  |
| 160019 | 医)相愛会 桑原記念病院        | 小 林 市 | 内, 整, 皮膚                     | 5   | 常勤・非常勤  |
| 170043 | 医)和芳会 小林中央眼科        | 小 林 市 | 眼                            | 2   | 常勤・非常勤  |
| 180067 | 小林市立病院              | 小 林 市 | 循, 救急, 産婦, 放, 小              | 10  | 常勤      |
| 180076 | 医)友愛会 園田病院          | 小 林 市 | 外, 内, 整                      | 7   | 常勤・非常勤  |
| 190090 | 特医)浩然会 内村病院         | 小 林 市 | 精                            | 2   | 常勤      |
| 190091 | 医)友愛会 野尻中央病院        | 小 林 市 | 整, 内                         | 4   | 常勤・非常勤  |
| 170049 | 五ヶ瀬町国保病院            | 五ヶ瀬町  | 整                            | 1   | 常勤      |
| 180070 | 高千穂町国保病院            | 高千穂町  | 内, 透                         | 2   | 常勤      |
| 190088 | 日之影町国保病院            | 日之影町  | 内, 整                         | 2   | 非常勤     |



## 病医院施設の譲渡・賃貸

◆譲渡，賃貸希望の物件を紹介いたします。

平成 25 年 10 月 15 日現在

|         |                                                                   |                                       |
|---------|-------------------------------------------------------------------|---------------------------------------|
| 1. 譲渡物件 | ① 宮崎市阿波岐ヶ原町前田 263 番，263 番<br>土地のみ：593.5 坪（2022.17m <sup>2</sup> ） | ＜所有者：児湯医師会員<br>（医） <u>松雲会</u> 林クリニック＞ |
|---------|-------------------------------------------------------------------|---------------------------------------|

### ドクターバンク無料職業紹介所利用のご案内

1. 取扱範囲は宮崎県内全域です。但し，求職者は県外でも結構です。
2. 紹介受付は，月～金の午前 9 時から 12 時及び 13 時から 17 時です。
3. 申込み方法は，所定の用紙「求職票」「求人票」にご記入後登録させていただきます。
4. ご希望に沿った先を斡旋させていただきます。
5. 求職者の紹介時には各医療機関で医師免許等のご確認をお願いいたします。
6. 斡旋成立時の紹介料は，「求人」「求職」いずれも無料です。

お問合せ先

ドクターバンク無料職業紹介所

〒 880-0023 宮崎市和知川原 1 丁目 10 番地（宮崎県医師協同組合）

TEL 0985-23-9100(代)・FAX 0985-23-9179

E-mail: [isikyou@m-iyazakimed.or.jp](mailto:isikyou@m-iyazakimed.or.jp)

### お知らせ

## 日州医事へのご意見・ご感想をお待ちしています

日州医事では，読者の皆様から広くご意見・ご感想・ご要望をお待ちしています。本誌に対するご感想や，読みたい記事のご提案など，忌憚のないご意見を是非お寄せください。

なお，いただいたご意見は「読者の広場」として日州医事上で匿名にて紹介させていただくことがあります。掲載を希望されない場合はその旨お知らせください。

宛先

宮崎県医師会広報委員会

E-mail: [genko@m-iyazakimed.or.jp](mailto:genko@m-iyazakimed.or.jp)

FAX: 0985-27-6550

## 宮 崎 県 医 師 会 行 事 予 定 表

平成 25 年 10 月 30 日現在

| 11 |   |                                                                                                                                          | 月  |   |                                                                                                                |        |
|----|---|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|---|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|
| 1  | 金 | 13: 00 (日医)日医設立記念医学大会                                                                                                                    | 16 | 土 | 10: 00 九医連委員・九州各県医師会<br>役員合同協議会<br>13: 00 九州医師会総会・医学会                                                          | ↑      |
| 2  | 土 | 15: 00 日医生涯教育協力講座セミナー<br>15: 00 産業医研修会(実地)                                                                                               |    |   |                                                                                                                |        |
| 3  | 日 | (文化の日)<br>13: 00 全国医師協同組合連合会通常総会                                                                                                         | 17 | 日 | 10: 00 九医学分科会・記念行事<br>世界糖尿病デー市民公開講座                                                                            | 国      |
| 4  | 月 | (振替休日)                                                                                                                                   | 18 | 月 | 14: 00 研修管理委員会<br>19: 00 医師会立看護学校担当理事連絡<br>協議会<br>19: 00 県うつ病医療検討部会                                            |        |
| 5  | 火 | 18: 00 治験審査委員会<br>19: 00 第 20 回常任理事協議会                                                                                                   |    |   |                                                                                                                | 保<br>審 |
| 6  | 水 | 15: 00 県認知症高齢者グループホーム連絡<br>協議会理事会<br>16: 00 (日医)日医医療秘書認定試験委員会                                                                            | 19 | 火 | 13: 30 (日医)日医理事会<br>13: 30 県ドクターヘリ運航調整委員会<br>15: 00 (日医)都道府県医師会長協議会<br>18: 20 医協打合会<br>19: 00 第 2 回常任理事協議会     |        |
| 7  | 木 | 16: 00 地域リハビリテーション広域支援<br>センター連絡会議<br>19: 00 日医社会保険指導者講習会復講                                                                              | 20 | 水 | 18: 30 医協会計監査                                                                                                  | ↓      |
| 8  | 金 |                                                                                                                                          | 21 | 木 | 13: 30 (日医)都道府県医師会感染症危機<br>管理担当理事連絡協議会                                                                         |        |
| 9  | 土 | 10: 00 全国医師会勤務医部会連絡協議会<br>10: 00 全国学校保健・学校医大会<br>14: 30 産業医研修会<br>17: 30 宮崎医療センター病院設立 10 周年<br>記念祝賀会                                     | 22 | 金 | 12: 00 宮崎政経懇話会県央地区例会                                                                                           | ↑      |
|    |   |                                                                                                                                          | 23 | 土 | (勤労感謝の日)                                                                                                       |        |
| 10 | 日 | 14: 00 県小児科医会秋季総会・学術講演会                                                                                                                  | 24 | 日 | 13: 30 (日医)新型インフルエンザの<br>診療に関する研修                                                                              | 社      |
| 11 | 月 | 19: 00 高次脳機能障がい講演会<br>19: 00 県内科医会会誌編集委員会                                                                                                | 25 | 月 | 13: 30 宮大経営協議会<br>18: 30 宮崎銀行との懇談会<br>19: 00 広報委員会<br>19: 00 生活習慣病検診従事者研修会                                     |        |
| 12 | 火 | 15: 00 県立病院事業評価委員会<br>18: 30 第 9 回全理事協議会<br>19: 20 県福祉保健部・病院局と県医師会<br>との意見交換会                                                            |    |   |                                                                                                                | 保<br>審 |
| 13 | 水 | 14: 00 (日医)都道府県医師会有床診療所<br>担当理事連絡協議会<br>16: 00 支払基金幹事会<br>16: 45 (日医)日医有床診療所に関する検討<br>委員会<br>18: 00 HTLV -I 母子感染対策協議会<br>19: 00 県警察医会協議会 | 26 | 火 | 18: 00 九州地方社会保険医療協議会<br>宮崎部会<br>18: 00 医協理事会<br>18: 30 第 10 回全理事協議会<br>終了後 医協理事・運営委員合同協議会<br>19: 20 各都市医師会長協議会 |        |
|    |   |                                                                                                                                          | 27 | 水 | 15: 00 労災診療指導委員会<br>18: 30 県医会計監査<br>19: 00 産業医研修会                                                             | ↓      |
| 14 | 木 | 10: 00 社会保険医療担当者(医科)の個別<br>指導<br>18: 10 世界糖尿病デー県庁ライトアップ<br>19: 30 広報委員会<br>19: 30 県産婦人科医会常任理事会                                           | 28 | 木 | 14: 30 (日医)日医公衆衛生委員会<br>17: 30 メディカルトラライアングル<br>プロジェクト学生向けセミナー                                                 |        |
|    |   |                                                                                                                                          | 29 | 金 | 14: 00 (日医)都道府県医師会勤務医担<br>当理事連絡協議会<br>15: 00 (日医)日医医療秘書認定試験委員会                                                 | ↑      |
| 15 | 金 | 16: 30 九医連常任委員会<br>17: 30 九医連臨時委員総会<br>19: 00 県外科医会秋期講演会<br>19: 00 産業医研修会                                                                | 30 | 土 | 13: 30 県訪問看護ステーション連絡協議会<br>総会・研修会<br>15: 00 九州学校検診協議会専門委員会<br>16: 00 県整形外科医会研修会<br>17: 00 九州各県学校保健担当理事者会       |        |

※都合により、変更になることがあります。

## 宮 崎 県 医 師 会 行 事 予 定 表

平成 25 年 10 月 30 日現在

| 12 月 |                                                                                                    |      |                                                            |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|------|------------------------------------------------------------|
| 1 日  | 8 : 44 宮銀ゴルフコンペ                                                                                    | 15 日 | 8 : 00 指導医のための教育ワーク<br>ショップ                                |
| 2 月  | 19 : 00 広報委員会                                                                                      |      | 14 : 00 日医連医政活動研究会                                         |
| 3 火  | 18 : 00 治験審査委員会<br>19 : 00 第 22 回常任理事協議会                                                           |      | 19 : 00 広報委員会                                              |
| 4 水  |                                                                                                    | 17 火 | 14 : 00 (日医)日医理事会                                          |
| 5 木  |                                                                                                    |      | 18 : 20 医協打合会                                              |
| 6 金  | 14 : 00 国民集会「国民医療を守るための総決起大会」<br>19 : 00 医学賞選考委員会<br>19 : 00 県外科医会全理事会                             |      | 19 : 00 第 24 回常任理事協議会                                      |
| 7 土  | 在宅医療協議会総会・研修会<br>移動全理事協議会<br>14 : 30 産業医研修会(実地)                                                    | 18 水 | 15 : 00 労災診療指導委員会                                          |
| 8 日  | 13 : 30 女性医師支援センター事業ブロック別会議                                                                        | 19 木 |                                                            |
| 9 月  |                                                                                                    | 20 金 | 19 : 00 生活習慣病検診従事者研修会                                      |
| 10 火 | 19 : 00 第 23 回常任理事協議会                                                                              | 21 土 | 18 : 00 県産婦人科医会全理事会                                        |
| 11 水 | 13 : 30 看護師等の「雇用の質」の向上のための取組みに関する企画委員会<br>16 : 00 支払基金幹事会                                          | 22 日 |                                                            |
| 12 木 | 13 : 30 (日医)都道府県医師会医事紛争担当理事連絡協議会                                                                   | 23 月 | (天皇誕生日)                                                    |
| 13 金 | 15 : 00 (日医)日医地域医療対策委員会                                                                            | 24 火 | 18 : 15 医協理事会<br>19 : 00 第 1 回全理事協議会<br>終了後 医協理事・運営委員合同協議会 |
| 14 土 | 9 : 00 指導医のための教育ワーク<br>ショップ<br>13 : 00 県産婦人科医会新生児蘇生法講習会<br>14 : 00 産業医研修会<br>15 : 00 生活習慣病検診従事者研修会 | 25 水 | 18 : 00 九州地方社会保険医療協議会宮崎部会                                  |
|      |                                                                                                    | 26 木 |                                                            |
|      |                                                                                                    | 27 金 |                                                            |
|      |                                                                                                    | 28 土 |                                                            |
|      |                                                                                                    | 29 日 | (年末休業)                                                     |
|      |                                                                                                    | 30 月 | (年末休業)                                                     |
|      |                                                                                                    | 31 火 | (年末休業)                                                     |

※都合により、変更になることがあります。

# 医 学 会 ・ 講 演 会

## 日本医師会生涯教育講座認定学会

単位：日本医師会生涯教育制度認定単位数，CC：カリキュラムコード（当日，参加証を交付）

がん：各種がん検診登録・指定・更新による研修会。（胃・大腸・肺・乳）

※アンダーラインの部分は，変更になったところです。

| 名称・日時・場所                                                                                                                                   | 演 題                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 主催・共催・後援<br>※ = 連絡先                                              | 単位  | CC<br>・<br>がん                  |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|-----|--------------------------------|
| 第 24 回宮崎県肺癌<br>研究会<br>11 月 1 日(金)<br>18: 50 ~ 20: 30<br>シーガイアコンベン<br>ションセンター                                                               | 肺癌の転移のメカニズムと予防について<br>国立循環器病研究センター研究所長<br>寒川 賢治<br>参加費：500 円                                                                                                                                                                                                                                 | ◇共催<br>宮崎県肺癌研究会<br>※大鵬薬品工業(株)<br>☎ 0985-27-4527<br>◇後援<br>宮崎県医師会 | 1.5 | 9<br>15<br>45<br>肺             |
| 日医生涯教育協力<br>講座セミナー「糖尿<br>病患者さんの食習<br>慣を考慮に入れた<br>薬物治療」<br>11 月 2 日(土)<br>15: 00 ~ 18: 15<br>県医師会館(TV 会<br>議：都城・延岡・<br>日向・児湯・西都・<br>南那珂・西諸) | 患者の目線から見た無理のないインスリン導入の<br>すすめ<br>東邦大学医学部糖尿病・代謝・内分泌分野<br>教授 弘世 貴久<br>スムーズな経口糖尿病薬導入のための短期強化<br>インスリン療法<br>潤和会記念病院糖尿病・代謝内科部長<br>水田 雅也<br>古くて新しい経口血糖降下薬<br>メトホルミンとSU 剤の使い方<br>宮崎大学医学部神経呼吸内分泌代謝学分野<br>助教 上野 浩晶<br>新しい経口血糖降下薬について<br>古賀総合病院内分泌代謝内科部長<br>井手野 順一<br>テーラーメイドの食事指導<br>平和台病院栄養管理室長 洲 慶子 | ◇共催<br>日本医師会<br>※宮崎県医師会<br>☎ 0985-22-5118<br>田辺三菱製薬(株)           | 3   | 2<br>9<br>13<br>73<br>76<br>82 |



| 名称・日時・場所                                                                                                                   | 演 題                                                                                                                                                              | 主催・共催・後援<br>※ = 連絡先                                                            | 単<br>位 | CC<br>・<br>がん                       |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|--------|-------------------------------------|
| 日本臨床泌尿器科<br>医会第 10 回臨床検<br>討会<br>11 月 3 日(日)<br>14: 00～18: 00<br>シーガイアコンベン<br>ションセンター                                      | 前立腺癌アンドロゲン除去療法に於ける「テスト<br>ステロン値」を考える<br>宮崎大学医学部泌尿器科学教授 賀本 敏行<br>日本泌尿器科学会及び国際泌尿器科学会の現況と<br>今後の展望について<br>日本泌尿器科学会理事長 内藤 誠二<br>参加費: 5,000 円<br>(県泌尿器科医会員、勤務医・学生は無料) | ◇共催<br>日本臨床泌尿器科医会<br>アステラス製薬(株)<br>(連絡先)<br>みのだ泌尿器科医院<br>☎ 0985-54-7171        | 4      | 1<br>2<br>9<br>15<br>64<br>65<br>67 |
| 第 83 回宮崎市郡医<br>師会心臓病研究会<br>11 月 7 日(木)<br>18: 45～20: 15<br>宮崎観光ホテル                                                         | 心臓病予防の為に糖尿病治療<br>佐賀大学医学部循環器内科教授 野出 孝一                                                                                                                            | ◇共催<br>※宮崎市郡医師会病院<br>☎ 0985-24-9119<br>バイエル薬品(株)                               | 1.5    | 2<br>9<br>15                        |
| ひむか感染症研<br>究会<br>11 月 7 日(木)<br>19: 00～20: 00<br>ホテルベルフォー<br>ト日向                                                           | 最近の病原体の検索について<br>— 衛生環境研究所での取組みを中心に —<br>日向市保健所長 古家 隆<br>参加費: 500 円                                                                                              | ◇共催<br>ひむか感染症研究会<br>※日向市東臼杵郡医師会<br>☎ 0982-52-0222<br>日向市東臼杵郡内科医会<br>大日本住友製薬(株) | 1      | 11<br>13                            |
| 平成 25 年度日本医<br>師会社保指導者講<br>習会復講<br>11 月 7 日(木)<br>19: 00～21: 00<br>県医師会館(TV 会<br>議: 都城・延岡・<br>日向・児湯・西都・<br>南那珂・西諸・西<br>臼杵) | 高血圧診療のすべて<br>宮崎大学医学部第一内科 北 俊弘<br>宮崎江南病院 松尾 剛志<br>宮崎東病院 比嘉 利信                                                                                                     | ◇主催<br>※宮崎県医師会<br>☎ 0985-22-5118                                               | 2      | 73<br>74<br>82<br>84                |

| 名称・日時・場所                                                                                        | 演 題                                                                                                                                               | 主催・共催・後援<br>※ = 連絡先                                                                 | 単<br>位 | CC<br>・<br>がん                             |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|--------|-------------------------------------------|
| 木曜会学術講演会<br>11月 7 日(木)<br>19: 15~ 20: 45<br>都 城 ロ イ ヤ ル<br>ホ テ ル                                | 喘息治療のコツと落とし穴<br>昭和大学医学部呼吸器科・アレルギー内科教授<br>相良 博典<br>参加費: 500円                                                                                       | ◇共催<br>木曜会<br>杏林製薬(株)<br>(連絡先)<br>☎ 0986-22-0711                                    | 1.5    | 1<br>46<br>79                             |
| 心房細動治療ガイド<br>ライン公開セミナー「心房細動の<br>トータルマネジメント」<br>11月 8 日(金)<br>19: 00~ 21: 10<br>県医師会館            | ガイドラインに基づいた心房細動の薬物治療:<br>リズムコントロール・レートコントロール<br>国際医療福祉大学三田病院長 小川 聡<br>心原性脳塞栓症のリスク評価と薬物療法の実際<br>日本医科大学多摩永山病院循環器内科学<br>教授 新 博次                      | ◇共催<br>日本心電学会<br>第一三共(株)<br>◇後援<br>宮崎県医師会<br>(連絡先)<br>(株)協和企画<br>☎ 03-3573-2060     | 2      | 31<br>32<br>42<br>43                      |
| 延岡医学会学術講演会(第 12 回 県北<br>呼吸器カンファレンス学術講演会)<br>11月 8 日(金)<br>19: 00~ 20: 30<br>ホテルメリージュ<br>延岡      | 喘息合併 COPD 症例の検討<br>県立延岡病院内科部長 山口 哲朗<br>気管支喘息の治療ー現状と今後の展望ー<br>九州中央病院呼吸器内科部長 古藤 洋                                                                   | ◇共催<br>延岡医学会<br>県北呼吸器カンファレンス<br>※グラクソスミスクライン(株)<br>☎ 080-1035-5127<br>◇後援<br>延岡内科医会 | 1.5    | 45<br>73<br>79                            |
| 宮崎県医師会産業<br>医研修会<br>11月 9 日(土)<br>14: 30~ 18: 30<br>県医師会(TV 会議<br>: 延岡・日向・児<br>湯・西都・南那珂・<br>西諸) | (5)健康保持増進<br>産業保健における栄養・食の力を考える<br>鹿児島大学医歯学総合研究科・環境医学<br>教授 堀内 正久<br>(1)総論<br>浮遊粒子状物質に関する知見<br>産業医科大学名誉教授 嵐谷 奎一<br>基礎研修の後期研修会・生涯研修の専門研修会:<br>4 単位 | ◇主催<br>※宮崎県医師会<br>☎ 0985-22-5118                                                    | 4      | 5<br>8<br>9<br>11<br>12<br>13<br>21<br>82 |

| 名称・日時・場所                                                                                             | 演 題                                                                                                            | 主催・共催・後援<br>※ = 連絡先                                                   | 単<br>位 | CC<br>・<br>がん                 |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------|--------|-------------------------------|
| 第22回ひむか東洋<br>医学学会学術大会<br>11月10日(日)<br>9:00~12:30<br>宮崎大学医学部総<br>合教育研究棟                               | 緩和医療と漢方薬 他2<br>鹿児島大学医歯学総合研究科心療内科分野<br>教授 乾 明夫 他2<br>参加費: 3,000円(東洋医学会専門医)<br>1,000円(その他の医師・薬剤師)<br>無 料(学生・研修医) | ◇主催<br>日本東洋医学会九州<br>支部宮崎県支部<br>(連絡先)<br>宮崎大学医学部産婦人科<br>☎ 0985-85-0988 | 3      | 65<br>81<br>83                |
| 平成25年度宮崎県<br>小児科医会秋季総<br>会・学術講演会<br>11月10日(日)<br>13:50~17:20<br>宮崎観光ホテル                              | 肺炎球菌ワクチンの効果と血清型変化への対応<br>他3<br>鹿児島大学医歯学総合研究科微生物学分野<br>教授 西 順一郎 他3                                              | ◇共催<br>※宮崎県小児科医会<br>☎ 0985-22-5118<br>ファイザー(株)                        | 3      | 1<br>2<br>4<br>11<br>45<br>72 |
| 高次脳機能障がい<br>講演会<br>11月11日(月)<br>19:00~21:00<br>県医師会館(TV会<br>議:都城・延岡・<br>日向・児湯・西都・<br>南那珂・西諸・西<br>臼杵) | 高次脳機能障害者の自動車運転再開とリハビリ<br>テーション<br>産業医科大学医学部リハビリテーション医学<br>教授 蜂須賀 研二                                            | ◇主催<br>※宮崎県医師会<br>☎ 0985-22-5118                                      | 2      | 5<br>9<br>29<br>78            |
| 第4回児湯内科医<br>会学術講演会<br>11月12日(火)<br>19:00~20:00<br>ホテル四季亭                                             | 認知症の薬物療法について<br>—どの様な患者にどの様な薬剤を使うのか—<br>上野公園病院精神科診療部長 大神 博央                                                    | ◇主催<br>※児湯内科医会<br>☎ 0983-22-1641<br>◇後援<br>児湯医師会                      | 1      | 8<br>29                       |

| 名称・日時・場所                                                                     | 演 題                                                                                          | 主催・共催・後援<br>※ = 連絡先                                                      | 単<br>位 | CC<br>・<br>がん        |
|------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------|--------|----------------------|
| 第 81 回 江南医療<br>連携の会・症例<br>検討会<br>11 月 14 日(木)<br>19:00～20:30<br>宮崎江南病院       | 後骨間神経麻痺を合併した Monteggia 骨折の 1 例<br>他 2<br>宮崎江南病院整形外科部長<br>坂田 勝美 他 2                           | ◇主催<br>※江南医療連携の会<br>☎ 0985-51-7575                                       | 1.5    | 28<br>53             |
| 第 10 回 都城イメ<br>ジカンファランス<br>11 月 14 日(木)<br>19:15～20:45<br>都 城 ロ イ ヤ ル<br>ホテル | 肺結節影の画像診断<br>熊本大学附属病院画像診断・治療科<br>井料 保彦                                                       | ◇共催<br>都城イメージカンファランス<br>第一三共(株)<br>(連絡先)<br>都城市北諸県郡医師会<br>☎ 0986-22-0711 | 1.5    | 2<br>42<br>73<br>(肺) |
| 第 5 回 宮崎乾癬研<br>究会<br>11 月 14 日(木)<br>19:30～21:00<br>ホテル JAL シティ<br>宮崎        | 乾癬治療のめざすべき目標とは？<br>－ 3 つの “T” から考える－<br>名古屋市立大学医学研究科<br>加齢・環境皮膚科学教授 森田 明理<br>参加費：500 円(学生無料) | ◇共催<br>宮崎乾癬研究会<br>※田辺三菱製薬(株)<br>☎ 0985-32-9205                           | 1.5    | 1<br>8<br>19         |
| 第 10 回 宮崎ペイン<br>カンファランス<br>11 月 15 日(金)<br>18:50～20:30<br>M R T m i c c      | 慢性疼痛と養育スタイル：痛み苦悩の本質とは？<br>九州大学病院心療内科講師 細井 昌子<br>参加費：500 円(医師のみ)                              | ◇共催<br>宮崎ペインカンファランス<br>※旭化成ファーマ(株)<br>☎ 0985-28-2736                     | 1      | 70<br>73             |
| 都 城 市 郡 医 師 会<br>病院講演会<br>11 月 15 日(金)<br>19:00～20:00<br>都城健康サービス<br>センター    | 今後の画像診断の展望について<br>熊本大学生命科学研究部放射線診断学分野<br>教授 山下 康行                                            | ◇主催<br>都城市郡医師会病院<br>(連絡先)<br>都城市北諸県郡医師会<br>☎ 0986-22-0711                | 1      | 2<br>9               |



| 名称・日時・場所                                                                        | 演 題                                                                           | 主催・共催・後援<br>※ = 連絡先                                                       | 単<br>位 | CC<br>・<br>がん       |
|---------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------|--------|---------------------|
| 宮崎県医師会産業<br>医研修会<br>11月15日(金)<br>19:00～21:00<br>県医師会館                           | (3)健康管理<br>糖尿病の予防と治療<br>都城市郡医師会病院副院長 中津留 邦展<br>生涯研修の専門研修会：2単位                 | ◇共催<br>宮崎産業保健推進連絡事務所<br>※宮崎県医師会<br>☎0985-22-5118                          | 2      | 5<br>11<br>76<br>82 |
| 大悟病院認知症疾<br>患医療センターか<br>かりつけ医研修会<br>11月15日(金)<br>19:00～20:50<br>都城市北諸県郡医<br>師会館 | 認知症を診(看)る－現状と課題－ 他3<br>吉見クリニック院長 吉見 雅博 他3                                     | ◇共催<br>大悟病院認知症疾患<br>医療センター<br>※都城市北諸県郡医師会<br>☎0986-22-0711                | 1.5    | 13<br>14<br>29      |
| 宮崎県外科医会<br>秋期講演会<br>11月15日(金)<br>19:00～20:20<br>県医師会館                           | 広範囲胸部大動脈瘤の外科治療<br>－特にマルファン症候群について－<br>宮崎大学医学部循環呼吸・総合外科学分野<br>教授 中村 都英         | ◇主催<br>※宮崎県外科医会<br>☎0985-22-5118                                          | 1      | 1<br>84             |
| 延岡医学会学術講<br>演会<br>11月15日(金)<br>19:00～20:30<br>ホテルメリージュ<br>延岡                    | 動脈硬化ガイドライン2012が示す厳格且つ積極的<br>脂質低下療法の意義<br>熊本大学医学部附属病院糖尿病分子病態解析学<br>特任准教授 西川 武志 | ◇共催<br>延岡医学会<br>※M SD (株)<br>☎080-5479-1210<br>バイエル薬品(株)<br>◇後援<br>延岡内科医会 | 1      | 23<br>75            |

| 名称・日時・場所                                                             | 演 題                                                                                                                       | 主催・共催・後援<br>※ = 連 絡 先                                                                            | 単<br>位 | CC<br>・<br>がん    |
|----------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|------------------|
| 南那珂整形外科疾患連携協議会特別講演会<br>11月 19日(火)<br>18: 45～ 20: 30<br>ホテルシーズン日南     | 南那珂地区における大腿骨頸部骨折地域連携パスの運用実績<br>県立日南病院医療連携科 吉岡 誠<br>大腿骨頸部骨折地域連携パスにおけるフォルテオ導入の意義(仮)<br>国立病院機構名古屋医療センター<br>整形外科リウマチ科 来田 大平   | ◇主催<br>南那珂整形外科疾患連携協議会<br>◇共催<br>日本イーライリリー(株)<br>◇後援<br>南那珂医師会<br>(連絡先)<br>県立日南病院<br>0987-23-3111 | 1.5    | 10<br>62<br>77   |
| 宮崎県内科医会学術講演会 糖尿病予防勉強会<br>11月 19日(火)<br>18: 50～ 20: 40<br>ホテルJALシティ宮崎 | 本邦で開発されたDPP-4阻害薬スイニー錠®の特徴と使用経験<br>横田内科院長 横田 直人<br>糖尿病患者の脂質プロフィール<br>ースタチンによる糖尿病発症予防ー<br>東邦大学医療センター大橋病院<br>糖尿病・代謝内科教授 柴 輝男 | ◇共催<br>宮崎県内科医会<br>※興和創薬(株)<br>☎ 0985-24-8175                                                     | 1.5    | 8<br>75<br>76    |
| 宮崎県医師会産業医研修会<br>11月 21日(木)<br>13: 30～ 15: 30<br>延岡地域職業訓練センター         | (1)労働衛生関係法規と関係通達の改正<br>労働衛生行政の動向<br>ー最近の報道発表資料(厚生労働省)からー<br>西部労働衛生コンサルタント事務所代表 矢崎 武<br>生涯研修の更新研修会: 2 単位                   | ◇共催<br>宮崎産業保健推進連絡事務所<br>※宮崎県医師会<br>☎ 0985-22-5118                                                | 2      | 3<br>7<br>8<br>9 |
| 都城市北諸県郡医師会産婦人科医会学術講演会<br>11月 21日(木)<br>ホテル中山荘                        | 産科領域における深部静脈血栓症の予防対策<br>ー低分子量ヘパリン製剤を如何に使うかー<br>福岡大学病院総合周産期母子医療センター<br>臨床教授 吉里 俊幸                                          | ◇共催<br>※都城市北諸県郡医師会産婦人科医会<br>☎ 0986-22-0711<br>科研製薬(株)                                            | 1.5    | 11<br>44<br>84   |

| 名称・日時・場所                                                                 | 演 題                                                                                                        | 主催・共催・後援<br>※ = 連絡先                                                     | 単<br>位 | CC<br>・<br>がん       |
|--------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------|--------|---------------------|
| 第182回 宮崎県<br>泌尿器科医会学術<br>講演会<br>11月21日(木)<br>19:00～20:40<br>宮崎観光ホテル      | 性同一性障害の診断と治療<br>札幌医科大学医学部泌尿器科学講座教授<br>舩森 直哉                                                                | ◇共催<br>宮崎県泌尿器科医会<br>武田薬品工業(株)<br>(連絡先)<br>宮崎大学医学部泌尿器科<br>☎ 0985-85-2968 | 1.5    | 9<br>72<br>84       |
| 第14回 宮崎BD<br>講演会<br>11月22日(金)<br>18:40～20:40<br>MRT micc                 | 炎症性腸疾患の個別化治療を目指して<br>滋賀医科大学感染応答・免疫調節部門教授<br>安藤 朗                                                           | ◇共催<br>宮崎県内科医会<br>※杏林製薬(株)<br>☎ 0985-27-3301                            | 2      | 1<br>53<br>54<br>55 |
| 都城市北諸県郡医<br>師会内科医会学術<br>講演会<br>11月22日(金)<br>19:00～20:30<br>都城ロイヤル<br>ホテル | DDP-4阻害薬が拓く糖尿病診療の未来<br>—Beyond the BG control—<br>福岡大学医学部内分泌・糖尿病内科准教授<br>野見山 崇                             | ◇共催<br>※都城市北諸県郡医師会内科医会<br>☎ 0986-22-0711<br>田辺三菱製薬(株)<br>第一三共(株)        | 1.5    | 73<br>76<br>82      |
| 宮崎県医師会産業<br>医研修会<br>11月22日(金)<br>19:00～21:00<br>県医師会館                    | (4)メンタルヘルス対策<br>これからのメンタルヘルス<br>—職場におけるうつ病等の予防と就労支援のために—<br>労働者健康福祉機構本部研究ディレクター<br>小山 文彦<br>生涯研修の専門研修会：2単位 | ◇共催<br>宮崎産業保健推進連絡事務所<br>※宮崎県医師会<br>☎ 0985-22-5118                       | 2      | 3<br>5<br>69<br>70  |

| 名称・日時・場所                                                                                                                | 演 題                                                                                                                                                                                              | 主催・共催・後援<br>※ = 連 絡 先                                                 | 単<br>位 | CC<br>・<br>がん                                |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------|--------|----------------------------------------------|
| 宮崎市郡内科医会<br>学術講演会<br>11月 22日(金)<br>19: 15~ 20: 15<br>ニューウェルシティ<br>宮崎                                                    | うつ病診療は、実はプライマリーの先生方にこそ<br>ふさわしい！<br>井上病院 米良 誠剛                                                                                                                                                   | ◇共催<br>※宮崎市郡内科医会<br>☎ 0985-53-3434<br>持田製薬(株)<br>田辺三菱製薬(株)<br>吉富薬品(株) | 1      | 5<br>70                                      |
| 宮崎県精神科診療<br>所協会学術講演会<br>11月 23日(土)<br>19: 00~ 20: 00<br>ホテルJALシティ<br>宮崎                                                 | アルコール関連障害の今日的課題<br>札幌医科大学医学部神経精神医学教授<br>齋藤 利和                                                                                                                                                    | ◇共催<br>宮崎県精神科診療所協会<br>※ M eiji Seika ファルマ(株)<br>☎ 0985-25-6215        | 1      | 69<br>70                                     |
| 平成 25 年度宮崎県<br>医師会生活習慣病<br>検診従事者研修会<br>11月 25日(月)<br>19: 00~ 21: 10<br>県医師会館(TV 会<br>議: 都城・延岡・<br>日向・児湯・南那<br>珂・西諸・西臼杵) | 非小細胞肺癌の外科治療と術後化学療法<br>宮崎大学医学部循環呼吸・総合外科病院講師<br>富田 雅樹<br>乳がん診療について(仮)<br>宮崎大学医学部腫瘍機能制御外科学分野<br>前原 直樹<br>早期胃癌に対する内視鏡診断(仮)<br>宮崎大学医学部消化器血液学分野助教<br>三池 忠<br>大腸がん治療ガイドラインについて(仮)<br>古賀総合病院外科部長 指宿 一彦 他 | 主催<br>※宮崎県医師会<br>☎ 0985-22-5118<br>宮崎県                                | 2      | 2<br>11<br>12<br>82<br>①肺<br>②乳<br>③胃<br>④大腸 |

| 名称・日時・場所                                                                                  | 演 題                                                                         | 主催・共催・後援<br>※ = 連絡先                                          | 単<br>位 | CC<br>・<br>がん     |
|-------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------|--------|-------------------|
| MRSA感染症学術<br>講演会<br>11月27日(水)<br>18:50~20:45<br>ホテルJALシティ<br>宮崎                           | MRSA感染症の病態と治療(仮) 他3<br>愛知医科大学医学研究科臨床感染症学<br>主任教授 三嶋 廣繁 他3                   | ◇共催<br>宮崎県内科医会<br>※MSD(株)<br>☎080-2406-9726<br>◇後援<br>宮崎県医師会 | 1.5    | 11<br>58<br>73    |
| 宮崎県医師会産業<br>医研修会<br>11月27日(水)<br>19:00~21:00<br>県医師会(TV会議<br>:延岡・日向・児<br>湯・西都・南那阿・<br>西諸) | (7)作業管理<br>ヒューマンエラーを防ぐためには何が必要か<br>宮崎大学医学部公衆衛生学分野教授 黒田 嘉紀<br>生涯研修の専門研修会:2単位 | ◇主催<br>※宮崎県医師会<br>☎0985-22-5118                              | 2      | 3<br>5<br>6<br>11 |
| 都城市北諸県郡医<br>師会学術講演会<br>11月28日(木)<br>19:00~20:30<br>都城グリーン<br>ホテル                          | ウイルス肝炎診療の最新の話<br>鹿児島大学医歯学総合研究科<br>消化器疾患・生活習慣病学准教授 井戸 章雄                     | ◇共催<br>※都城市北諸県郡医師会<br>☎0986-22-0711<br>ブリストル・マイヤーズ(株)        | 1.5    | 13<br>27<br>73    |
| 宮崎木曜会年末<br>講演会<br>11月28日(木)<br>19:30~20:30<br>MRT micc                                    | ワンランク上を目指した潰瘍性大腸炎の治療戦略<br>—Bto製剤の適応と有効性について—<br>中央総合病院消化器内科部長 吉村 直樹         | ◇共催<br>宮崎木曜会<br>※エーザイ(株)<br>☎0985-26-2676                    | 1      | 53<br>54          |



| 名称・日時・場所                                                                         | 演 題                                                                               | 主催・共催・後援<br>※ = 連絡先                                           | 単<br>位 | CC<br>・<br>がん                  |
|----------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------|--------|--------------------------------|
| 高尿酸血症学術<br>講演会<br>11月 29日(金)<br>19: 00~ 21: 00<br>M R T m i c c                  | CKD 診療における尿酸管理の意義<br>大阪大学保健センター教授 守山 敏樹<br>尿酸と血管内皮機能<br>広島大学原爆放射線医科学研究所教授<br>東 幸仁 | ◇主催<br>※帝人ファーマ(株)<br>☎ 0985-31-4870<br>◇共催<br>宮崎県慢性腎臓病対策推進会議  | 2      | 11<br>12<br>73<br>82           |
| 宮崎県訪問看護ス<br>テーション連絡協<br>議会総会・研修会<br>13: 30~ 16: 00<br>11月 30日(土)<br>JA A Z M ホール | 在宅緩和ケア<br>ー緩和ケア訪問看護師として実践力をたかめようー<br>訪問看護ステーションパリアン代表<br>川越 博美                    | ◇主催<br>※宮崎県訪問看護ス<br>テーション連絡協議会<br>☎ 0985-22-5118              | 2      | 14<br>29<br>80<br>81           |
| 延岡医学会総会学<br>術講演会<br>11月 30日(土)<br>16: 00~ 19: 00<br>延岡市医師会病院                     | 高齢者CKD の特徴と管理のポイント 他 7<br>宮崎大学医学部血液・血管先端医療学講座<br>教授 藤元 昭一 他                       | ◇主催<br>延岡医学会<br>(連絡先)<br>延岡市医師会<br>☎ 0982-21-1300             | 3      | 1<br>9<br>19<br>31<br>53<br>61 |
| 第 84 回宮崎市郡医<br>師会心臓病研究会<br>12月 2 日(月)<br>18: 45~ 20: 15<br>宮崎観光ホテル               | 最近の肺高血圧の話題について<br>久留米大学医学部心臓・血管内科部門主任教授<br>福本 義弘                                  | ◇共催<br>※宮崎市郡医師会病院<br>☎ 0985-24-9119<br>興和創薬(株)                | 1.5    | 2<br>9<br>74                   |
| 第 7 回はまゆう整<br>形外科セミナー<br>12月 7 日(土)<br>17: 15~ 18: 15<br>宮崎観光ホテル                 | 毎日の臨床に役立つ“手外科”の知識<br>渡辺整形外科病院長 牧 信哉                                               | ◇主催<br>はまゆう整形外科セミナー<br>(連絡先)<br>宮崎大学医学部整形外科<br>☎ 0985-85-0986 | 1      | 57<br>61                       |

| 名称・日時・場所                                                             | 演 題                                                                                   | 主催・共催・後援<br>※ = 連絡先                                                                          | 単<br>位 | CC<br>・<br>がん       |
|----------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|--------|---------------------|
| 宮崎市郡外科医会<br>12 月例会<br>12 月 9 日(月)<br>19:10~20:10<br>宮崎観光ホテル          | 病院前救急診療について<br>宮崎大学医学部救急・災害医学分野教授<br>落合 秀信                                            | ◇主催<br>※宮崎市郡外科医会<br>☎ 0985-53-3434<br>◇共催<br>旭化成ファーマ(株)                                      | 1      | 84                  |
| 学術講演会<br>—高齢者の QOL を<br>考える—<br>12 月 14 日(土)<br>16:00~18:15<br>KITEN | 高齢者感染症の予防と治療 他 2<br>宮崎大学医学部免疫感染病態学分野教授<br>岡山 昭彦 他 2                                   | ◇共催<br>宮崎県内科医会<br>※ MSD (株)<br>☎ 0985-28-9496<br>◇後援<br>宮崎県医師会                               | 2      | 1<br>11<br>19<br>70 |
| ビデュリオン発売<br>記念講演会<br>12 月 19 日(木)<br>19:00~20:30<br>ガーデンテラス<br>宮崎    | 2 型糖尿病治療における週一投与ビデュリオン<br>への期待<br>—各種大規模スタディーを踏まえて—(仮)<br>東京医科大学内科学第三講座主任教授<br>小田原 雅人 | ◇共催<br>宮崎県内科医会<br>※アストラゼネカ(株)<br>☎ 080-3815-5763<br>ブリストル・マイヤーズ(株)                           | 1.5    | 23<br>76<br>82      |
| 第 67 回宮崎整形外<br>科懇話会<br>12 月 21 日(土)<br>18:00~19:00<br>県医師会館          | 肉離れ、筋損傷の超音波検査による診断と評価<br>増田病院整形外科 魏 国雄<br>参加費: 1,000 円                                | ◇主催<br>宮崎整形外科懇話会<br>◇共催<br>宮崎県整形外科医会<br>大日本住友製薬(株)<br>(連絡先)<br>宮崎大学医学部整形外科<br>☎ 0985-85-0986 | 1      | 57<br>62            |

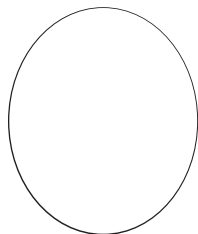
| 名称・日時・場所                                                            | 演 題                                                                  | 主催・共催・後援<br>※ = 連絡先                                                                  | 単位 | CC・がん    |
|---------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|----|----------|
| 第 1 回宮崎脊椎外科を語る会<br>平成 24 年<br>1 月 31 日(金)<br>19:00~20:15<br>宮崎観光ホテル | 脊椎・脊髄損傷<br>—総合せき損センターにおける診断と治療の実際—<br>労働者健康福祉機構総合せき損センター<br>院長 芝 啓一郎 | ◇共催<br>宮崎脊椎外科を語る会<br>※日本臓器製薬(株)<br>☎ 096-386-0441<br>◇後援<br>宮崎県臨床整形外科医会<br>宮崎県整形外科医会 | 1  | 60<br>61 |

## 日本医師会生涯教育カリキュラム（2009）

カリキュラムコード(略称：CC)

|                     |                |                     |
|---------------------|----------------|---------------------|
| 1 専門職としての使命感        | 29 認知能の障害      | 57 外傷               |
| 2 継続的な学習と臨床能力の保持    | 30 頭痛          | 58 褥瘡               |
| 3 公平・公正な医療          | 31 めまい         | 59 背部痛              |
| 4 医療倫理              | 32 意識障害        | 60 腰痛               |
| 5 医師－患者関係とコミュニケーション | 33 失神          | 61 関節痛              |
| 6 心理社会的アプローチ        | 34 言語障害        | 62 歩行障害             |
| 7 医療制度と法律           | 35 けいれん発作      | 63 四肢のしびれ           |
| 8 医療の質と安全           | 36 視力障害、視野狭窄   | 64 肉眼的血尿            |
| 9 医療情報              | 37 目の充血        | 65 排尿障害（尿失禁・排尿困難）   |
| 10 チーム医療            | 38 聴覚障害        | 66 乏尿・尿閉            |
| 11 予防活動             | 39 鼻漏・鼻閉       | 67 多尿               |
| 12 保健活動             | 40 鼻出血         | 68 精神科領域の救急         |
| 13 地域医療             | 41 嘔吐          | 69 不安               |
| 14 医療と福祉の連携         | 42 胸痛          | 70 気分の障害（うつ）        |
| 15 臨床問題解決のプロセス      | 43 動悸          | 71 流・早産および満期産       |
| 16 ショック             | 44 心肺停止        | 72 成長・発達の障害         |
| 17 急性中毒             | 45 呼吸困難        | 73 慢性疾患・複合疾患の管理     |
| 18 全身倦怠感            | 46 咳・痰         | 74 高血圧症             |
| 19 身体機能の低下          | 47 誤嚥          | 75 脂質異常症            |
| 20 不眠               | 48 誤飲          | 76 糖尿病              |
| 21 食欲不振             | 49 嚥下困難        | 77 骨粗鬆症             |
| 22 体重減少・るい瘦         | 50 吐血・下血       | 78 脳血管障害後遺症         |
| 23 体重増加・肥満          | 51 嘔気・嘔吐       | 79 気管支喘息            |
| 24 浮腫               | 52 胸やけ         | 80 在宅医療             |
| 25 リンパ節腫脹           | 53 腹痛          | 81 終末期のケア           |
| 26 発疹               | 54 便秘異常（下痢・便秘） | 82 生活習慣             |
| 27 黄疸               | 55 肛門・会陰部痛     | 83 相補・代替医療（漢方医療を含む） |
| 28 発熱               | 56 熱傷          | 84 その他              |

## 診療メモ



## ABC 検診で胃がんのリスクをチェック！

宮崎市郡医師会成人病検診センター 所長 <sup>お</sup>尾 <sup>のえ</sup>上 <sup>こう</sup>耕 <sup>じ</sup>治

## ABC 検診とは

ABC 検診とは、胃がんのリスクをヘリコバクター・ピロリ菌(以下ピロリと略)感染と萎縮性胃炎の二つの要因で評価しA, B, CおよびDの4群に階層化分類し、各群のリスクに応じたその後の検診方法を推奨するものであります。そもそも、ピロリ感染が胃がんのリスクファクターであることは、数多くの基礎実験、臨床研究により実証されています。1994年世界保健機構(WHO)は、ピロリを胃がんの確実発がん因子とし、B型・C型肝炎ウイルス、ヒトパピローマウイルス、タバコやアスベストと同じ、最高の危険性を示す「グループ1」に分類しています。また、ピロリの持続感染により、胃粘膜萎縮をきたし、萎縮性胃炎となり、胃がんのリスクはさらに高くなります。

## 方法

そこで、ピロリ感染の有無を血清抗体法で、萎縮性胃炎の状態を血清ペプシノーゲンIとIIの値で評価(以下PG法と略)しますと、1番リスクの低いA群はピロリ陰性かつPG法陰性です。ピロリもないし萎縮性胃炎もないA群から胃がんが発生することは極めて少ないと報告されています。よってその後の検診方法として5年後の血液検査であるこのABC検診を受けるように推奨してあります。次にB群はピロリ陽性かつPG法陰性すなわちピロリはいるが萎縮性胃炎はまだ強くない群です。このB群は、年間に1,000人に一人ほど胃がんの発生頻度があると報告されています。3年に1回内視鏡検査を受けるよ

う推奨してあります。萎縮が進むとC群すなわちピロリ陽性かつPG法陽性となります。このC群は年間に400人に一人ほど胃がんの発生頻度があると報告されています。2年に1回内視鏡検査を受けるよう推奨してあります。さらに萎縮が進むとピロリ菌は生息できなくなります。これはD群ピロリ陰性かつPG法陽性で、年間に80人に一人ほど胃がんの発生頻度があると報告されています。1番リスクが高く、毎年内視鏡検査を受けるよう推奨してあります。

## 背景

さて、ABC検診は、人間ドックなど任意型検診として数年前より普及し始めています。宮崎市郡医師会成人病検診センターも県内でいち早く3年前に導入しました。また、今年6月より宮崎市の委託事業として導入されました。その背景として、

1. 胃がん検診受診率の低迷：胃がんは罹患率・死亡率ともに高いが、胃がん検診受診率は低迷しています。国は50%の受診率を目標にしていますが、宮崎市の胃がん検診受診率は8.7%と10%にも達していません。
2. がん検診の財源不足：結果として、宮崎市は胃がん検診のみならず、がん検診や特定健診に関して診療報酬の初診料ルールを適用し、2項目以上の検診は減額という方式をとりました。
3. 胃X線機器更新困難：胃X線機器は、高額でかつ用途が検診のみであるため採算性が問題になります。もう開業医の先生達はX線機

器更新をせず胃がん検診を断念し、内視鏡検査のみの診療になるようです。

4. 胃 X 線読影委員補充困難：熟練の委員が辞めると、若い先生は X 線の経験がほとんどないため、委員の補充が困難です。

5. 検査医不足：X 線検査に比して内視鏡検査の胃がん発見率は 2, 3 倍高いが、内視鏡検診を大規模に実施するには検査医が足りない。

などの問題が段々と浮上してきました。これに対し ABC 検診は、血液検査のみで簡単、安い、5 年に 1 回でよい、そしてリスクの高い人に内視鏡検査を勧めるなど合理的という利点があります。受診者には受け入れやすいので、受診率は向上することが期待されます。また検査費用は X 線検査や内視鏡検査の半額ほどでかつ 5 年に 1 回でよいとなると、単純計算すると 1/10 の費用となります。内視鏡検査は保険診療となり別枠となりますので、検診費用は大幅削減となります。さらに X 線検診から内視鏡検診に移行する手段として、より現実的で効果的な方法と考えられます。

#### 結果

ABC 検診結果の報告はまだ少ないですが、胃がん発見率は、高崎市 0.26% (それに対し X 線 0.17%)、目黒区 0.22% (X 線 0.07%)、足立区は 0.38% で早期がん発見率 0.35% (X 線 0.07%) と報告しています。宮崎市郡医師会成人病検診センターの胃がん発見率は 0.33% (X 線 0.08%) です。X 線検診より発見率は高いです。また、発見総数は受診率との相乗効果、すなわち、仮に発見率が 3 倍で受診率が 2 倍になれば 6 倍となります。驚異的な結果が期待できます。来年の宮崎市の結果を心待ちにしています。

#### 問題点

1. 死亡率減少効果のエビデンスが得られていない。
2. 胃がんリスクを調べるものであって胃がんそのものをみるものではない。
3. ピロリ除菌者は別扱い。
4. 偽陰性・偽陽性に注意(特に A 群の偽陰性)。
5. ピロリ除菌をどうするか。

6. PG 法不適者がいる：胃酸分泌抑制薬(PPI)服用中は PG 値が高く出る、胃切除後は PG 値が低く出る、腎不全者は PG 値が高く出る。

などがあげられます。これらに追記しますと、

1) 日本消化器がん検診学会は死亡率減少効果のエビデンスが得られていないことを理由に、批判的な声明文を出しています。それに対し、NPO 法人日本胃がん予知・診断・治療研究機構は「胃がんリスク検診(ABC 検診)は胃がんそのものを発見する検診(胃がん検診)ではないので、胃がん死亡率低減効果では有効性を評価しません。これは、肝炎ウイルス検診を、肝がん死亡率減少効果で有効性を評価しないのと同様です」と反論しています。そもそも死亡率減少効果にこだわるならば、胃内視鏡検査もそのエビデンスが得られていないので、内視鏡による検診もするなということになります。2) 胃がんリスクを調べるものであって胃がんそのものをみるものではないということを、関係者はもちろん、受診者に誤解がないよう説明しないといけません。3) ピロリ除菌に成功しても、その後に胃がんが発見されることはあるので、除菌者は時々内視鏡検査を受けることが必要です。4) 検査は感度・特異度ともに高い検査法が望まれます。血清抗体法の感度・特異度はともに 90~95% 程です。偽陰性は特に注意が必要です。変だなと思ったら他の検査での確認をお願いしたいところです。5) ピロリ除菌の保険適応が拡大されました。胃・十二指腸潰瘍のみならず、内視鏡検査で確認された萎縮性胃炎でも OK です。6) PPI 内服中、胃切除術を受けた方および腎不全の方は問診票にてチェックされます。

#### 最後に

以上たくさん述べましたが、血液検査のみで簡単、安い、5 年に 1 回でよい、リスクの高い人に内視鏡検査を勧めるなど合理的、そして X 線検診より胃がんが多く発見される画期的な検診です。検診者のみならず、先生方ご自身もぜひ ABC 検診で胃がんのリスクをチェックされることをお勧めします。



## 宮大医学部学生のページ

## 〔宮崎大学学園祭〕第9回清花祭～喜笑展結～

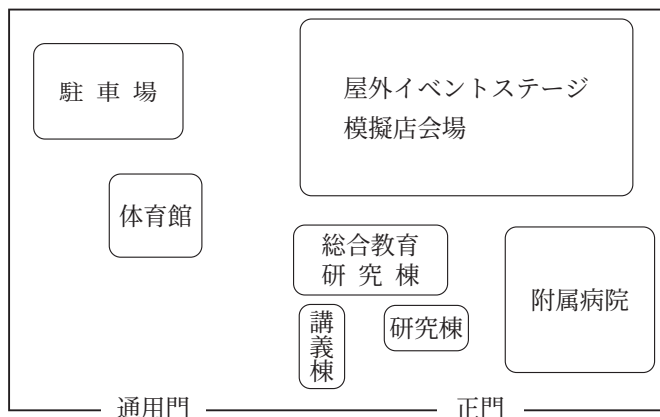
11月16日(土)・17日(日)開催

《清武キャンパスのイベントを一部ご紹介します》

イベント企画は屋外ステージで基本行いますが、雨天時は全て体育館で行われます。

| イベント名<br>(場 所)           | 時 間                        | 内 容                                              |
|--------------------------|----------------------------|--------------------------------------------------|
| 11月16日(土)                |                            |                                                  |
| ミスキャン<br>(屋外イベントステージ)    | 10:30～12:00                | 様々なゲームを勝ち抜いた魅力溢れる清武キャンパスNo.1美女を決定するコンテストです。      |
| 管打楽器(体育館)<br>すずかけ太鼓(体育館) | 13:30～14:00<br>14:00～14:30 | 勇壮で力強い太鼓の演奏をぜひ聴きにきてください!!!                       |
| KIZUNA<br>(屋外イベントステージ)   | 15:00～17:00                | 学生4人1組のチームで様々なゲームに挑戦してもらい、自分たちの絆をより一層深めてもらう企画です。 |
| バトル                      | 17:00～19:00                |                                                  |
| 11月17日(日)                |                            |                                                  |
| コンテスト<br>(屋外イベントステージ)    | 11:00～12:30                | 大好評!最も美しく、そして勇ましい男の子を決定します!                      |
| 子ども企画<br>(体育館)           | 12:30～14:00                | 大学祭に来てくれた子ども達とミニ運動会を開催します。お土産も用意してますよ～♪          |
| LOVE PROJECT             | 14:00～16:00                |                                                  |

## 《清武キャンパスマップ》



☆お化け屋敷企画は両日開催しています  
(9:00～17:00 講義棟303教室)

お化けも怖いだけでなく、ユニークで思わず笑ってしまうようなお化けもいますので、怖いのが苦手といった方も楽しめますよ!!

☆お腹が空いたら… ⇒模擬店会場へ!!  
(16日10:00～17:00  
17日9:00～17:00)

各部活が自慢の料理を提供します。その様子はまるでB級グルメ大会♪  
値段もお手ごろで味も抜群です!!

## 清武キャンパス医学展

《清武キャンパス医学展の一部をご紹介します(16・17日両日開催しています)》

### ☆チャリティー企画(総合研究棟1階 プレゼンテーションルーム)

一般のご家庭から譲っていただいた不要なものをバザーで出品する企画です。その収益全額をNPO法人に寄付し、世界中の子どもたちのワクチン接種に役立ててもらいます。

### ☆漢方企画(講義棟10教室)

実は、漢方って身近に存在しています。あなたも数十種類の生薬を見て匂って、漢方の面白さを体験してみませんか!? 無料のお茶も用意しています!!!

### ☆憩空間企画(講義棟 20教室)

種類豊富なノンアルコールカクテルを提供すると同時に、飲酒や喫煙について考える機会を提供します。また、3年後の自分や家族、友達に手紙が届く“Future Letter”も用意しています。憩いの場として是非ご利用ください。

### ☆グローバル企画(講義棟4階 LL教室)

スタッフが訪問した国の写真展示やフェアトレード商品の販売、『ぬいぐるみ病院』を通して子どもたちを対象とした保健教育の促進活動を行います。

### ☆なってみよう企画(講義棟 20教室)

聴診器や血圧計などを実際に使って、医師・看護師になってみよう!という企画です。その他にも、アルコールへの強さが分かるアルコールパッチテストや車いす体験などがあります。あなたも医師・看護師に“なってみよう”!!

### ☆美術展(総合研究棟)

小さいお子様からご年配の方まで、多くの方が楽しめるような制作活動の場を提供しています。手先を動かし作品を作ることによって、達成感や自己表現、癒しとしての芸術に触れていただきたいと思います。

### ☆☆☆☆スタンプラリー開催!!☆☆☆☆

各医学展会場にスタンプラリーを設けております。

全スタンプを制覇すると、ガチャガチャがひけますよ!!

賞品は……おたのしみ!!!!

◎他にも、様々な企画が用意されています。清花祭の詳しい情報については、  
<http://kiyokasai.com> / をご覧ください。

## お知らせ

県医師会から各郡市医師会へ送付しました文書についてご案内いたします。詳細につきましては、会員専用ページをご覧ください。また、MMA 通信(県医師会から会員への情報提供メーリングリスト)でも本文書について随時ご案内しておりますので、まだご登録されていない会員はぜひご登録をお願いします。

会員専用ページへのアクセス方法

宮崎県医師会 (<http://www.miyazakimed.or.jp/>) にアクセス

県医師会ホームページ右下の「会員専用ページ」をクリック

ユーザー名：医籍登録番号を入力

パスワード：生年月日(西暦の下二桁と月日)を入力(初期設定)

例) 1950 年 11 月 2 日生まれの場合, 501102

※ MMA 通信への登録をご希望の方は、県医師会地域医療課までご連絡ください

(TEL 0985-22-5118)。

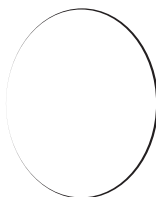
| 送付日   | 文 書 名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 10月1日 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「じん肺健康診断及びじん肺管理区分の決定におけるDR(FPD)写真及びCR写真の取扱い等について」の一部改正について</li> <li>・「病原微生物検出情報」の送付について</li> <li>・「乳がん検診啓発ポスター」の送付について</li> <li>・子宮頸がん予防ワクチン接種後の痛みの診療について</li> <li>・「平成24年度チーム医療普及推進事業報告書」について(通知)</li> </ul>                                                                                                              |
| 10月2日 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ポリオ生ワクチン2次感染対策事業実施細則の一部改正について</li> <li>・不活化ポリオワクチン接種者数の把握に係る通知の廃止について</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                           |
| 10月3日 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・検定合格証紙の廃止に係る制度改正が適用された品目の一覧について</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 10月4日 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「宮崎県感染症発生動向調査事業実施要綱」の一部改正について</li> <li>・感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行規則の一部を改正する省令の施行等について(通知)</li> <li>・「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項及び第14条第2項に基づく届出の基準等について」の一部改正について(通知)</li> <li>・「院内感染対策サーベイランス」に係る参加医療機関の募集について</li> </ul>                                                                                        |
| 10月5日 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・気管切開用マスクに係る使用上の注意の改訂について</li> <li>・大雨等の被災者に係る被保険者証等の提示等及び公費負担医療の取扱いについて</li> <li>・公知申請に係る事前評価が終了し、薬事法に基づく承認事項の一部変更承認がなされた医薬品の保険上の取扱いについて</li> <li>・医療事故情報収集等事業第34回報告書の公表について(通知)</li> <li>・計量法上の水銀柱メートル及び水柱メートルに係る計量単位令の改正について(通知)</li> <li>・医療安全に関するワークショップの開催について(通知)</li> <li>・東日本大震災に関連する診療報酬の特例取扱いの期間等について</li> </ul> |
| 10月7日 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行規則の一部を改正する省令の施行等について</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                |

| 送付日      | 文 書 名                                                                                                                                                                                                                                                  |
|----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 10月 8 日  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「じん肺健康診断及びじん肺管理区分の決定における DR (FPD) 写真及び CR 写真の取扱い等について」の一部改正について</li> <li>・各がん検診実施機関等登録(指定)名簿について(送付)</li> <li>・厚生労働省主催「平成 25 年度新型インフルエンザの診療に関する研修」の開催について</li> </ul>                                           |
| 10月 9 日  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護職員就労環境改善事業シンポジウムの開催について(ご案内)</li> <li>・肺炎球菌ワクチンの切替えについて</li> </ul>                                                                                                                                           |
| 10月 10 日 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・新医薬品の再審査結果平成 25 年度(その 3)について</li> <li>・日本製薬工業協会「透明性ガイドライン」に基づく情報公開について(ご報告)</li> <li>・「医業若しくは歯科医業又は病院若しくは診療所に関して広告し得る事項等及び広告適正化のための指導等に関する指針(医療広告ガイドライン)」の改正について</li> </ul>                                    |
| 10月 12 日 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「平成 25 年度介護報酬改定検証・研究調査への協力依頼について」の送付について</li> <li>・病院又は医師が常時 3 人以上勤務する診療所の専属の薬剤師の設置義務について</li> </ul>                                                                                                           |
| 10月 15 日 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・独立行政法人福祉医療機構の貸付利率の改定について</li> <li>・耐震対策緊急促進事業の受付開始について</li> <li>・第 24 回がん患者の QOL 推進事業講習会開催に伴う受講者募集について(ご案内)</li> </ul>                                                                                         |
| 10月 16 日 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・子宮頸がん予防ワクチン接種後の痛みの診療について</li> <li>・美容医療サービス等の自由診療におけるインフォームド・コンセントの取扱い等について</li> </ul>                                                                                                                         |
| 10月 17 日 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療施設における防火・防災安全体制の徹底及び点検について</li> <li>・国民健康保険被保険者証の無効について</li> <li>・肺炎球菌ワクチンの切替えについて(第 2 報)</li> </ul>                                                                                                         |
| 10月 19 日 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「労働安全衛生法第 28 条第 3 項の規定に基づき厚生労働大臣が定める化学物質による健康障害を防止するための指針」の周知について(協力依頼)</li> </ul>                                                                                                                             |
| 10月 21 日 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「高血圧症治療薬の臨床研究事案を踏まえた対応及び再発防止策について(中間とりまとめ)」について</li> <li>・ヒト幹細胞を用いる臨床研究に関する指針の改正等について(通知)</li> </ul>                                                                                                           |
| 10月 25 日 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・福岡マンモグラフィ『更新』講習会(読影部門)の開催について(ご案内)</li> </ul>                                                                                                                                                                  |
| 10月 26 日 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 25 年 9 月の台風 18 号による被害に係る文書保存の取扱いについて</li> </ul>                                                                                                                                                             |
| 10月 29 日 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・B 型肝炎の患者様についてのご願い</li> <li>・集団予防接種等による B 型肝炎感染拡大の再発防止策とその取組について</li> <li>・「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン第 4.2 版」の策定について</li> <li>・「労働安全衛生法第 28 条第 3 項の規定に基づき厚生労働大臣が定める化学物質による健康被害を防止するための指針」の周知について(協力依頼)</li> </ul> |

-----

あなたできますか？(解答)

|   |   |   |   |   |      |   |   |   |    |    |
|---|---|---|---|---|------|---|---|---|----|----|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6    | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 |
| d | c | d | c | c | d, e | b | d | d | d  | e  |



んとか切符をとって、食事をしたことを覚えています。しかし時代はさらに効率を求めるようになり、食堂車はおろか車内販売もない列車が多くなりました。

そのような環境の中で、JR九州は、素晴らしい、楽しみを詰め込んだ列車を作るのが得意のようです(例えば、海幸山幸、ゆふいんの森など)。そして、ついに「ななつ星」が登場しました。九州全域を豪華な列車でゆっくりと旅することが出来るようです。わが宮崎も観光コースに含まれ、宮崎の素晴らしい食材も利用されるとのことで、宮崎を知っていただく良いチャンスと思います。すでに予約でいっぱい、とのことですが、多くの方が利用して、日本一の列車となつてほしいものです。私がゆっくり楽しめるのはまだ随分先になりそうですが…。

＊ ＊ ＊ ＊ ＊

巻末の「今月のトピックス」でもご紹介した後発医薬品とABC検診の話題は、個人的にも興味深いものでした。胃内視鏡検査に苦い思い出がある私にとって「とりあえず血液検査、必要なら内視鏡」という考えは、合理的で受け入れ易いものです。後発医薬品に関しても、有効性40%までが許容範囲というのには驚きましたが、効果が現れる有効濃度域が狭い薬剤は後発品への変更が推奨されないというのも納得です。医療には公費が投入されているとよく言われますが、医療費は診療報酬として雇用や医療周辺産業の収入として「日本経済」に還元されています。TPPの行方次第では今後どうなるのか未知数ですが…。

(尾田)

＊ ＊ ＊

消費税増税。TPP。生活保護費削減。年金減額。介護保険料引き上げと自己負担増額。国際舞台で大嘘。沖縄米軍基地とオスプレイ配備。法人の復興税だけ前倒し廃止。集団的自衛権。そもそも4割の得票で8割の議席独占。私に対する妻の態度(あ、いやこれは取り消し)。賛否はあるでしょうが、私が今腹を立てていることです。そして極めつけが機密保護法。何が秘密なのかも秘密らしい(怖～)。汚染水漏れを機密に指定して、「完全ブロック」にするつもりなのでしょうか。

(上野)

＊ ＊ ＊

大ぼろ話

開高健のハドソン川のバス釣り、淀川で1mを超える鯉が釣れる話は有名だが、或る秋の日、橘橋で、大きな魚がうじゃうじゃいるのを発見した。わが大淀川も鯉の放し飼いを観光の目玉としたか。とも思ったが、違った。鰻(ぼら)である。それも50mから1mくらいのぼらが10mくらいの幅で回遊している。よく見ると上流の方にまで跳ねたり、漣が立ち、50

昔はたいていの優等列車(特急とか、急行とかのことです。念のため)に食堂車がついていたそうです。時代とともに列車はより速く、しかし、より単純になっていきました。

その後、東海道・山陽新幹線に2階建て新幹線が走ったことがありました。2階には何と食堂車がついていました。少年の頃の私は非常に憧れ、帰省の時にはな

(姫路)

mの幅で500m程の帯状となっていた。圧巻。ぼらは出世魚と言われ、吉兆?と思いましたが、すでに我が身はトドと呼ばれしかな。

(篠原)

＊ ＊ ＊

朝の冷え込みに秋の深まりを感じる今日この頃です。さて先日は、九州圏内の学生が集う1泊2日の勉強合宿in長崎に参加してきました。西医体など、部活動に関連した他大学との交流はしばしばありましたが、勉強面でこれほど密に接することがなかったのもとても新鮮で良い刺激になりました。もちろん道中の美しい景色の数々や、美味しい郷土料理なども満喫し、秋の良さをしみじみ感じる素敵な2日間でした。

(明里)

＊ ＊ ＊

10月も半ばを過ぎ、肌寒くなってきました。季節はすっかり秋ですね。宮崎大学では11月16・17日の学園祭に向けての準備が進められています。私は「年齢企画」を担当しており、この企画では肌年齢や血管年齢などを機材を用いて測ることができます。来場者の方々の、健康について考えるきっかけになれば幸いです。ご都合がよろしければぜひいらっしゃってください。

(川上)

＊ ＊ ＊

薬疹を疑ったり、薬の飲み合わせを調べたいとき、処方内容が分からない患者さんの場合、失礼とは思いますが電話で服薬内容をお訊ねする場合があります。後日必ず結果についてのご報告はいたしますので、よろしく願いいたします。薬疹については初めて飲む時より、飲み続けている薬で起こることがほとんどです。飲んでいてすべての薬(例えば主治療薬ではない、胃腸整腸剤などすべてを含む)を教えてくださいと助かります。

(青木)

＊ ＊ ＊



## 今月のトピックス

### 日州医談 後発医薬品，いわゆるジェネリック医薬品

先発医薬品と後発医薬品は「薬の有効性」に関しては同等品ではありません。では後発医薬品の定義とはなんでしょう。メルクマニュアルに「後発医薬品への変更を推奨しない医薬品」の記載があります。例えば抗がん剤やワルファリンなど，効果が現れる有効濃度域が狭く少しでも濃度が高くなると副作用が現れやすい医薬品です。ジェネリック医薬品（一般名医薬品）の長所と短所を理解し，必要に応じて選択することが医師に求められています。峰松俊夫理事が詳しく述べてくださいました。 4 ページ

### 新春随想 原稿募集！

平成 26 年 1，2 月号に毎年恒例の「新春随想」欄を企画しています。医事評論，診療閑話，身辺雑記，詩歌，俳句などなんでも結構です。詳細を本誌 18 頁に掲載していますので奮ってご応募ください。たくさんの方々のご寄稿を，広報委員一同心よりお待ちしております。 18 ページ

### 診療メモ ABC 検診で胃がんのリスクをチェック！

ABC 検診は人間ドックなどの任意型検診で数年前から普及し始めています。胃がんのリスクをピロリ菌感染と萎縮性胃炎の 2 つの要因で評価するもので，「血液検査のみ，5 年に 1 回，低コスト，内視鏡検査はリスクが高い場合のみ」などのメリットがあります。ABC 検診が期待される社会背景やその具体的方法，そして今後検証されるべき問題点や大いに期待できる検診結果など，宮崎市郡医師会成人病検診センター所長の尾上耕治先生がわかりやすく解説してくださいました。会員の先生方ご自身にも ABC 検診による胃がんのリスクチェックをお勧めします。 74 ページ

日 州 医 事 第 77 号（平成 25 年 11 月号）（毎月 1 回 10 日発行）

発行人 公益社団法人 宮 崎 県 医 師 会

〒 880-0023 宮崎市和知川原 1 丁目 10 番地 TEL 0985-22-5118(代)・FAX 27-6550

<http://www.iyazakimedor.jp/> E-mail office@iyazakimedor.jp

代表者 稲 倉 正 孝

編 集 宮崎県医師会広報委員会

委 員 長 尾田 朋樹・副委員長 上野 満，黒川 基樹

委 員 篠原 立大，姫路 大輔，明里 知美，川上 勲

釜付 弘志，沖田 和久，大野 妙子，陣門 洋平，原尾 拓朗

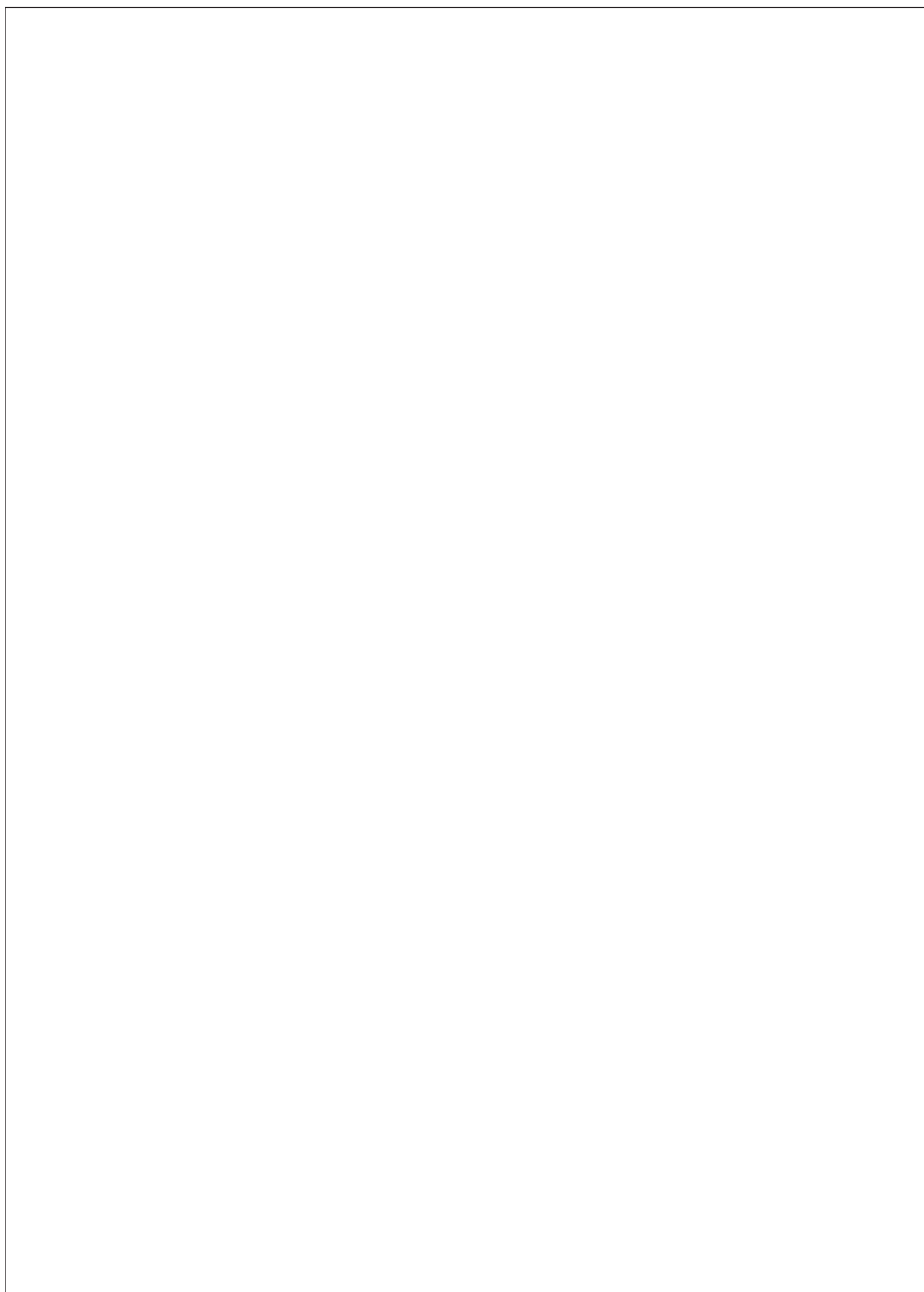
担当副会長 富田 雄二・担 当 理 事 青木 洋子，荒木 早苗

事 務 局 学術広報課 瀬戸山千春，久永 夏樹

印刷所 有限会社 ケイ・プロデュース・落丁・乱丁の際はお取り替えいたします。

定 価 350 円（但し，県医師会員の講読料は会費に含めて徴収してあります）

秋季ニプロ



# ナガイレーベン 白衣キャンペーン

定価の 3 5 %OFF !!

期間 10月 21日(月)～ 11月 30日(土)

※期間後は通常価格( 25%OFF)となります。

ナガイレーベン製品

(白衣, キャップ, カーディガン等)

シューズは通常通り 25%OFF です

◎施設用カタログもごさいます。

(施設用カタログをご希望の場合はお電話下さい)

※キャンペーン期間中の返品はご遠慮願います。

(サイズ交換のみとなりますのでご了承下さい)

お申込み・お問合せは

宮崎県医師協同組合へ

TEL( 0985) 23-9100・FAX( 0985) 23-9179

ご注文は裏ページ(白衣注文書)を FAX ください

25年秋季キャンペーン

# ナガイレベン 白衣注文書

宮崎県医師協同組合 行

FAX 0985 -23 -9179

| 商品番号 | 色 | サイズ | 数 量 | 備 考 |
|------|---|-----|-----|-----|
|      |   |     |     |     |
|      |   |     |     |     |
|      |   |     |     |     |
|      |   |     |     |     |
|      |   |     |     |     |

医療機関名

注 文 者 病医院注文・個人注文( )

(○表示。個人注文はフルネームでご記入下さい)

送り先住所

TEL